

文化庁 令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業

「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する拠点交流事業」

# 委託業務成果報告書



武庫川女子大学

2025年3月

本報告書は、文化庁の委託業務として、武庫川女子大学が実施した令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する拠点交流事業」の成果を取りまとめたものです。

従って、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。

## 目 次

1. 業務概要	1
1-1. 業務題目	1
1-2. 業務の目的	1
1-3. 業務内容	1
2. 業務報告	3
2-1. 現地調査ワークショップ	3
(1) 参加メンバー	3
(2) スケジュール	3
(3) 実施報告	4
(4) 現地調査ワークショップ実施後の若手研究者対象満足度アンケート	13
2-2. アンタキヤ住民アンケート	17
(1) 調査概要	17
(2) 結果および考察	17
(3) アンタキヤ住民アンケート実施後の若手研究者対象満足度アンケート	42
2-3. 復興都市デザインスタジオ	46
(1) 参加メンバー	46
(2) スケジュール	46
(3) 実施報告	47
(4) 復興都市デザインスタジオ実施後の若手研究者対象満足度アンケート	51
2-4. アンタキヤの復興都市デザインシンポジウムの開催	55
(1) シンポジウムの概要	55
(2) 開催報告	57
(3) シンポジウムアンケート	59
2-5. アンタキヤ旧市街の復興都市デザイン提案の最終成果物	64
(1) 文化財分布図	64
(2) アンタキヤ旧市街の復興都市デザイン提案の動画	65
(3) アンタキヤの伝統的住宅建築の耐震化の提案（理想モデル）	70
2-6. 相手国の協力機関（＝バフチェシヒル大学）からの当該事業に対する所感	81
2-7. 相手国における報道等	84
(1) DHA（Demirören Haber Ajansı）デミローレン通信社	84
(2) Antakya Toplumcu Halk Gazetesi アンタキヤ新聞	88
(3) Antakya Toplumcu Halk Gazetesi アンタキヤ新聞	91
(4) Sondakika.com ソンダキカ ドット コム（ニュースポータルサイト）	95

## 1. 業務概要

### 1-1. 業務題目

トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する拠点交流事業

### 1-2. 業務の目的

2023年2月6日(月)にトルコ南東部を震央とする地震が発生し、当該地域及びその周辺地域に甚大な被害が発生した。トルコ共和国イスタンブルにあるバフチェシヒル大学の要請を受け、バフチェシヒル大学と一般交流協定を締結している武庫川女子大学から、建築構造や建築設計に詳しい教員を3人、阪神・淡路大震災を経験した神戸市から、建築指導や危機管理を担当する職員2人の計5人を、2023年4月12日(水)～4月20日(木)の日程でトルコに派遣し、建築学の観点から被災地の復興に向けての現地調査を行った。この2023年4月調査において、古代セレウコス朝シリアの首都アンティオキアであった歴史都市アンタキヤで、文化遺産である多くのモスクや教会が崩壊しており、歴史ある旧市街の町並みは壊滅状態であることが確認された。今後、アンタキヤの町が復興していくにつれて、アンタキヤ固有の歴史や文化とは全く関係のない町並みが形成されていくことが危惧される。

その後武庫川女子大学は、文化庁の令和5年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業(専門家交流)「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業」を受託した。当該事業では、2024年2月25日(日)～28日(水)にアンタキヤの現地調査を実施し、どのようにアンタキヤ旧市街の町並みを復興したら良いか、復興案のベースとなる意見書を作成した。

前述の国際貢献事業の発展的な取組として、本拠点交流事業を位置づける。日本側の拠点を武庫川女子大学建築学部・大学院建築学研究科、トルコ側の拠点をバフチェシヒル大学建築デザイン学部とし、国際貢献事業において作成した意見書をベースとして、アンタキヤ旧市街の復興都市デザインを提案する拠点交流事業を実施し、歴史的市街地の復興における都市景観形成を担うトルコ人若手研究者の人材育成を行うことを目的とする。そして本事業を通じて、「文化遺産の保護」「良好な都市景観形成」のみならず「建築物の耐震性向上」という三つの価値観の共存に対する意識を醸成し、アンタキヤはもとよりトルコ全般の歴史的市街地の復興における都市景観形成分野の発展に寄与することを目指す。

### 1-3. 業務内容

#### 1. アンタキヤの復興都市デザイン提案の作成

##### 1) 現地調査ワークショップ

【場 所】：アンタキヤ

【期 間】：2024年5月28日(火)～30日(木)

【参加者】：武庫川女子大学(2名)、バフチェシヒル大学(若手研究者2名+ムラツ・ドゥンダル教授)

【主な内容】：トルコ人若手研究者と共同で、アンタキヤの町を歩きながら被災状況や復旧状況を把握する。

## 2) アンタキヤ住民アンケート

【期 間】：2024年7月13日（土）～7月27日（土）15日間

【参加者】：武庫川女子大学（1名）、バフチェシヒル大学（若手研究者2名＋ムラツ・ドゥンダル教授）

【主な内容】：国際貢献事業において作成した意見書をもとに、アンタキヤの住民の方々を対象にアンケートを実施し、町並み復興に関する地元の要望を聞き出すことを、トルコ人若手研究者と共同で行う。

## 3) 復興都市デザインスタジオ

【場 所】：武庫川女子大学

【期 間】：2024年9月5日（木）～14日（土）10日間

【参加者】：武庫川女子大学（10名）、バフチェシヒル大学（若手研究者2名）、武庫川女子大学大学院建築学研究科修士2年生（25名）

【主な内容】：武庫川女子大学の建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）を拠点として、現地調査ワークショップやアンタキヤ住民アンケートに参加したバフチェシヒル大学のトルコ人若手研究者を招聘し、アンタキヤ旧市街の復興都市デザインの提案を共同で作成する。またトルコ人若手研究者は、期間中に日本の地震関連実験施設等の視察を行う。

## II. アンタキヤの復興都市デザインシンポジウムの開催

【場 所】：バフチェシヒル大学

【日 時】：2024年11月7日(木) 18:00～20:00

【参加者】：武庫川女子大学（3名）、バフチェシヒル大学（若手研究者＋ムラツ・ドゥンダル教授）

【主な内容】：バフチェシヒル大学にてトルコ人若手研究者と共同で復興都市デザインシンポジウムを開催する。このシンポジウムでは、現地調査ワークショップ、住民アンケート、デザインスタジオの報告を行うとともに、作成した復興都市デザインの発表を行う。

## III. 報告書の作成

上記 I、II を踏まえて、アンタキヤ旧市街の復興都市デザインの提案を含む報告書を作成する。

## 2. 業務報告

### 2-1. 現地調査ワークショップ

#### (1) 参加メンバー

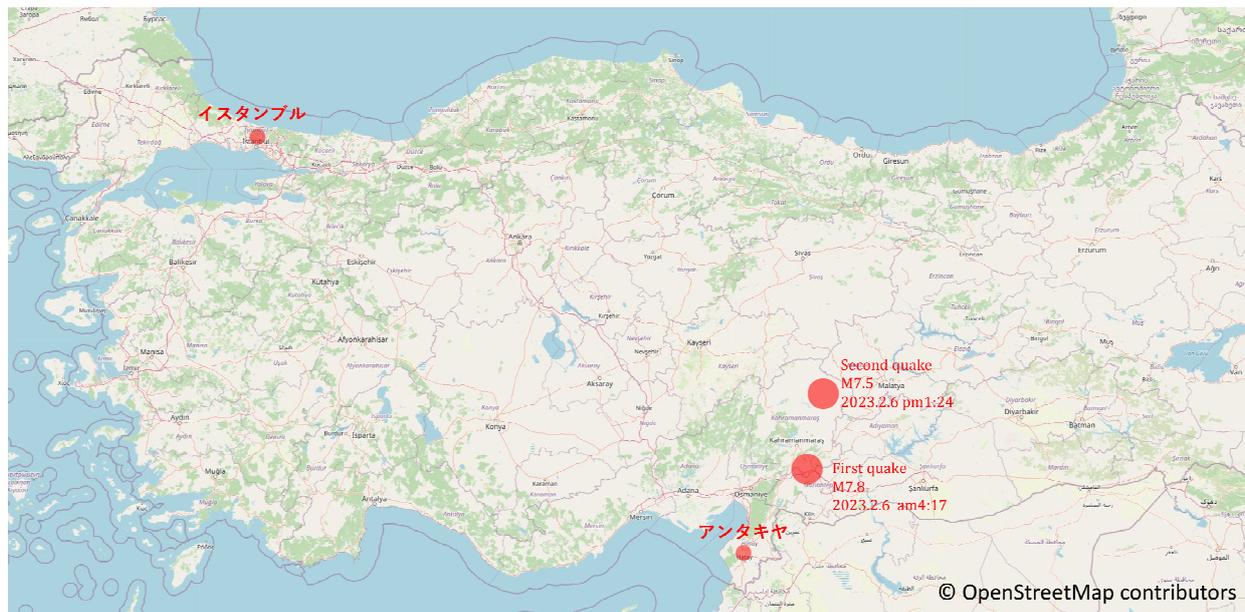
武庫川女子大学建築学部 教授	柳沢 和彦 (建築都市設計)
武庫川女子大学建築学部 教授	山本 親 (建築都市設計)
バフチェシヒル大学建築デザイン学部長 教授	ムラツ・ドゥンダル※
バフチェシヒル大学建築デザイン学部	若手研究者 2名※

※イスタンブルから参加

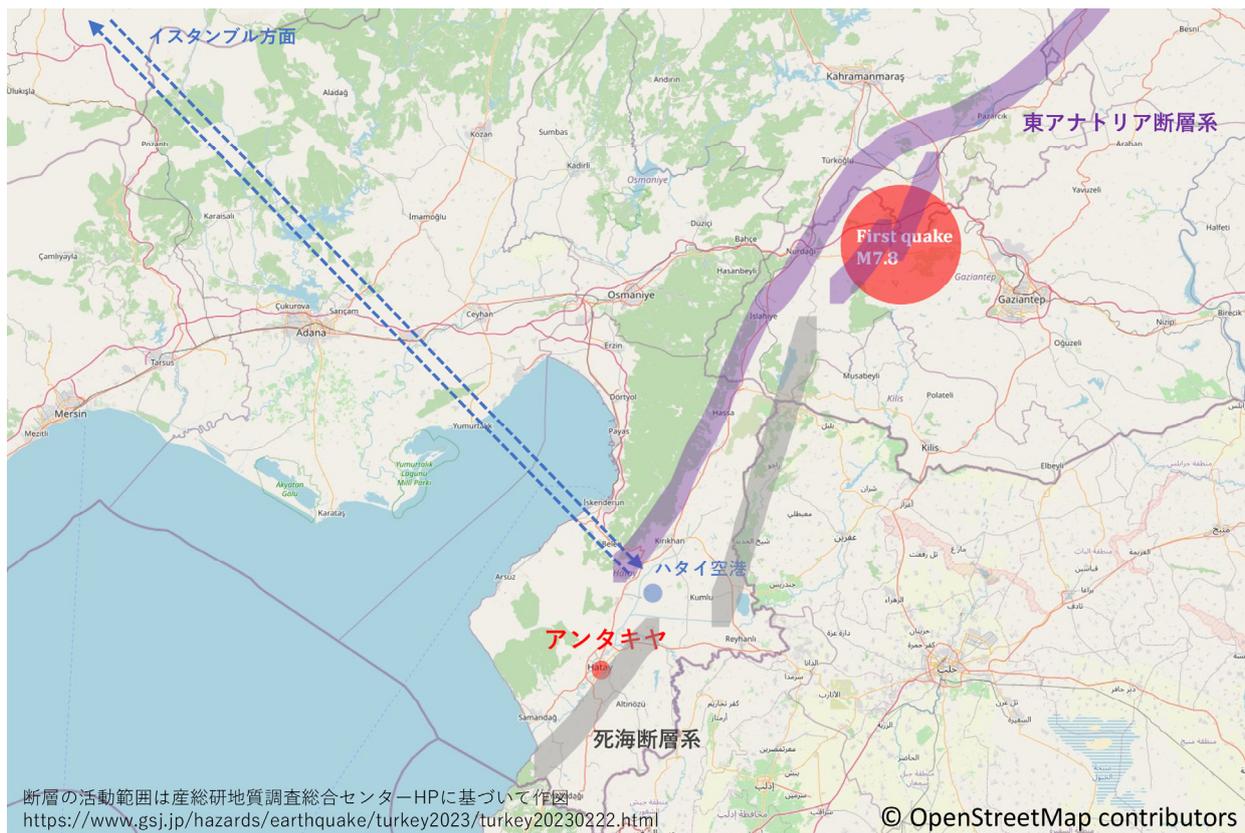
#### (2) スケジュール

月日	内容	滞在場所
5/26 (日)	日本発	
5/27 (月)	イスタンブル着 バフチェシヒル大学にて打ち合わせ	イスタンブル
5/28 (火)	バフチェシヒル大学にて打ち合わせ ハタイ県アンタキヤ地区へ移動 <b>ハタイ県アンタキヤ地区の現地調査 WS</b>	アンタキヤ
5/29 (水)	<b>ハタイ県アンタキヤ地区の現地調査 WS</b>	アンタキヤ
5/30 (木)	<b>ハタイ県アンタキヤ地区の現地調査 WS</b> イスタンブルへ移動	イスタンブル
5/31 (金)	バフチェシヒル大学にて打ち合わせ イスタンブル発	
6/1 (土)	日本着	

### (3) 実施報告



イスタンブル、アンタキヤ、および震源の位置



訪問先

イスタンブルから、復旧したハタイ空港に降り立ち、車でアンタキヤへ入った。アンタキヤで、2泊3日の日程で現地調査ワークショップを実施した。

**【現地調査ワークショップの内容】**

- ① 旧市街地の被災状況や復旧状況の全体的把握
- ② 現地写真撮影および撮影位置情報の地図上マッピング
- ③ 詳細図を入手できた文化財建造物の被災状況の把握
- ④ 地元の構造技術者に対するインタビューと建物の構造的観点からの視察
- ⑤ ドローンによる調査



ハタイ空港。空港が隆起している。



ハタイ空港。地面に亀裂が入っている。



夜のアンタキヤ旧市街の様子。手前は建物が崩壊しているため暗闇が広がる。地面が陥没しているところも多く、歩くには危険な状態であった。



建物の修復が進むクルトゥルシュ通り。



同左。



クルトゥルシュ通りの在り方について議論する。



ウズンチャルシュ（ロングバザール）。賑わいが戻ってきた。



ウズンチャルシュ復旧の様子。



ヒュリエット通りの様子。



シラフル・クヴェトゥレシュ通りの様子。



シラフル・クヴェトゥレシュ通りからサライ通りを見る。



サルミエジャーミイ。左側のミナレットは復旧中。



サルミエジャーミイ。礼拝堂の復旧は完了している。



路地空間の様子。建物がいつ崩れてもおかしくない状況。



左側は文化財建造物。  
アンタキヤには文化財建造物が数多く存在する。



トルコ人若手研究者にモルタル強度の説明を行う。



地元の方々にも同行いただき調査を行った。



瓦礫で行き止まりの路地もまだまだ多く存在する。  
右側は文化財建造物。



文化財建造物。中庭。



かつて小学校だった建物。



建物の断面構成を分析する。



詳細図を入手できた文化財建造物の被災状況の把握。



詳細図を入手できた文化財建造物の被災状況の把握。



同左。



詳細図を入手できた文化財建造物の被災状況の把握。



同左。



地元の構造技術者にインタビューをする。



地元の構造技術者が関わった住宅を視察する。



壁厚実測の様子。



石積みの実測の様子。



1940年に建てられた歴史的建造物。  
この建物の修復にも先の構造技術者が関わった。



この歴史的建造物は、カーボンファイバーで修復された。  
修復時の写真。



ドローンで撮影。正面の囲いはウルジャーミイの復旧現場。



ヒュリエット通り。左側にはギリシャ正教会の倒壊現場が見える。



サルミエジャーミイ周辺。倒壊しそうな建物が数多く存在。



手前は建物や路地が無くなってしまい、更地が広がる。奥のT字路左角にハビビネツジャーミイが見える。



トルコ人若手研究者と集合写真。

#### (4) 現地調査ワークショップ実施後の若手研究者対象満足度アンケート

##### ■ 若手研究者（女性）バフチェシヒル大学建築デザイン学部 准教授

###### Q1. How was the difficulty level of this workshop?

本ワークショップの難易度はどうでしたか？

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. very easy          | 大変易しい  |
| 2. easy               | 易しい    |
| <b>3. just right</b>  | ちょうど良い |
| 4. slightly difficult | やや難しい  |
| 5. very difficult     | 非常に難しい |

###### Q2. How was the length of this workshop?

本ワークショップの時間の長さはどうでしたか？

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 1. too short         | 短すぎる   |
| 2. slightly short    | やや短い   |
| <b>3. just right</b> | ちょうど良い |
| 4. slightly long     | やや長い   |
| 5. too long          | 長すぎる   |

###### Q3. How was the content of this workshop?

本ワークショップの内容はどうでしたか？

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| <b>1. very good</b> | 大変良い  |
| 2. good             | 良い    |
| 3. neutral          | 普通    |
| 4. slightly bad     | やや悪い  |
| 5. very bad         | かなり悪い |

###### Q4. Were you satisfied with the content of this workshop?

本ワークショップの内容に満足しましたか？

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| <b>1. very satisfied</b> | 非常に満足 |
| 2. satisfied             | 満足    |
| 3. neutral               | 普通    |
| 4. slightly dissatisfied | やや不満  |
| 5. very dissatisfied     | かなり不満 |

**Q5. Do you think the content of this workshop will be useful for the protection, preservation, and utilization of your country's cultural heritage?**

本ワークショップの内容が自国の文化遺産の保護・保存・活用に役立つと思いますか？

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| <b>1. I strongly think so.</b> | 非常にそう思う |
| 2. I think so.                 | 思う      |
| 3. I'm neutral.                | どちらでもない |
| 4. I don't really think so.    | あまり思わない |
| 5. I don't think so at all.    | 全く思わない  |

**Q1. How was the difficulty level of this workshop?**

本ワークショップの難易度はどうでしたか？

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. very easy          | 大変易しい  |
| 2. easy               | 易しい    |
| 3. <b>just right</b>  | ちょうど良い |
| 4. slightly difficult | やや難しい  |
| 5. very difficult     | 非常に難しい |

**Q2. How was the length of this workshop?**

本ワークショップの時間の長さはどうでしたか？

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 1. too short         | 短すぎる   |
| 2. slightly short    | やや短い   |
| 3. <b>just right</b> | ちょうど良い |
| 4. slightly long     | やや長い   |
| 5. too long          | 長すぎる   |

**Q3. How was the content of this workshop?**

本ワークショップの内容はどうでしたか？

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. <b>very good</b> | 大変良い  |
| 2. good             | 良い    |
| 3. neutral          | 普通    |
| 4. slightly bad     | やや悪い  |
| 5. very bad         | かなり悪い |

**Q4. Were you satisfied with the content of this workshop?**

本ワークショップの内容に満足しましたか？

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1. <b>very satisfied</b> | 非常に満足 |
| 2. satisfied             | 満足    |
| 3. neutral               | 普通    |
| 4. slightly dissatisfied | やや不満  |
| 5. very dissatisfied     | かなり不満 |

**Q5. Do you think the content of this workshop will be useful for the protection, preservation, and utilization of your country's cultural heritage?**

本ワークショップの内容が自国の文化遺産の保護・保存・活用に役立つと思いますか？

- |                             |         |
|-----------------------------|---------|
| 1. I strongly think so.     | 非常にそう思う |
| 2. I think so.              | 思う      |
| 3. I'm neutral.             | どちらでもない |
| 4. I don't really think so. | あまり思わない |
| 5. I don't think so at all. | 全く思わない  |

## 2-2. アンタキヤ住民アンケート

### (1) 調査概要

調査期間：2024年7月13日（土）～7月27日（土）15日間

調査方法：Microsoft Forms による Web アンケート

回答者数：434人

#### 【実施メンバー】

武庫川女子大学建築学部 教授

柳沢 和彦（建築都市設計）

バフチェシヒル大学建築デザイン学部長 教授

ムラツ・ドゥンダル

バフチェシヒル大学建築デザイン学部

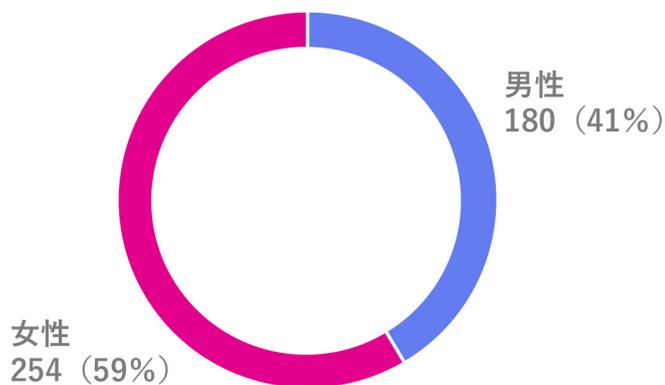
若手研究者2名※

※若手研究者2名は現地調査ワークショップにも参加した。

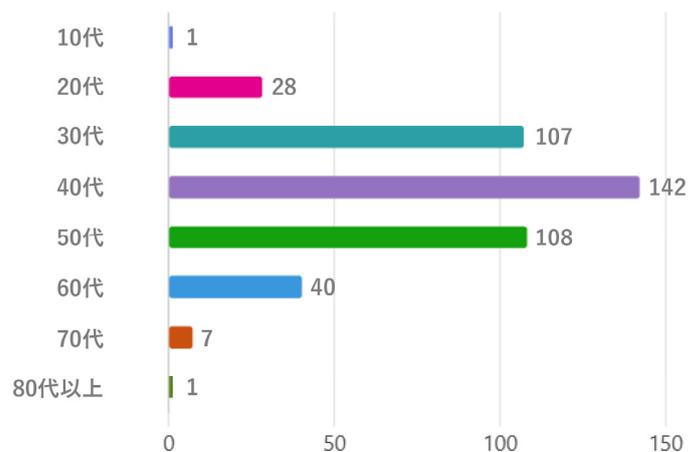
### (2) 結果および考察

※以下、単位が無い数字は度数を示す。

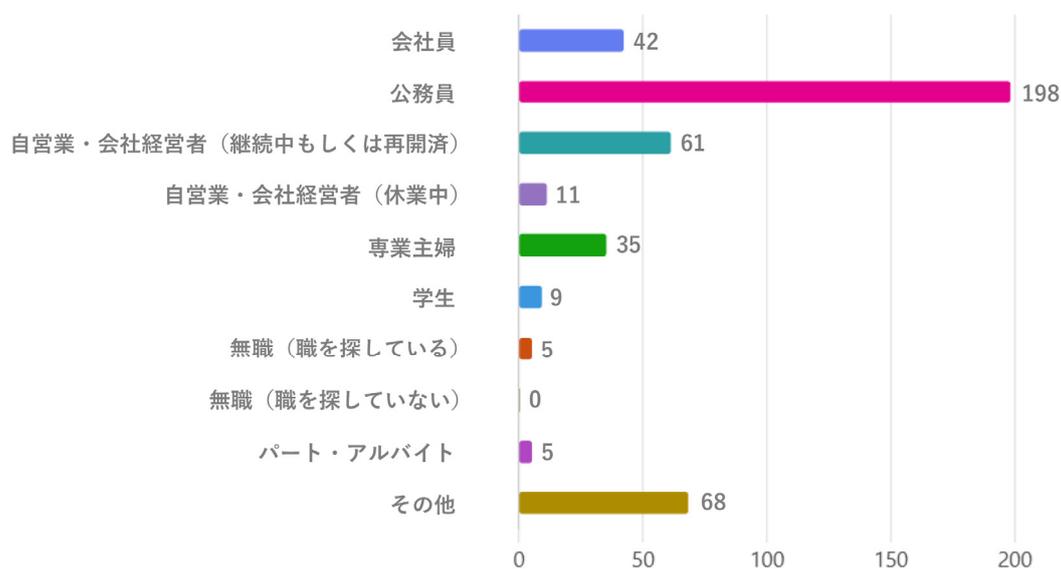
問1. あなたの性別を教えてください。



問2. あなたの年齢を教えてください。



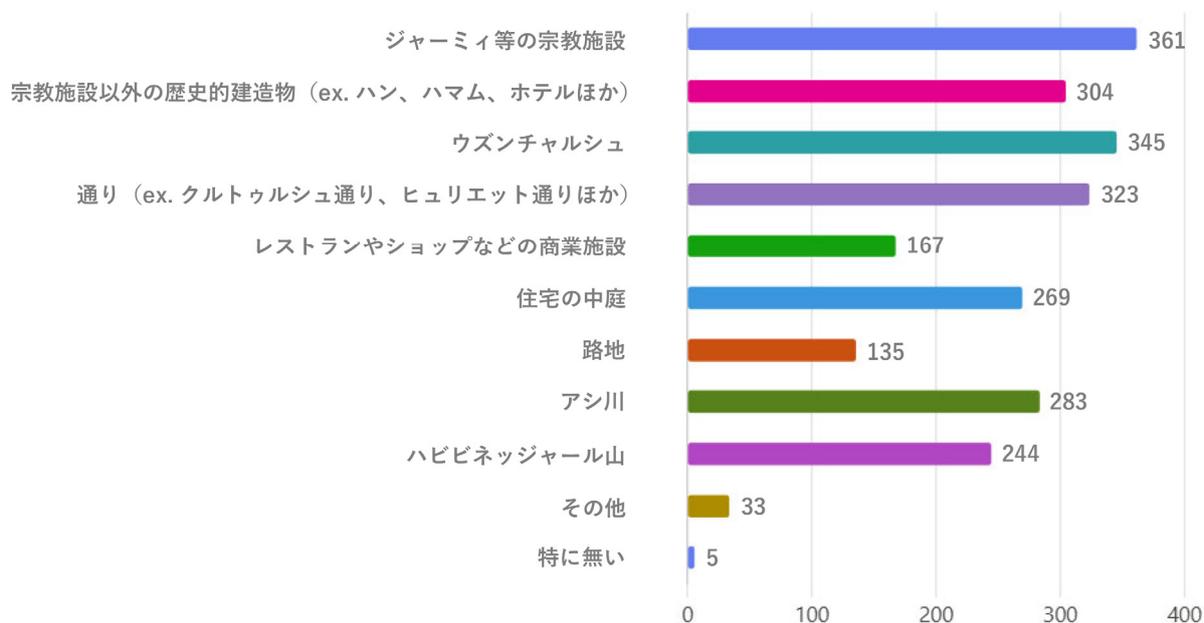
問3. 現在のあなたの職業を教えてください。



【考察】

地震後、地元に残って働いているのは公務員が多いため、回答者も公務員が多くなっている。一般の方々の多くは地震後に他の町へ移動しており、その多くはまだ戻ってきていない。

問4. アンタキヤ旧市街の建物や都市空間について、あなたが魅力的だと思うところはどこですか。次の中から選んでください（複数可）。

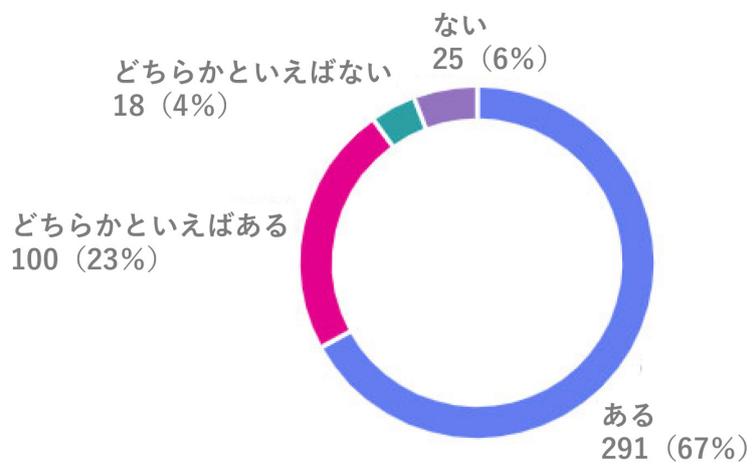


#### 【考察】

「ジャーミイ等の宗教施設」から「ハビビネツジャール山」まで幅広い回答が得られた。その中で「レストランやショップなどの商業施設」の数が比較的少ない。一方で、同じ商業施設のイメージが強いと思われる「ウズンチャルシュ」（＝ロングバザール）や「通り（ex. クルトウルシュ通り、ヒュリエット通りほか）」の数は多い。アンタキヤ旧市街の魅力は、単に商業施設にあるのではなく、商業施設がたくさん集まってできた集合体に比重があることを示唆している。

また「路地」の数もそれほど多くはない。これはトルコ語で「Geçitler」と訳したのだが、「Geçitler」は多様な意味があるので、「路地」のイメージが正確に伝わらなかった可能性がある。

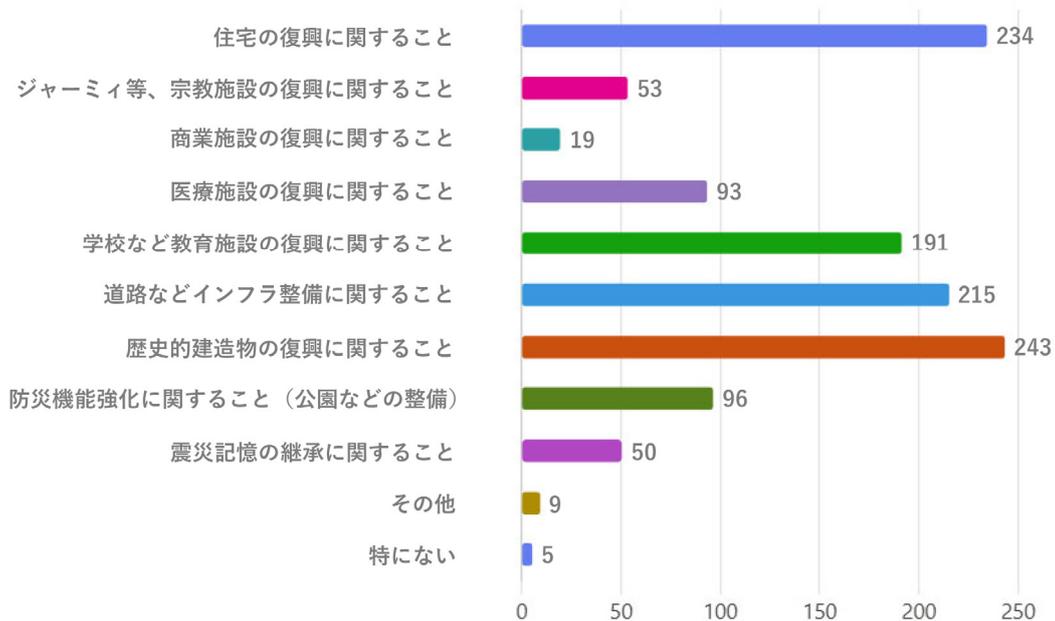
問5. アンタキヤ旧市街の町並み復興に関心はありますか。



【考察】

「ある」「どちらかといえばある」をあわせると 391 (90%) となり、多くの住民がアンタキヤ旧市街の町並み復興に関心があることがわかる。

問6. アンタキヤ旧市街の復興について、あなたが関心を持っていることは何ですか。次の中から選んでください（最大3つ）。



【考察】

「歴史的建造物の復興」「住宅の復興」「道路などインフラ整備」「学校など教育施設の復興」が特に多い。選択肢が最大3つという条件を課しているため、これらが住民にとって優先度の高い課題であることが伺われる。

「歴史的建造物の復興」が最も多いのは、アンタキヤならではの結果であろう。一方で「ジャーミイ等、宗教施設の復興」は少ないが、これは選択肢が最大3つという条件のため、「歴史的建造物の復興」の回答の中に吸収されている可能性がある。

「学校など教育施設の復興」が多いが、これは住民が別の町に移動して子供たちが少なくなり、最近まで多くの教育施設の活動がストップしていたことが影響していると思われる。

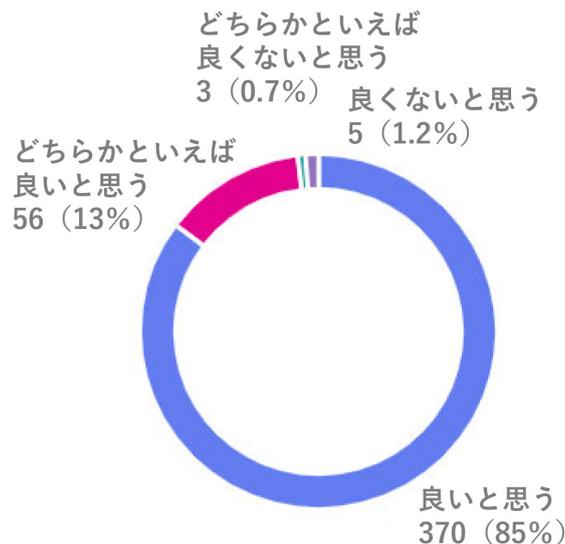
「医療施設の復興」が比較的少なく、さらに「商業施設の復興」も非常に少ないが、これらは既に、サービスがある程度提供されていることが影響しているのではないかとと思われる。

また「防災機能強化」や「震災記憶の継承」が比較的少ない。「歴史的建造物の復興」の意識が高い一方で、防災意識があまり高くないことが伺われる。

問7. 武庫川女子大学建築学部がバフチェシヒル大学建築デザイン学部と共同で作成した、下記の「アンタキヤ旧市街の町並み復興に向けての9つの提案」について、どう思われますか。

「アンタキヤ旧市街の町並み復興に向けての9つの提案」

- ①アンタキヤの町並みの伝統やアイデンティティを継承しつつ、地震に強いまちづくりを目指す。
- ②中庭や路地空間を大切にする。
- ③伝統的な材料（石、木、瓦など）を大切にする。
- ④地元の建築家の意見を大切にする。
- ⑤通りに面する両側町並みの連続性を大切にする。
- ⑥川や山がある景観を大切にする。
- ⑦ミナレットやドームによるスカイラインを大切にする。
- ⑧建物のスケールを大切にする。
- ⑨ウォーカブルな町を目指す。



【考察】

「良いと思う」「どちらかといえば良いと思う」をあわせると426（98%）となり、「アンタキヤ旧市街の町並み復興に向けての9つの提案」は多くの住民から賛同を得たと言える。この9つの提案を踏まえて、アンタキヤ旧市街の復興都市デザインの提案を作成していく。

※「アンタキヤ旧市街の町並み復興に向けての9つの提案」については下記の報告書を参照のこと。

文化庁 令和5年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）

「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業」報告書

[https://itcs.mukogawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/Report\\_Mukogawa\\_Agency-for-Cultural-Affairs\\_202403.pdf](https://itcs.mukogawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/Report_Mukogawa_Agency-for-Cultural-Affairs_202403.pdf)

問 8. これからアンタキヤ旧市街はどのような町になってほしいと思いますか。もしご意見があればお書きください。

(221 人から意見をいただいた。まず最初にトルコ語のオリジナル回答を掲載し、その後、和訳を掲載する。)

- Tum dünyada duyulup ziyaret edilecek bir yer olmalı
- Tarihsel ve kültürel dokusunun korunması gerekir
- Eski ruhunu yakalayabilecek bir niteliği olmasını isterim. Yeni ve farklı bir yapılaşma istemem.
- Teşekkürler
- Geçmişten deprem öncesine kadar tüm kendine has dokusu adetleri ve samimiyetini korumuş Antakya mı isterim
- Hatay'da tek temennim tüm yapıların Raylı sistem olmasıdır. Memeleketimize geri dönüp güvenli bir şekilde yaşamak.Saygılarımla.
- Depreme uygun tarihi doku korunmuş ve eski ruhu aynen yansıtılmış bir Antakya
- Antakya tarihi kent dokusu olan bölgelerin trafiğe kapalı bir oldtown konseptiyle toparlanmasını ve yeniden canlandırılmasını isterdim. Özellikle kurtuluş caddesinin, saray caddesinin bu şekilde yapılabdırılması bayağı dikkat çekici olur. Ve etrafına da modern bir şehir (ulaşım, alt yapı, yol vb) ile inşaa edilmiş yepyeni bir kent
- Eski dokusuna sahip olmasını isterim
- Kent dokusuna zarar vermeden temiz ve alt yapısı sağlam, depreme dayanıklı konutlar ve işyerleri olmasını isterim.
- Antakya tarihi kent dokusunun aslına uygun bir şekilde restore edilerek bir çekim noktası haline gelmesini ve şehrin kalanının da eski Antakyanın yapı tipolojisi (avlu, cephe vb mimari öğeler) göz önünde bulundurularak geliştirilmesini isterim. Eğer master plan ölçeğinde bir çalışma yapılmadan, binalar yapılmaya başlanırsa belki depreme dayanıklı bir kent yaratılır fakat eski Antakya ile bir ilişki kurulamaz ve kopukluk olur. Önce master ölçekte şehrin planlanmasını ve bu sırada tarihi cadde ve sokakların da belirleyici rol oynamasını tercih ederim.
- Eskisiyle neredeyse birebir aynı ama sağlam inşa edilmesini isterim
- İnsanların mahallelerinde eski komşu akraba ve tanıdikleriyle birlikte yaşama hakkı her zaman gozetilmelidir. Çarşıda eski esnaf ruhu korunmalıdır. Modern bir tarihi kent merkezi yerine, özünü koruyan bir kent merkezi inşaa edilmelidir. Antakya sokaklarındaki tescilli yapılar şehrin sembolleriydi ve şehre değer katıyordu ama Antakya halkı tarihi kent merkezindeki geleneksel yapı olarak tarif edilen yerlerde yaşamını devam ettiriyordu. Bu nedenle Antakya nın tarihi kent merkezi inşaa edilirken geleneksel yapılara da gereken önem verilmelidir.
- Modern çağın gerektirdiği düzen ama tarihi kimlikli bir kent olmasını dilerim
- Avlulara ve sokak aralarına değer verilmesi ,yürülünebilir bir şehir olması
- Otantik ve modern
- Tarihi dokusuna sadık kalmak şartı ile daha dayanıklı yapılar yapılması ve eski dokunun korunması bence çok önemli.
- Öncelikle eski Antakya ve yeşil alan istiyoruz
- Öncelikle yapıların depreme dayanıklı zemin etüdünün ve yapı analizlerinin bir daha bu derece yıkıcı olmayacak şekilde yapıların inşaa edilmesi
- Tarihi dokuyu bozmayacak şekilde depreme dayanıklı binaların yapılmasını isterim.önerim yerel halktan oluşan kurumlara birlikte çalışılması tarihi dokunun yapılandırılması açısından çok önemli teşekkürler
- daha önce de yeteri kadar kıymet gördüğünü düşünmüyordum elimizde kalan dokuya daha özen göstermemiz ve gereken kıymetin bilmesini isterim

- Narlıca bölgesinden itibaren dağ yamacında bulunan bütün gecekondu bölgesinin rezerv alan ilan edilerek tarihi Antakya kentinin çevresinin de yeniden inşa edilmesini öneriyorum.
- İtalya Roma gibi bir şehir yapısı
- Şehrimizin tarihi dokusunun yeniden inşa edilmesi gerektiğini ve burada,sadece turistik amaçlı değil, eskisi gibi hayatın bütün canlılığıyla devam ettiği bir düzen oluşturulmalı diye düşünüyorum.
- Antakya başlı başına zaten tarih hatayımızın daha iyi inşa edilerek sağlam temeller atmak .
- Sembol olan yerlerin korunması, raylı sistemlerin ulaşımında kent içerisindeki trafik karmaşasını bitirmesini, yaşam alanlarının gerçekten güzel ve etkili kullanabilmesi isterim. Eski Antakya soklarının yine cafeler, restoranlar, etkinlik alanları, sosyal ve kültürel derneklerin yaşayabildiği mozaik dokunun korunduğu dünyaya örnek bir yaşam alanı olmasını isterim.
- İnşallah eski dokuyu yakalarız.. şehirle bitmiyor,giden insanları geri getirmek lazım.. esas kültür taşıyıcıları onlar
- Antakyamın eski hali çok güzeldi zaten ona benzesin ya da en azından yakın bir şeyler olsun isterim.
- Eskisi gibi
- Özüne ve özüne kadim ruhuna uygun yeniden inşa edilmesi.
- Yeniden inşa edilmiş avrupa tipi ama depreme dayanıklı evler...
- Antalyanın geçmiş ve geleceği arasında köprü olması.
- Geçmişteki dokusundan hiçbir şey kaybetmemesini istiyorum. Depremle uzaklaşan farklı kimlik ve kültürdeki insanların yeniden şehre dönmesi sağlanmalı. Çünkü binaları geri getirebilirsiniz ancak insanları getiremeyebilirsiniz.
- geçmiş tarihini ve kültürünü yeniden yasatacak bir şehir olmasını isterim
- Geçmişte nasılsa günümüzde aynı olmasını isterim
- Eski dokusunu ve kokusunu istiyorum
- Eski Tarihi kent dokusu bozulmadan ,şehir merkezindeki eskisi gibi carpiik yapılaşma olmadan sağlam düzenli temiz güvenilir ve yaşanabilir bir şehir olmasını isterim
- Tamamen aslına uygun restore edilmiş ve yayalaştırılmış bir doku olması gerekir.
- Medeniyetler şehrine yakışır şekilde tarihi kent dokusunun eskisi gibi olmasını isterim
- Eskiyle ilişkili aynı zamanda geleceğe de ilham veren bir bakış açısıyla şekillendirilmelidir. Yüksek binalardan ziyade daha az katlı yeşil alanları olan eski Antakya evlerine uygun şekilde tasarlanan Kurtuluş caddesi ve Saray caddesi muhakkak olmalı.
- Eskisi gibi
- Eski kimliği kazandırılarak tarihi bir kent olduğunun diğer kuşaklara aktarılması Yolları, binaları, alt yapısı, konutları vb. ile tarihi kent dokusunu bütünleştiren, yaşayanların mutlu kılan bir Antakya.
- Eskiyle yeni birleşimi daha sağlam güçlü ama kendi doğasından uzaklaşmadan inşa edilmesini doğallık ,sadelikle beraber modern bir görünüm olmasını isterim .
- Düzenli, estetik bir yer olmalı
- Aslına uygun bir şekilde inşa edilmesini istiyorum
- Bu şehrin rüzgarına ve doğal dokusuna yönelik binalar yapılmalı ,hazir fırsat varken belki tüm şehirlere örnek olur
- Eski haline yakın Antakya nın kültürel dokusunu yansıtan şekilde olmalı
- Binalar az katlı ve depreme dayanıklı, yeterli sayıda ve alanda yeşil alan park, dini mekanların gösterişten uzak sade yapılması, yeterli sağlık kurumu binaları oluşturulması,
- Aynısının çevre düzeni sağlanmış hali,
- Eskiye uygun

- Tekrar yıkılma ihtimali olan tarihi binalar için boşuna masraf yapılmasın.Yine insanların ölmesine sebep olur.Tarihi doku bir yere kadar tamam ama günün şartlarına uygun modern ve sağlam , yolları geniş şehir kurulsun. Raylı sistemle ulaşım kurulsun.Tarihi doku diye diye şehrin modernleşmesi gecikir.Çürümüş binalar ortadan kaldırılınsın.Çok yüksek binalar ,aşırı dar ve yüksek kaldırımlar olmasın.Kaldırımlar geniş ve aynı yükseklikte olsun yollar da çok yetersiz.
- Altyapı ve sağlık problemlerinin çözülüp standartların karşılandığı, insanların yeniden o tarihi dokuyu hissedebildiği güvenli bir şehir olmasını dilerdim.
- Turizm konusunda cazibe merkezi olan bol doğal güzellikle yeşil bir şehir olmasını isterim.
- Kent merkezi aslına uygun, konutlar ve ticari yerler modern ve tümü doğal afetlere dirençli olabilmeli...
- Asi nehrinin etrafı ve şehir merkezi tamamen doğal yeşil alan ve parklar olarak bırakılıp yerleşim ve iş alanları yeni yerleşim yerlerinde yapılmalı.uzun çarşı ve çevresindeki han hamam ve ibadethaneler aslına uygun olarak yeniden yapılmalı.
- Aynı şekilde tarihi dokunun korunmasını isterim.
- Orijinale sadık kalarak yenilenmesi
- Kalabalıktan uzak, yerli halktan oluşan sakin bir yer. Kalabalık olursa hoşgörü gider, şehir kültürü yok olur, şehir bina yığınları ile çevrelenir. Bu nedenle yüksek katlı binalar yerine az katlı sadece bölge halkına yetecek evler olmalı.
- Yok
- Binlerce yıl önce yontulmuş bir mağara bir taş dikilmiş bir zeytin gördüğümde bu işi yapanları içimde hissederim. Hangi duygularla taşa vurduğunu bir işi nasıl bu kadar düzgün yaptığını...binlerce yıl sonra kopardığım meyvelirini alıp zeytini diken adama al bin yıl sonra senin ağacından kopardığım meyveler bunlar demek istiyorum. Tarih önemli ancak şu anki insanlarımızın ihtiyaçları daha acil. Tarihe bırakılacak deprem anıtı çalışmamız olacak ise hiç bir maddi beklentim olmadan bu çalışmada yer almak isterim.
- Eski hali gibi olmasını kültürel dokunun aynı şekilde korunmasını istiyorum. Sokaklar daha geniş ve yeşillendirilmiş olursa daha sağlıklı bir şehircilik olur.
- Antakya tarihini kendine karteriz almış bir yapıda insana doğaya hayvana saygılı bir mimari, estetik kaygıların gözetildiği tarih ve moderni yeşil ile mimariyi iç içe var eden bir doku olmalı. Eski Antakya diye tabir edilen bölgenin ivedilikle yeniden hayata geçirilmesi, asi nehri boyunca yeşil alanların kurulması, Antakya merkez civarının bir an önce ayağa kalkması hepimiz için soluk aldıracak bir durumdur
- Şehrin tarihi kent dokusunun ana çizgilerini kaybetmeden aslına uygun, bir yapılanma olmasını isterim.
- apartman gibi yüksek binaların olmadığı , tarihi mimari yapılara benzer ama sağlam , depreme dayanıklı avlulu dar sokakların tekrar kurulması gerektiğini düşünüyorum . Birileri yine apartmanları dikip şehrin silüetini bozmaya çalışmasın .
- Eskisinden daha iyi dokuya alt yapıya ulaşma sahip olması ve bunların gözle görülür şekilde başlaması memleketimizi bu şekilde görmek ve yılların süreceğini bilmek bizi umutsuzluğa düşürüyor, lütfen artık anketlerden ötesine geçip çalışmalara başlatın bu mesele tüm TÜRKİYE'nin meselesidir, SEVGİ VE SELAMLAR!...
- Eski yapısının korunarak inşa edilmesini
- Eski yapısı olabildiğince yeniden yansıtılması
- Antakya tarihi kent dokusunun depremden önceki haline en yakın şekliyle yapılandırılmasını istiyorum.
- Eskisi gibi farklı dinlerin birleştiği bir yer olmasını isterdim
- Eskisini aratmayacak ve eskisinden daha iyi korunabilecek, temeli sağlam
- Eskisi gibi olsun yeter
- Tarih ve modern yapılar iç içe olabilir ayrıştırılmadan mesela çok işlek bir caddenin sonu harika bir camiye veya kiliseye çıkabilir
- Depremden önceki gibi

- Tabiki güzel bir yer olmasını istiyorum.Gereken ilgi ve alaka verilirse zaten olacaktır diye düşünüyorum.
- Eski antakyanın bir daha inşa edilmesini isterim
- Eskisi gibi olsun hatıralar tamamen yok olmasın
- İyi olmasını istiyorum. Çünkü iyilik iyidir.
- Burada yaşamaya devam eden insanlar olarak eski haline en yakın şekilde olmasını isterim.Meclis binasının , eski Antakya evlerinin , saray caddesinin, camilerin , kiliselerin her şeyin eskisi gibi olmasa da eskiye en yakın olmasını isterim.
- Eski hali
- Tarihi yapıların birebir aslına uygun yapılmasını ve çarpık kentleşme sorununun çözülmesini diliyorum
- Eski antakya sokaklarının tekrar inşa edilebilmesini çok isterdim saray caddesi kurtuluş caddesi uzun çarşı antakya nın simgesi olacak kader önemliydi
- Tarihi ve sosyal tesislerin şehrin medeniyetini yansıtan dokunun bozulmamasına özen gösterilmeli şehrin yenden canlanmasına katkı sunulmalıdır.
- Eğitimi tarihi ve kültürü öne alan geniş caddeli bir şehir inşaa edilmelidir.
- Hazır tamamen yıkılmışken eski dağınık şehir görüntüsü yerine tarihi doku korunarak daha düzenli, kullanışlı ve daha çok nefes alacak yerlere daha fazla yer verilmesi gerek.
- Antakya bizim bildiğimiz şehir olmalı yeni bir şehir istemiyoruz
- Yeşil alanların bol olduğu, eski dokunun yenilik ve sağlamlıkla buluştuğu ve demografik yapının korunduğu bir Antakya istiyoruz
- Tarihi alanlarını kimliklerinin korunması ve depreme dayanıklı imar edilmemesi
- Eski kent dokusunun yeniden vücuda getirilmesi, bu yapılırken çok yetersiz olan yollarımızın genişletilmesi, alt-üst geçitlerle yolların takviye edilerek rahatlatılması en çok iatediklerimizden bazıları.
- Depreme dayanıklı ve planlı bir şehir olsun.Otoparkları,alt ve üst geçitleri, metrosu olsun.
- Turizme ve tarihe önem verilmesi
- "Eski kültürünü bozmadan bina,cami,kilise ve hamam gibi yapıların bozulmadan yeni ortaya çıkan tarihi eserlerinde memleketime kazandırılmasını istiyorum "
- Eski tarihi mimarisinin korunarak. Daha dayanıklı düzenli şekilde tekrar inşa edilmesi
- Eski günleri e bir an önce dönmesi
- Dokusuna bozulmadan tekrar ayağa kalkması
- Eskiye andirsın yerli halk geri gelsin
- Eski haline gelmesini
- Özetle tarihi değerlerini bilen, sahip çıkan, örnek olan bir halk için öncelikle erkin buna değer verdiğini göstermesi lazım. Yıllardır kuru bilgiden ileriye geçemeyen ve dibinde yaşadığı yeri kulaktan dolma bilgilerle öğrenen insanları değiştirmek için akılcıl, özgün bir çalışma ortaya koymak lazım. Yerel mimarlar, yerel halkın ileri gelen entelektüellerini dinleyerek turist kentten ziyade turizmi ile içselleşmiş bir kent yaratılabilir. Şehri planlarken rüzgar, koku, ses, güneş, manzara, alt yapı, toplu ulaşım, lojistik, kaldırımlar, yaya ve bisiklet yolları, parklar vs düşünülerek inşa edilirse -kent dokusu tümünden bozulmadan da yapılabileceğine inanıyorum- Roma Viyana gibi şehirlerle aynı kategoride kıyaslanacağına inanıyorum.
- Özellikle Antakya'nın simgelerinden biri olan eski Antakya sokakları ve evlerinin yeniden inşasının dokusuna uygun yapılması gerekiyor. Meclis köprü uzun çarşı saray caddesini saran alanın yerlesime kapatılması tamamen kültür sanat turizm yeşil alan çocuk parkı gibi alanları için kullanılmasi elzemdir
- Kendine özgü dokusu bozulmamış olsun

- Geçmişini anlatan bir kent olmalı.
- Restorasyon çalışmaları emin ellerde olmalı
- Gelecekte Antakya'nın Asi ye giden kollarına nehirlerine tarım ovalarına evler yapılmamış, bol bol ağaçlandırılmış kesilen her zeytin ağaçları yerine yenisi ekilmiş çorak olmayan yeşilliği bol , tarihi dokularımızın restore edilmiş eski halini almış bir şehir olarak görmek istiyoruz
- Eskinin izini taşıyarak depreme dayanıklı ve zarif bir şekilde olmasını isterim.
- Depremden önceki haline döneceği hakkında hepimizin endişesi var ama gönül ister ki tüm tarihi yapıları işini gerçekten ciddiye alan restorasyon konusunda tecrübeli mimarlar tarafından aslına uygun olarak projesinin yapılarak usta eller tarafından hayata geçirilmesidir.
- Yeryüzündeki tüm tarihi dokunun ortaya çıkarılarak bir arkeoloji şehri haline gelmesini istiyorum. Ancak bu yapılırken vatandaşların hak ve hukuku korunmalı
- "Eski hali gayet iyiydi.Begenmefigimiz tek yönü pis olmasındı. İnsanlar Antakya'yı çok kötü kullanıyorlardı.Temizliğe önem verilmiyordu. Gereken önem hiçbir zaman verilmedi."
- "Bütün kültürlerin korunduğu, (özellikle yemek) bir yer olmasını isterim."
- Yolların genişlemesi alt yapı
- Her konuda temiz yaşanabilir bir kent olmasını öneriyorum
- Tarihi doku olduğu gibi kalmalı
- Tarihi bir film mekanında yaşıyor gibi olmasını isterim.
- Dilerim eskisi gibi tarih kokan detaylar barındıran ve o mistik havayı yeniden hissettirecek bir mimari olur
- Depreme dayanıklı ve eski kültürel dokuyu yansıtacak tarzda olmasını dilerim. İyi çalışmalar dilerim.
- Eski tarihi dokunun yaşatılmasını istiyorum. Orada çocukluğum geçti. Oradan ayrılmış başka şehirlere yerleşen insanların tekrar dönebilmeleri için yaşanılır hale getirilmesi gerekiyor. İlginiz için teşekkür ederim.
- Eskisinden daha iyi
- Çok iyi mimarların bir araya gelerek şehri rantçılara bırakmadan yine tarihi bir görüntüsü olan, tabiki tüm deprem yönetmeliklerine uygun, tek bölgeye toplanılmayan daha uzun arazilere duzgunce yayılmış, bununla birlikte metro ya da metrosu olan, tüm Türkiye'ye örnek olacak bir şehir inşa etmelerini isterim.
- Tarihi yerleşim alanlarında, antakyanın binlerce yıllık geçmişini ortaya koyabilecek bir kaç katmanlı kazılar yapılmalı ve eserler yerinde sergilenmeli.
- Kozmopolit yapısının bozulmadığı, güvenli, yürüme alanlarının ve sosyalleşme in mümkün olduğu, şehrin tarihi değerlerinin korunduğu bir yer olmasını isterim.
- Daha çok yeşil alan ve en fazla 2 katlı bahçeli evleri olsun istiyorum
- Eski yapıların ve mimari anlayışın korunması gerekli. Yeni şehir anlayışının eski duruma uygun yapılması gerektiğini düşünüyorum.
- Eski dokusu yeniden inşa edilmeli.
- Antakya hakkettiği tarihi değere kavusmalı tekrar. Depreme dayanıklı yapılar yapılmalı, kentin peyzajına önem verilmeli, tarihi yerler tekrar eski haline getirilmeli, turizm canlandırılmalı diye düşünüyorum..Antakya dünya çapında önemli tarihi bir kent ve bunu hak ediyor..Gastronomi şehri olarak da görevini devam ettirmelidir.
- Tek isteğim her şey eskisi gibi olsun
- Eskiye ve yeniye birarada yaşayabileceğimiz şekilde olmalı.

- medeniyetler şehri cennetten bi köşe
- Betonsuz ve tarihi dokuları koruyarak benzeri gibi Safranbolu olabilir.
- Eskisi gibi
- Tarihi tüm yapıların yeniden ve depreme dayanıklı yapılması öncelik olmalı.inşa edilecek yeni kentinde bu dokuyla bütün olması dileğiyle...
- Yatay mimariye sahip, eski dokusunun korunması ve tarihi binalara zarar vermeden bir mimari olmalı
- Antakya'yı Antakya yapan yapıların orijinal halleriyle eskisi gibi geleceğe taşınması.
- Eskisine benzemesi
- Dayanıklı ve eski ruhunu yaşatan
- Tarihi kent dokusunun korunması ama korunurkende yolların ve alt yapımında iyileştirilmesi gerekiyor. Asi nehrinin temizlenerek kanalizasyon sularından arındırılması gerekiyor.Demir yollarının yapılması ulaşımı kolaylastıracaktır
- Eski kentimizin aynısının daha sağlam, daha bakımlı, geniş cadde ve kaldırımlı bol parkli yenilenmiş hali
- Eskisi gibi
- Eskisinden daha güçlü olmasını istiyorum
- İnsanımı ve kültürünü koruyan sahip olduklarıyla dünyaya örnek bir kent olmasını hayal ediyorum.
- Bu yıkımı yaşayan ve Hatay'ı terk etmeyen insanların eski yaşam tarzına kavuşması, insanca yaşanacak bir şehrin en kısa zamanda kurulması
- Eskisi gibi ama cadde ve sokaklar geniş olmalı
- Turizm potansiyeli olarak inanılmaz bi bölgede yaşıyoruz. Bence şehrin belli bölümlerinin açık hava müzesine dönüştürülmesi gerekmekte. Suana kadar konuştuklarımız hep şehrin üstünü Eski haline getirmekle ilgili. Bizden önce yaşayan ve yaşanılanlar bizden çok daha güçlü. Toprak altındaki yapılara daha çok önem vermemiz gerekiyor
- Alışık olduğumuz deprem öncesi silüetine olabildiğince yakın ve özel gereksinimli çocuk pusetiyle hareket etmeyi mümkün kılacak şekilde yenileme ve iyileştirmelerin yapıldığı bir yer olmasını isterim.
- Antakya tarihi ile turistik bir şehirdir tarihi doku korunmazsa şehir büyük kayıp yaşar . Tanıdıklara değil iş bilenlere görev vermek birincil gereklilik
- Asrın Felaketinde yıkılan memleketimizin biran önce toparlanıp düzelmesi dileğiyle
- Anılarımız bile yok oldu.Geçmiştekine yakın bir görünüm olmasını ve şehrin kültürel ve tarihi dokusunu anımsatacak şekilde olmasını isterim.
- Tarihi yerleri ve sokakları eski orjinal halı en yakın şekilde inşa edilmeli ve şehrin eski ruhu yaşıtılmalı.
- Eski özellikleri korunarak yenilenmeli ve depreme dayanıklı biçimde yapılmalıdır.
- Tarihi dokuların yerinde olması
- Tarihte çok acılar yaşamış ama düzgün mimari ile afetlere meydan okuyan örnek şehir medeniyetin başkenti
- Özellikle şehrin mimari dokusunun yanında, altyapı problemlerinin çözülüp, ulaşım alanında ciddi revizeler yapılması gerekmektedir. Var olan o eski kent ruhunu yakalayamazsak da en azından ona yakın, bizi Antakyamıza ait hissettirecek bir şekilde restorasyon yapılmasını isterim
- Aslına uygun bir şekilde, depremden önceki hali. Kentin sahiplerine danışılarak yapılması gerekir. (Hiçbir siyasi buna izin vermez, kendi çıkarlarını düşünür.) Bu tarz anketler ne işe yarar neyi çözer? Halk böyle düşünüyor dersiniz ne olacak ? Depremin yıkıcı etkisinin önemli bir nedeni üniversitelerdir, bu konuda çalışma yapmalısınız. Mühendis ve mimarlık öğretiminin yetersizliği ve böylece deprem yönetmeliklerinin yetersizlikleri. Bunlar hakkında çalışma yapmalısınız.

- Eskisi gibi olmasını istiyorum ama umudum yok malesef
- Yaşananlardan ders alınmalı ve şehir geliştirilmeli.genis caddeler ,yeşil alanlar ve raylı toplu taşımaya gecilmeli
- Tarihi yapıya ihanet edilmeden depreme dayanıklı bir hale getirilmeli. Eski yapılar aslına uygun yapılmalı. Trafik ve kalabalık konusunda çarşı merkezinde park alanları ve yeşil alanlar planlanmalı.
- Eskiden nasılsa o şekle geri döndürülmesini diliyorum.
- "1-Deprem'e ve Sel'e dayanıklı 2-Antakya'nın çok antik özelliğini orijinal bir şekilde yansıtmalı"
- Bazı caddeleri Açık hava müzesi şekline getirilebilir
- Eskisi gibi olmasını umut ediyorum
- Mevcut fay hatlarına dayanıklı ve olması gereken kadar konutun şehir merkezinde inşa edilmesini, depremden kaynaklı oluşan altyapı sorunlarının çözülmesini, şehrin tarihi havasının bozulmamasını, zemin iyileştirmesi yapılmadan konut dikilmemesini, ulaşım konusunda daha pratik çözümler sunulmasını, özellikle larva haşere sorununa kökünden bir çözüm getirilmesini temenni ediyorum.
- Eski Antakya sokakları yeniden oluşturulmalı,uzun çarşı eski dokusunu koruyacak şekilde yenilenmeli,kentin simgesi olan yapılar (ezan,çan,hazzan ),eski meclis binası yeniden düzenlenmelidir..
- Önceki tarihi doku korunsun yeter, tabi depreme dayanıklı hale getirilip korunması...
- Aslına ve usulüne uygun olmasını istiyorum
- Merhaba, şehirde yaşayan herkese önce psikolojik destek verilmeli,yeni mezun bütün psikologların en az 20 gün antakyada çalışması sağlanmalı, daha mutlu insanlar,daha verimli yaşam demek.yapılar ve şehrin dokusunun korunması çok anlamlı.
- Tarihi dokusunu bozmadan daha düzgün bir yerleşim olmasını diliyorum
- Eski kentsel yapının kültürünün aynı şekilde korunması en büyük arzum
- Sadece eski dokunun olması bizim için yeterli olacaktır.. fotoğrafları açıp bize aynı dokuyu işleyin başka bişey istemiyoruz....
- Kimliğini korumalı
- Tarihi değeri olan bütün yapılar ayağa kaldırılmalı, eski dokusuna mimarisine bağlı kalınarak yeniden canlandırılmalı. Konut - yerleşim alanları bu tarihi kentten ayrılmalı ve uzaklaştırılmalı. Tarihi bölge turizme, kültüre hitap etmelidir.
- Tarihi dokusu korunmuş, alt yapısı uzun yıllara hitap edecek, depreme dayanıklı, tarihi ve modern binaların bir uyum ve ahenk içinde olan bir şehir istiyorum.
- Dünyada örnek bir şehir olmasını isterim.
- Kendi geçmişiyle tutarlı ve karakterli
- Depremden önceki gibi ama daha planını daha sağlam daha modern
- Eskisinden farklı olmayan benzeri bir tarihi doku istiyorum.
- Son durumuna uygun olmasını istiyorum. Bugünkü depremezdelelerin yaşadığı zamana uygun ve eski anıları aynen yaşatacak yapılar isterim.
- Yok olmuş uygarlıkların özelliklerini yansıtan bir yer olmasını isterim
- "Tarihi önem arz eden yerlerin yapılandırılması. Kalan yerlerin modern bir şehre dönüştürülmesi. Örneğin Gürcistan'da savaş döneminden kalan binalar hâlâ korunuyor ve işlevsel. Kalan yerler ise modern bir şehir yapılanmasına sahip."
- Trafik ve ulaşımı rahatlatacak bir şehir olmasına özen gösterilmelidir.
- Medeniyetler sehrimizi ,insanların canına kastetmicek yapılar ,sağlıklı alt yapıların , doga guzelleginin ve tarihinin duzenlenip tamamlanmasını istiyoruz ANTAKYAMIN
- Antakya nın tarihi yapısının bozulmadan yenilemeye gidilmesi gerekmektedir
- Tarihi dokusunu koruyarak depreme karşı güvenli bir şekilde i.nşası yapılsın istiyorum, o acılar ve kayıplar yaşanmasın

- Aslına uygun olması kafi!!!
- Ya geçmişteki tüm izleri gün yüzüne çıkmış olmalı, ya da depremden önceki son hali ufak dokunuşlarla yeniden oluşturulmalı
- "Doğal tarihi dokusunun geçmişteki gibi aynı haliyle kalmasını isterdim."
- Antakya nin bazı mahallelerindeki çok eski ev ve binaların yeniden inşa edilecek olması güzel fakat onun dışındaki her tarihi yerin çarşının eski tarihini koruyarak günümüze gelebilecek olması güzel olurdu
- Eskiden olduğu gibi "Antakya lı olmanın üst kimlik" olarak yaşandığı bir yer olmasını isterim.
- Tarihi dokunun korunması çok önemli
- Eskiye uygun
- Gelecek nesillere aktarabildiğimiz, tarihi kent dokusunu hissedebilecekleri, eskisi gibi olmasını istiyorum.
- Eskisi kadar otantik, kendine has ve sıcak, kucaklayan
- "Modern,kültürümüzü yansıtan bir şehir,dağ,ve nehir manzaralarının ön planda olduğu,geniş yol ve caddelere sahip,yürüyüş yapılacak,spor yapılacak alanlar,kültürel faaliyetler için alanlar,ve en önemlisi tabiki depreme dayanıklı ve uyumlu binalar yapılmasını isterim"
- Sosyal(saglik,spor, eglence, kültürel)Yasanabilir
- Yeşil alanın park ve bahçenin bolca olduğu alanlar tarihi dokunun korunmasına katkıda bulunacak antakyayı Antakya yapan inşaların oluşturulması
- Özüne uygun bir şekilde inşa edilmesi tercih ediyorum
- İnsanlık tarihinin buradaki geçmişinin tüm izlerini taşımali.Uygurlığın ve buradaki yaşantının ne kadar büyük bir geçmişe sahip olduğu vurgulanmalı.
- Aslına uygun ve yerinde inşa edilmesi
- Öncelikle eskisi gibi ucube ucube binaların yapılmamasını özellikle belediyeler bu konuda çok katı olmalı binanın dayanıklı olmasının yanında görsel anlamda da şehre çirkinlik katmamalı ve başka şehirlerde gördüğümüz tek yapı şeklinede geçilmeli buna işleride de dahil olmalı.
- İlgi çekici ve güzel
- "Yaşayan ve yaşatan bir şehir olmasını isterim. ( İzmir'den çalmış olabilirim) Yeşil alanı bol , tarihi dokusu yeniden sağlanmış , ulaşım ve altyapısı güçlü bir şehir olsun isterim."
- Antakyalılara eski Antakyayı hatırlatacak bir yer olmasını isterim
- Tarihi yerlerinin önemsenmesi ve bilinmesi
- Eskiden olduğu gibi.
- Eskisi gibi
- Gelmiş geçmiş bütün medeniyetleri yansıtacak bir dokuyu hayata geçirmek gerek
- Tekrar yüzyıllarca dilden dile dolaşacak kadar değerli bir şehir Antakya bu nedenle doku bozulmadan inşa edilmeli
- Mümkünse deprem öncesi tarihi kent dokusu gibi
- "Yine üç büyük dinin merkezi olması
- Antakya evlerinin tekrar aynı olması
- Viyana'da ki gibi raylı araçlarla şehrin gezilmesi "
- Kesinlikle depreme daha dayanıklı bir şehir ve DEPREM MÜZESİ Gelecekte ibret alsınlar
- Bir daha aynı tarihi dokunun olmayacağını biliyorum en azından eskisine yakın olmasını dilerim
- Eski tarihi doku korunmalı

- Lütfen biz eski Antakya dokusunu tekrar aynı olmasını istiyorum
- Aslına uygun yapılması bence en önemlisi. Bunun için mutlaka ama mutlaka bu iyileştirme çok iyi bilen bu şehri çok iyi taniyanlarla yapılmalı.
- Aynı özelliklerinin kültürünün mimarisinin devam etmesini isteriz
- "Depremi taşıyan birkaç bina "farkındalık yaratmak "adına korunmalıdır. Farklı ibadethaneler,kadim şehrimizde geçmiş bugüne taşıyan,kardeşliğin simgesi binaların aslına uygun şekilde; Yıkılanın yerini koruyarak orijinalinin yapılması ve tadilatı gerektirenlerin ehil ellere teslim edilmesi sağlanmalıdır. Çarpık yapılaşmanın tekrar edilmesini önleyen bir proje hayata geçirilmelidir. Bu işbirliğinin sağlanması için emeği geçen herkese teşekkür ediyorum. "
- Eskisi gibi olması
- Geçmişine uygun şekilde tarihi dokular yeniden restore edilmelidir.Yaşanılabilir bir şehir olmalıdır.
- Geçmişe ve Şu ana kadar yaratılan değerlere, ilişkilere Sahip çıkıp onları yaşatacak şekilde düzenlenmesi. Bu ilişkiler insanların birbirleriyle ilişkileri olsun dinle ilişkileri olsun yemekle ilişkileri olsun düşünülebilir
- Eskisi gibi ama daha sağlam
- Depreme dayanıklı olarak kent merkezinde
- Üstteki 200 yıllık katmanın altındaki 1000 yıllık katmanın ortaya çıkarılarak açık hava müzesi oluşturulmalıdır.
- Eskisini anımsatacak şekilde, sağlıklı ve yaşanabilir bir kent olmasını istiyorum.

(和訳)

- ・世界中の人々がその名を耳にし、訪れる場所であるべき。
- ・歴史的、文化的特色が守られなければならない。
- ・昔の精神を再現し得るものであってほしい。新しい、異なる建設は望まない。
- ・ありがとう。
- ・昔から震災前までのあらゆる特色、習慣、誠実さが残っているアンタキヤであってほしい。
- ・私の唯一の願いは、ハタイのすべての建物に耐震レーンを導入することです。そして故郷に戻り、安全に暮らすことです。
- ・耐震性を持たせつつ歴史的風致が保護され、昔の精神が忠実に反映されたアンタキヤ。
- ・アンタキヤの歴史的な街並みを持つ地域を、交通を遮断した旧市街のコンセプトで復興させ、活性化してほしいです。特に、クルトゥルシュ通りとサライ通りをそのように建設すれば、大きな関心と呼ぶでしょう。そして、その周りに近代的な街（交通、インフラ、道路など）を造り、全く新しい都市を建設することを望みます。
- ・昔の特色を持ったものであってほしい。
- ・街並みを損なうことなく、きれいで、インフラが堅牢で、家々や店舗に耐震性があるようであってほしい。
- ・アンタキヤの歴史的な街並みを元の姿に復元して魅力的なポイントにするとともに、街のそれ以外の部分は昔のアンタキヤの建物の特徴（中庭、ファサードなどの建築要素）を考慮して発展させてほしい。マスタープランの規模で調査せずに建物を建て始めると、耐震都市はできるかもしれないが、昔のアンタキヤとのつながりが保たず、関係が断たれてしまう。まずマスタープラン規模での都市計画が行われ、その中でも歴史的な大通りや通りが中心的な役割を担ってほしい。
- ・一つ一つは昔とほぼ同じでありながらも、頑丈な作りしてほしい。
- ・人々が旧知の隣人、親戚、知人と一緒に地域に住む権利は常に尊重されなければならない。街中では昔ながらの商人気質が守られていなければならない。現代の歴史的市街地ではなく、その独自性を守る市街地を建設すべきだ。アンタキヤの通りにある登録建築物は街のシンボルであり、街の価値を高めていたが、アンタキヤの人々は歴史的な街の中心部にある伝統的な建物と言われる場所に住み続けていた。このような理由から、アンタキヤの歴史的市街地を建設する際には、伝統的な建物も必要に応じて重視すべきだ。
- ・現代が求める秩序を持ちながらも、歴史的なアイデンティティを持つ都市であってほしい。
- ・中庭や路地が大切にされている、歩きやすい街であること。
- ・正統的かつ現代的。
- ・歴史的風致を忠実に残すことを条件に、より耐久性のある建造物を建設し、古くからの特色を守ることは非常に重要だと思う。
- ・まず、第一に、昔のアンタキヤと緑地を取り戻したい。
- ・まず、地盤の耐震性の調査や建物の耐震性診断を行い、二度と倒壊ないように建物を建設すること。
- ・歴史的風致を壊さないように耐震性のある建物を建設してほしい。歴史的な特色を構築するという意味で、地元の人たちで作る組織と共同での取り組みは非常に重要だと思う。
- ・以前は十分に評価されていなかったと思うので、残っている特徴をもっと大切にし、与えられるべき価値が知られるようになってほしい。
- ・ナルルジャ地域から始まる山の斜面のスラム地域全体を保護区とし、アンタキヤの歴史的市街地の周辺も再建するべきだと思う。
- ・イタリアのローマのような都市構造。
- ・私は、この街の歴史的風致を再構築し、観光目的だけでなく、以前のように活気に満ちた生活が続けられるような環境を作るべきだと思う。

- ・アンタキヤはすでに歴史そのものだが、私たちのハタイをより良いものに再建し、強固な土台を築くこと。
- ・シンボルとなるような場所を保護し、鉄道システムを整備して街の交通の混乱をなくし、生活エリアが本当に上手く効果的に使えるようなものになってほしい。私は、アンタキヤ旧市街の通りに、再びカフェやレストラン、イベントエリア、社会的・文化的団体ができ、モザイク壁画が保護された、世界のモデルケースとなるような生活エリアになってほしい。
- ・昔の趣を取り戻せるよう願っています・・・街だけで終わるのではなく、去っていった人たちを呼び戻す必要があります・・・彼らこそが文化の担い手です。
- ・昔のアンタキヤはとても美しかったので、それに似た、または少なくともそれに近いものになってほしい。
- ・昔のように。
- ・街の特色と昔からの雰囲気に沿った再構築。
- ・再建されたヨーロッパ式の、しかし耐震性がある住宅...
- ・アンタキヤの過去と未来の架け橋となること。
- ・昔の趣が何一つ失われてほしくありません。震災によって去っていった様々なアイデンティティや文化を持つ人々が街に戻れるようにすべきです。建物は戻せても、人は戻せないからです。
- ・過去の歴史と文化を再び体現する都市であってほしい。
- ・今も昔と同じようになってほしい。
- ・昔の趣と香りが欲しい。
- ・古い歴史的な街並みが損なわれない、しかし以前街中心部で見られたような無秩序な建設が行われるのではない、強固で整然とした、清潔で、信頼できる、住みやすい街になってほしい。
- ・完全に以前の通りに復元し、歩行者天国の構造をとるべき。
- ・様々な文明が交錯する都市にふさわしく、かつてのような歴史的な街並みであってほしい。
- ・過去と繋がりながらも、未来にインスピレーションを与えるような視点で形作られるべきです。クルトゥルシュ通りやサライ通りは、高層ビルではなく、緑地がある昔のアンタキヤの低階層の家並みに合うように計画されるべきです。
- ・昔のように。
- ・昔のアイデンティティを持たせ、歴史都市であることを後世に伝えること。
- ・道路、建物、インフラ、住宅などが歴史的な街並みと一体となり、そこに住む人々を幸せにするアンタキヤ。
- ・古いものと新しいものがより強固に結びつきながらも、本来の性質から離れることなく、自然でシンプル、そしてモダンな外観であってほしい。
- ・整然とした美しい場所であるべき。
- ・元通りに建設してほしい。
- ・建物は、この街の風、自然の特色に合わせて建てられるべきです。この機会に全ての都市のモデルケースになるでしょう。
- ・昔の外観に近い、アンタキヤの文化的特色を反映したものであるべき。
- ・建物は低層で耐震性のあるものにし、緑地や公園は十分な数と面積を確保し、宗教施設は仰々しくなく簡素なものにして、十分な医療機関が建設されること。
- ・昔と同じで環境秩序が確保されたもの。
- ・昔のように。
- ・再び倒壊する恐れがある歴史的建造物に無駄なお金をかけてはいけません。また人が死ぬことになる。歴史的風致はある程度でいいが、現在の条件に合った、近代的で堅牢な、広い道路を備えた街づくりをしてほしい。鉄道システムによる交通を整備してほしい。歴史的風致の話ばかりをすれば都市の近代化が遅れる。朽ち果てた建物は撤去されるべき。高すぎる建物、極端に狭くて高い縁石付歩道はあってはならない。縁石付歩道は広くて一定の高さであるべきだし、道もかなり不

十分だ。

- ・インフラや健康問題が解決され、基準が満たされ、人々が再び歴史的風致を感じられるような安全な街であってほしい。
- ・自然の美に溢れた緑豊かな都市であり、魅力的な観光の中心地であってほしい。
- ・都市の中心部は昔通りで、住宅地や商業地は近代的かつすべてが自然災害に強いものでなければなりません...
- ・アスィ川と市街地の周辺は、完全に自然の緑地や公園として残し、住宅地やビジネスエリアは新しい居住地域に建設すべき。ロングバザールとその周辺の宿泊所、浴場、礼拝所は、元の通りに再建すべき。
- ・同じように歴史的風致を保護してほしい。
- ・オリジナルに忠実に再開発すること。
- ・人混みから離れた、地元の人々で成り立った静かな場所。人が過密であれば、寛容さは失われ、都市文化は消滅し、街はビルの山に囲まれる。このため、高層ビルの代わりに、地域の人々のために必要なだけの低層住宅を建設すべき。
- ・なし。
- ・何千年も前に削られた洞窟、石の如く、植えられたオリーブを見ると、私はこの作業をした人たちに想いを馳せる。彼らがどんな気持ちで石を打ち、この作業をどうやってこれほどまでに狂いなく行ったのかを・・・私は、オリーブを植えた人に対し、千年後に摘み取った実を取って、これは千年後にあなたの木から摘み取った実です、と伝えたい。歴史は重要だが、今、国民が必要としているものをもっと急を要することだ。歴史に残す震災記念碑の仕事があるのなら、私は金銭的な見返りを求めずにその仕事に参加したい。
- ・以前と同じようであってほしいし、文化的特色を同じように保ってほしい。通りがより広くなり、緑化されれば、より健全な都市になるだろう。
- ・アンタキヤの歴史を土台とした建築には、人間、自然、動物を尊重する建築、美的感覚が取り込まれた、歴史的かつ現代的であり、緑と建築が共存し合う特徴を持つべき。アンタキヤ旧市街と呼ばれる地域の早急な活性化、アスィ川沿いの緑地の設置、アンタキヤ中心地区周辺の早急な復興が実現すれば、私たち皆が安心できる。
- ・私は、歴史的な街並みという主要なテーマを失うことなく、元通りに都市を建設してほしい。
- ・マンションなどの高層ビルがなく、歴史的な建築物に似ているが堅牢で地震に強い中庭のある狭い通りを再建すべきだと思う。誰かがまたマンションを建てて街のシルエットを壊そうとすることがないようにしてほしい。
- ・以前よりも構造的に優れ、インフラ、交通の便が良くなること、そしてそれを実際に目にできるようになることです。それを実感するまでにはまだ何年も時間がかかるとなれば、私たちは望みを失います。どうかもうアンケートはやめて作業を開始してください。これは「トルコ」全体の問題です。「愛と敬意をこめて」！...
- ・昔の構造を維持して建設されること。
- ・可能な限り昔の構造を再現すること。
- ・アンタキヤの歴史的な街並みを、地震前の状態にできるだけ近づけて再建してほしい。
- ・かつてのように、異なる宗教がひとつになる場所であってほしい。
- ・昔のものより優れ、昔よりしっかりと守ることができる、強固な基盤をもつもの。
- ・元通りになれば十分。
- ・歴史的な建物と近代的な建物は、分離することなく共存することができる。例えば、とても賑やかな通りの先に素晴らしいモスクや教会が現れてもいい。
- ・震災前と同じように。
- ・もちろん、美しい場所であってほしい。必要な配慮とケアがなされれば、いずれにせよそうなると思う。
- ・アンタキヤ旧市街の再建を望む。
- ・思い出が完全に消えてしまわないように、昔のようにしてほしい。

- ・ いいものになってほしい。良いものは良いのだから。
- ・ ここに長く暮らし続けている人間として、できるだけ早く昔の姿に戻ってほしい。議事堂も、アンタキヤの古い家並みも、サライ通りも、モスクも、教会も、何もかもが、昔と同じとは言わないまでも、昔の姿に近いものであってほしい。
- ・ 昔の姿。
- ・ 歴史的建造物は昔の外観のまま、無計画な都市化の問題を解決してほしい。
- ・ アンタキヤ旧市街の再建を強く願います。サライ通りやクルトゥルシュ通り、ロングバザールはアンタキヤのシンボルとなるほど重要でした。
- ・ 歴史的・社会的施設で都市文明を反映する構造を損なわないように注意し、都市の復興に貢献すべき。
- ・ 教育、歴史、文化を重視した広い街路のある都市を建設すべき。
- ・ 完全に倒壊してしまったのだから、昔の雑然とした街の外観ではなく、歴史的風致を守りながらも、より整然として便利な、もっとくつろげる場所がより多く造られるべき。
- ・ アンタキヤは私たちが知っている街であるべき。新しい街は要らない。
- ・ 私たちは、緑地が豊富で、古い街並みが新しさと頑丈さを併せ持ち、人口構成のバランスが維持されるアンタキヤを望んでいる。
- ・ 歴史的地区とアイデンティティを守り、地震に耐える建設を行う。
- ・ 昔の街並みを再現すること、その際極めて不十分な道路を拡張すること、地下道や陸橋で道路機能を強化し混雑を緩和することなどが、私たちが最も望んでいることだ。
- ・ 地震に強い計画的な都市にし、駐車場、地下道、陸橋、地下鉄を整備してほしい。
- ・ 観光と歴史を重視する。
- ・ 古い文化を損なうことなく、建物、モスク、教会、浴場等の建造物を損なうことなく、新しく発掘された歴史的遺物を故郷に与えてほしい。
- ・ 古い歴史的建築物を保存しながら、より耐久力を持たせ整然とした再建が行われること。
- ・ 一刻も早く元の生活に戻ること。
- ・ その特徴を損なわず復興すること。
- ・ 昔のようになって、地元の人々に帰ってきてほしい。
- ・ 元通りになってほしい。
- ・ 歴史的価値を知り、守り、手本を示した人々のためにも、まず、第一に、当局がそのことを重要視していることを示さなければなりません。長年、乏しい知識の枠を超えることができず、自分たちの住む場所についても伝え聞いた知識によって学んだ人々を変えるためには、合理的で独創的な仕事をする必要があります。地元の建築家が、地元有識者の意見に耳を傾けることで、観光都市ではなく、観光と一体化した都市を創造することができます。風、匂い、音、太陽、景観、インフラ、公共交通、物流、縁石付歩道、歩行者・自転車道、公園などを考慮しながら都市建設すれば、街並みを完全に破壊することなく、ローマやウィーンといった都市と同じカテゴリーで評価されると思っています。
- ・ 特に、アンタキヤのシンボルの一つである旧市街や家々の再建は、その特色に沿った形で行われるべき。議事堂や橋、ロングバザールやサライ通り周辺の区域は居住を禁止し、文化、芸術、観光、緑地、児童公園などの分野に全面的に使用することが不可欠。
- ・ 独自の特徴が損なわれないでほしい。
- ・ 過去を知ることができる都市であるべき。
- ・ 復旧は確かな見識の下に行われなければならない。
- ・ 将来は、私たちのアンタキヤのアスィ川に流れ込む支流、河川、農業平野には家を建てず、ふんだんに植樹を行い、伐採

されたオリーブの木一つ一つの代わりに新しい木を植え、不毛ではなく緑溢れ、歴史的風致を復元して昔の姿を取り戻した街を見たい。

- ・昔の面影を残した、耐震性に優れ、優雅なものであってほしい。
- ・私たちは皆、震災前の状態に戻るかどうかを懸念していますが、私たちが望むのは、すべての歴史的建造物が、修復経験豊かな本当に仕事熱心な建築家らが誠実に計画を実行し、熟練の技術により生命を取り戻すことです。
- ・地下の歴史的遺物をすべて発掘し、考古学的な都市になってほしい。しかし、この際、市民の権利と法律は守られなければならない。
- ・「昔の状態は良かった。唯一気に入らなかったのは、汚かったこと。人々はアンタキヤを本当に酷い形で扱っていた。美観に注意を払わなかった。大切にすべきなのにしなかった。」
- ・「あらゆる文化が守られている（特に食べ物）場所であってほしい。」
- ・道路の拡張、インフラ。
- ・あらゆる面できれいで住みやすい都市であってほしい。
- ・歴史的風致はそのまま残すべき。
- ・歴史的な映画のロケ地に住んでいるような感じになってほしい。
- ・昔のように歴史の香りがするディテールを含み、あの神秘的な雰囲気を再び感じさせてくれるような建築であってほしい。
- ・耐震性があり、昔の文化的特色を反映したスタイルであることを願います。お仕事頑張ってください。
- ・私は昔の歴史的風致を生かしてほしい。私はアンタキヤで子供時代を過ごしました。アンタキヤを離れて他の街に移住した人々が戻ってこられるよう、居住可能な都市にする必要があります。アンケートありがとうございます。
- ・昔より良いものに。
- ・優秀な建築家たちが集結し、暴利をむさぼる人達に街を委ねることなく、歴史的な外観を持ち、もちろんすべての地震規制を遵守し、一つの地域に集中せずより広い土地に整然と広がった、地下鉄やメトロバスを備え、トルコ全体のモデルケースとなるような都市を建設してもらいたい。
- ・歴史的な居住エリアでは、アンタキヤの数千年の歴史を明るみにだす発掘を何層にも分けて行い、文物を現地で展示すべき。
- ・コスモポリタン都市的な構造が損なわれず、安全で、歩行者区域や社会活動が可能な、街の歴史的価値が保たれる場所であってほしい。
- ・緑地を増やし、家々は2階建てまでの庭付きであってほしい。
- ・古い建物や建築的概念を守ることが必要。私は、新しい都市の構想は昔の状態に合わせて建設されるものであるべきだと思う。
- ・古い街並みが再建されるべき。
- ・アンタキヤはそれに相応しい歴史的価値を取り戻すべきだ。耐震性のある建物を建設し、街の景観を重視し、歴史的な場所の原状を回復させ、観光業を活性化させるべきだと思う...アンタキヤは世界的に重要な歴史的都市であり、それに相応しい...美食の都市としての役割を果たし続けるべき。
- ・ただ、すべてが以前のものであってほしい。
- ・古いものと新しいものを共に体験できるようにしなければならない。
- ・様々な文明が交錯する都市は楽園の一角。
- ・コンクリートを使わず、歴史的風致を守ることで、サフランボルと同じようにすることができる。
- ・昔のように。
- ・すべての歴史的建造物の再建と耐震化が優先されるべきであり、新しく建設される都市がその特色と一体となることを願

って...

- ・歴史的建造物を損なうことなく、昔の特色を残した水平的な建築であるべき。
- ・アンタキヤをアンタキヤたらしめている建物を、そのままの状態でも未来に伝えること。
- ・昔のようであること。
- ・耐久性に優れ、昔の精神を感じさせるものであること。
- ・歴史的な街並みは保存されるべきだが、道路やインフラは改善されるべき。アスィ川をきれいにして汚水を除去する必要がある。鉄道が建設されれば輸送は容易になる。
- ・昔の街のまま、より堅牢で、管理の行き届いた、縁石付歩道がある広い道路やたくさんの公園がある。
- ・昔のように。
- ・昔よりも強固になってほしい。
- ・人々や文化を守ることにより、世界のモデル都市になることを夢見ている。
- ・この破壊を経験したにもかかわらずハタイを離れなかった人々が以前の生活様式を取り戻し、人間らしく暮らせる都市を一刻も早く建設すること。
- ・昔のようにしてほしいが、大通りや路地はもっと広くすべき。
- ・私たちは観光地として驚くべきポテンシャルを持った地域に住んでいます。私は街の一部を野外博物館にすべきだと思います。私たちがこれまで話してきたのは、常に街の外観を元通りにすることについてです。私たちよりも前に生き、体験されてきたものは、私たちよりも遥かに強いものです。土の中に眠っている構造物にもっと注意を払う必要があります。
- ・私たちが慣れ親しんでいた震災前のシルエットにできるだけ近づけてほしいし、特別介護用ベビーカーで移動できるように改修や改善が行われた場所であってほしい。
- ・アンタキヤは歴史ある観光都市であり、もし歴史的風致が保存されなければ、街は大きな損失を被るだろう。知人ではなく、その仕事を知っている人に仕事を割り当てることが第一に必要である。
- ・世紀の大災害に見舞われたわが故郷が、一日も早く回復し、復旧することを祈る。
- ・思い出までもが消えてしまった。昔の姿に近く、街の文化的、歴史的な特色を彷彿とさせるものにしたい。
- ・歴史的な場所や通りは、元の姿にできるだけ近い形で再建されるべきであり、街の古い精神が感じられるべき。
- ・昔の特徴を保存しながら再建されるべきで、地震に耐えうるようにしなければならない。
- ・歴史的風致が適切に残されていること。
- ・歴史上多くの苦難に見舞われながらも、適切な建築によって災害を克服してきたモデル都市であり、文明の首都。
- ・都市の建築的特徴に加え、インフラの問題を解決し、交通の分野で深刻な見直しを行うべき。かつて存在したあの古い街の雰囲気や再現できなくても、少なくともそれに近い形で復元され、私たちがアンタキヤの住民であることを実感できるような修復であってほしい。
- ・震災前の元の状態に忠実に。街の住民たちと相談しながら行うべき。(政治家がこれを許すはずがない、自分の利益だけを考えるから)このようなアンケートは何の役に立ち、何を解決するのでしょうか？これが市民の意見です、と言ったところで、どうなるのでしょうか？大学は震災の破壊的影響の重要な要因です。この問題に取り組むべきです。工学・建築学教育の不足、ひいては地震規制の不備。これらについて取り組むべきです。
- ・昔のようにしてほしいが、残念なことに希望はない。
- ・出来事から教訓を学び、都市を発展させ、広い道路、緑地、鉄道公共交通機関を導入すべきである。
- ・歴史的建造物を損なうことなく、耐震性を高めること。古い建物は元の姿の通りに建てられるべきだ。繁華街では、交通や人の密集に対し公園エリアや緑地を計画すべきである。
- ・昔がどうあれその通りの姿に戻ることが願う。

- ・「1-地震と洪水に強いこと。2-アンタキヤの極めて古い特徴を元の通りに反映させること」
- ・いくつかの通りが野外博物館になるのもいい。
- ・以前のように戻ることを願っている。
- ・断層に強い住宅を必要な数、市内に建てること、震災によるインフラ問題を解決すること、歴史的街並みの雰囲気壊さないこと、地盤改良をせずに住宅を建てないこと、交通の面でより現実的な解決策を提示すること、特に害虫の幼虫問題を根本から解決することを願っている。
- ・アンタキヤ旧市街を再建し、ロングバザールをその古い特徴を残す形で再開発し、都市の象徴的な建造物（モスク、教会、シナゴグ）、古い議事堂を再整備すべき。
- ・以前の歴史的風致を守るだけで十分です。勿論、耐震性を高めた上で保護することです...
- ・元通りかつ適切なものであってほしい
- ・こんにちは。街の住民全員に精神的支援が行われ、新卒の心理学者は少なくとも20日間はアンタキヤで働くべきです。人々が幸せになれば、もっと充実した生活ができます。建物や街の特色を守ることは、とても意義のあることです。
- ・歴史的風致を損なうことなく、より整然とした居住地であってほしい。
- ・私の最大の願いは、以前の都市構造の文化が同じように守られることです。
- ・昔の特色が残れば十分です。写真を見て、私たちのために同じ特色のものを造ってください。それ以外は何もいらないうす...
- ・アイデンティティを守らなければならない。
- ・歴史的価値のある建物はすべて再建されるべきであり、その昔の特色や建築様式に従って再現されるべき。住宅、住宅地は、この歴史的都市から分離し、離れた場所に位置づけるべき。歴史的地域は観光と文化の面でアピールすべき。
- ・歴史的風致が保護され、インフラの耐久年数が長く、地震に強く、歴史的建造物と近代的建造物が調和し、融和している街であってほしい。
- ・世界のモデル都市になってほしい。
- ・自らの過去とつながっている、特色ある街。
- ・震災前と同じように、しかし計画はより堅実で、現代的であるべき。
- ・以前と変わらない、同じような歴史的風致であってほしい。
- ・（地震で被害を受ける）直前の外観と同じにしたい。今の被災者が生きている時代に沿っていながら、昔の記憶をそのままとどめるような建物が良い。
- ・滅亡した文明の特徴を反映した場所であってほしい。
- ・「歴史的重要な示す場所の復興。残された地域の近代都市への変貌。たとえばジョージアでは、戦時中の建物が今も保存され、機能している。残りの地域は近代的な都市構造になっている」
- ・交通や輸送にゆとりがある都市になるよう配慮しなければなりません。
- ・多文明都市である私たちのアンタキヤが、人々の生命を脅かさない建造物、健全なインフラ、自然の美しさと歴史が整備され、完成することを望んでいる。
- ・アンタキヤの歴史的建造物を損なわないように再建を進めていくべき。
- ・歴史的風致を保ちながら、地震に対して安全な方法で建設し、あの苦しみや損失が生まれないようにしてほしい。
- ・昔の状態に忠実であれば十分だ!!!
- ・昔のあらゆる史跡を掘り起こすべきです。又は、再建の際は震災前の最後の状態に少し手を加えるにとどめなければならない。
- ・「自然及び歴史的風致を昔のまま残してほしい。」

- ・アンタキヤのいくつかの地区にある非常に古い家屋や建物が再建されるのは良いことだが、それ以外のすべての歴史的な場所、商店街の古い歴史を保存することによって現代によみがえれば良いだろう。
- ・かつてのように、「アンタキヤ出身であることがトップ・アイデンティティ」とみなされる場所であってほしい。
- ・歴史的風致を守ることは非常に重要である。
- ・昔のように。
- ・歴史的な街並みを感じられるような、未来の世代に引き継げるような、かつてのような場所にしたい。
- ・昔のように正統的で、独特で、個性的で、温かく、包み込んでくれるもの。
- ・「近代的でありながら私たちの文化を反映した街です。山や川の景色が主流で、広い道路や通りがあり、散歩やスポーツをするためのエリア、文化活動のためのエリア、そして最も重要なこととして、もちろん耐震性があり調和のとれた建物が造られるよう願います。」
- ・社会的に（健康、スポーツ、娯楽、文化）生活しやすい。
- ・緑地、公園、庭園の多いエリア、歴史的風致の保存に貢献し、アンタキヤをアンタキヤたらしめる建造物を造ること。
- ・特色に合う形で建設してほしい。
- ・人類の歴史の全ての痕跡がここにはなければならない。この文明と生活にはどれほど大きな歴史があるかを強調すべき。
- ・元の姿に忠実に、同じ場所に建設されること。
- ・まず第一に、昔のように高層のビルを建設しないことについて、特に市町村はこの問題に関して非常に厳格であるべきで、建物には耐久性を持たせるほか、視覚的な意味で街に醜悪さを与えてはならない。他の都市で見られる単一化された建設スタイルにも移行するべきだ。それにはその仕事も含めるべき。
- ・関心を引く美しいもの。
- ・「活気があり、活気づける都市であってほしい。(イズミルから盗用してしまったかもしれない)。私は、緑地が多く、歴史的風致が復元され、交通やインフラがしっかりしている都市になってほしい。」
- ・昔のアンタキヤを思い起こさせるような場所になってほしい。
- ・歴史的な場所が大切にされ、知られること。
- ・かつてのように。
- ・昔のように。
- ・すべての過去の文明を反映するような趣を実現する必要がある。
- ・アンタキヤは何世紀にもわたって語り継がれるほど価値のある都市なのだから、特色を損なわないように建設すべきだ。
- ・可能であれば、震災前の歴史的な街並みのように。
- ・「再び3大宗教の中心地となること、アンタキヤの家並みが再び同じ姿になること、ウィーンのように鉄道で市内観光できること。」
- ・当然より地震に強い都市、そして「地震博物館」。将来の教訓としてほしい。
- ・また同じ歴史的特徴を持つことはないだろうが、せめて昔のものに近いものであってほしい。
- ・古い歴史的特徴を守るべき。
- ・どうか、昔のアンタキヤの特徴と同じであってほしい。
- ・最も重要なのは、元の姿に忠実に建てられることだと思う。そのためには、必ずやその再開発は、高い見識を持ち、この街を知り尽くした人たちと共に行われる必要がある。
- ・同じ特徴、文化、建築を維持してほしい。
- ・「意識を高める」ために、震災の痕跡を残した建物をいくつか保存すべきです。さまざまな礼拝所や、私たちの古都の歴史を現在へと受け継ぐ兄弟愛のシンボルである建造物を、昔の姿に忠実に。

- ・倒壊した場所を保存して元の建物を建設し、改修が必要なものは腕利きの人たちの手に委ねるようにしなければなりません。無秩序な建設の再発を防止するプロジェクトを実施すべきです。この協力の実現に尽力してくれたすべての人に感謝します。」
- ・昔のようになること。
- ・歴史的特徴は、昔のまま復元されるべき。住みやすい都市であるべき。
- ・過去と、これまでに築き上げられた価値観と関係を守り、それらを維持するような構想を立てること。これらは、人々との関係、宗教との関係、食べ物との関係のなかでも考えることができる。
- ・昔のように、しかしより堅牢に。
- ・市街地の耐震性。
- ・上部の 200 年前の地層の下にある 1000 年前の層を発掘し、野外博物館を作る。
- ・健康的で住みやすい、昔を彷彿とさせるような街にしたい。

### 【分析および考察】

トルコ語のオリジナルの回答を用いて、ワードクラウドを作成した（次頁）。なお、作成には ChatGPT 4o を使用した。出現頻度順で、単語の出現頻度が高いほど、ワードクラウド内でその単語が大きく表示される。なお代名詞や接続詞（例: ve, bir, bu など）といった一般的に分析対象とならない単語は「ストップワード」として除外した。

結果は **tarihi**（歴史的）と **eski**（古い）が特に大きな文字となって現れた。問 6 の回答で「歴史的建造物の復興」が多かったことと連動し、歴史的な街並みを尊重して昔の特色を取り戻すことを望む声が圧倒的に多いことが伺える。また **olmasını**（～であること[を望む]）、**isterim**（望む）、**daha**（もっと）が大きいことは、質問自体が「どのような町になってほしいと思いますか」とあるので、その回答として当然の結果とも考えられるが、一方で、自由記述形式の問 8 に回答いただいた方々が全体の 5 割を超える（221 人／434 人＝50.9%）ことを踏まえると、そこには住民の切実な願いが現れていることが示唆される。他方、**dayanıklı**（耐久性のある）や **depreme**（地震に）もある程度の大きさで現れているが、**tarihi**（歴史的）や **eski**（古い）の大きさには及ばない。耐震性向上の意識よりも歴史や文化を守る意識の方がはるかに高いことが伺われる。これからのアンタキヤでは、耐震性向上の意識をさらに高め、**dayanıklı**（耐久性のある）や **depreme**（地震に）が **tarihi**（歴史的）や **eski**（古い）と同等の大きさになることを目指す必要があるだろう。

Word Cloud (Filtered By Frequency And Stopwords)



■主なワードリスト

tarihi	歴史的	sahip	所有
eski	古い	haline	状態に
olmasını	〜であること(「希望する」という文脈で使われることが多い)	dokusu	〜の構造、〜の質感
antakya	アンタキヤ	olarak	として
isterim	望む	alan	エリア
daha	もっと	edilmesini	〜されること
şehir	都市	yapılması	作られること
şekilde	方法/形	olduğu	〜である
kent	都市	yapıların	建物の
uygun	適切	kültürel	文化的
dayanıklı	耐久性のある	hali	状態
eskisi	以前のもの	mimari	建築
istiyorum	望んでいる	yeni	新しい
depreme	地震に	deprem	地震
yeniden	再び	iyi	良い
çok	多い	yapı	建築物
inşa	建設	insanların	人々の
şehirin	都市の	bütün	全て
olmalı	〜であるべき	önem	重要
olan	〜である	olur	なる
aynı	同じ	bol	多くの
en	最も	merkezi	中心
aslına	元に	geniş	広い
yeşil	緑	dokusuna	構造に、質感に
olması	〜であること	önceki	以前の
dokunun	組織の、質感の	depremden	地震から
yer	場所	önce	前
olsun	〜であるように	edilmesi	されること
modern	現代的	ulaşım	交通
dokusunun	構造の、質感の	yok	ない
tekrar	再び	binaların	建物の
doku	構造、質感、特徴	dokuyu	構造を、質感を
i	私	diye	〜と言う
alt	下	alanları	地域
korunması	保護、保存	uzun	長い
tüm	全て	bozulmadan	損なわれずに
yakın	近い	örnek	例
sağlam	堅牢	her	すべての
binalar	建物	şehri	都市を
dokusunu	構造を、質感を	önemli	重要
yapılar	建築物	özellikle	特に

### (3) アンタキヤ住民アンケート実施後の若手研究者対象満足度アンケート

#### ■ 若手研究者（女性）バフチェシヒル大学建築デザイン学部 准教授

##### Q1. How was the difficulty level of conducting this survey?

本アンケート実施の難易度はどうでしたか？

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. very easy          | 大変易しい  |
| 2. easy               | 易しい    |
| <b>3. just right</b>  | ちょうど良い |
| 4. slightly difficult | やや難しい  |
| 5. very difficult     | 非常に難しい |

##### Q2. How was the length of time required to conduct this survey?

本アンケート実施の時間の長さはどうでしたか？

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 1. too short         | 短すぎる   |
| 2. slightly short    | やや短い   |
| <b>3. just right</b> | ちょうど良い |
| 4. slightly long     | やや長い   |
| 5. too long          | 長すぎる   |

##### Q3. How was the content of conducting this survey?

本アンケート実施の内容はどうでしたか？

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| <b>1. very good</b> | 大変良い  |
| 2. good             | 良い    |
| 3. neutral          | 普通    |
| 4. slightly bad     | やや悪い  |
| 5. very bad         | かなり悪い |

##### Q4. Were you satisfied with the content of conducting this survey?

本アンケート実施の内容に満足しましたか？

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| <b>1. very satisfied</b> | 非常に満足 |
| 2. satisfied             | 満足    |
| 3. neutral               | 普通    |
| 4. slightly dissatisfied | やや不満  |
| 5. very dissatisfied     | かなり不満 |

**Q5. Do you think conducting this survey will be useful for the protection, preservation, and utilization of your country's cultural heritage?**

本アンケート実施が自国の文化遺産の保護・保存・活用に役立つと思いますか？

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| <b>1. I strongly think so.</b> | 非常にそう思う |
| 2. I think so.                 | 思う      |
| 3. I'm neutral.                | どちらでもない |
| 4. I don't really think so.    | あまり思わない |
| 5. I don't think so at all.    | 全く思わない  |

**Q1. How was the difficulty level of conducting this survey?**

本アンケート実施の難易度はどうでしたか？

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. very easy          | 大変易しい  |
| 2. easy               | 易しい    |
| 3. just right         | ちょうど良い |
| 4. slightly difficult | やや難しい  |
| 5. very difficult     | 非常に難しい |

**Q2. How was the length of time required to conduct this survey?**

本アンケート実施の時間の長さはどうでしたか？

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 1. too short      | 短すぎる   |
| 2. slightly short | やや短い   |
| 3. just right     | ちょうど良い |
| 4. slightly long  | やや長い   |
| 5. too long       | 長すぎる   |

**Q3. How was the content of conducting this survey?**

本アンケート実施の内容はどうでしたか？

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 1. very good    | 大変良い  |
| 2. good         | 良い    |
| 3. neutral      | 普通    |
| 4. slightly bad | やや悪い  |
| 5. very bad     | かなり悪い |

**Q4. Were you satisfied with the content of conducting this survey?**

本アンケート実施の内容に満足しましたか？

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1. very satisfied        | 非常に満足 |
| 2. satisfied             | 満足    |
| 3. neutral               | 普通    |
| 4. slightly dissatisfied | やや不満  |
| 5. very dissatisfied     | かなり不満 |

**Q5. Do you think conducting this survey will be useful for the protection, preservation, and utilization of your country's cultural heritage?**

本アンケート実施が自国の文化遺産の保護・保存・活用に役立つと思いますか？

- |                             |         |
|-----------------------------|---------|
| 1. I strongly think so.     | 非常にそう思う |
| 2. I think so.              | 思う      |
| 3. I'm neutral.             | どちらでもない |
| 4. I don't really think so. | あまり思わない |
| 5. I don't think so at all. | 全く思わない  |

## 2-3. 復興都市デザインスタジオ

### (1) 参加メンバー

武庫川女子大学建築学部	専門家 10 名
バフチェシヒル大学建築デザイン学部	若手研究者 2 名※
武庫川女子大学大学院建築学研究科	修士 2 年生 25 名

※若手研究者 2 名は現地調査ワークショップおよび住民アンケートにも参加した。

### (2) スケジュール

2024 年 9 月 5 日（木）～14 日（土） 10 日間

#### ◆トルコ人若手研究者スケジュール

月日	午前（9:30～12:00）	午後（13:00～17:00）
9/5（木）	キックオフミーティング	
9/6（金）	スタジオで作業	スタジオで作業
9/7（土）		
9/8（日）		
9/9（月）		
9/10（火）		京都大学防災研究所 視察
9/11（水）		スタジオで作業
9/12（木）		兵庫耐震工学研究センター（E-ディフェンス）、免震研究推進機構（E-Isolation） 視察 ／旧神戸居留地十五番館 見学
9/13（金）		建築構造レクチャー受講 スタジオで作業
9/14（土）		修了式

### (3) 実施報告

トルコ・バフチェシル大学の若手研究者2名を武庫川女子大学に招聘し、武庫川女子大学建築・都市デザインスタジオ（一級建築士事務所）にて、アンタキヤ旧市街の復興都市デザインの提案を共同で作成した。これにより歴史的市街地の復興における都市景観形成に関して、現地調査や住民アンケートからデザイン提案に至るまでの一連の技術移転をトルコ人若手研究者に対して図った。またトルコ人若手研究者は期間中に京都大学防災研究所、兵庫耐震工学研究センター（E-ディフェンス）、免震研究推進機構（E-Isolation）を訪問し、世界の最先端をいく日本の地震関連実験施設の視察を行い、建築物の耐震性向上に関する科学的知見も深めた。さらには阪神・淡路大震災により全壊し、免震工法により復元された旧神戸居留地十五番館も見学した。



復興都市デザインスタジオ 修了式における集合写真。

【トルコ人若手研究者に係る復興都市デザインスタジオの主な内容】

- ① アンタキヤに関わる各種資料調査
- ② クルトウルシュ通り、ヒュリエット通り、オウズラル通りのデザインコードの作成
- ③ 住宅模型作成
- ④ 地震関連実験施設の視察（京都大学防災研究所、兵庫県耐震工学研究センター、免震研究推進機構）／旧神戸居留地十五番館の見学
- ⑤ 建築構造担当教員による建築構造レクチャー受講



トルコ人若手研究者 2 名を招聘（右側）。



アンタキヤ住宅模型について建築構造担当教員と議論を行う。



アンタキヤの組積造の模型を作成する。



建築構造担当教員による建築構造レクチャーを受ける。



アンタキヤ住宅模型について意匠担当教員と議論を行う。



京都大学防災研究所を視察。



兵庫耐震工学研究センター（E-ディフェンス）を視察。



兵庫耐震工学研究センター（E-ディフェンス）を視察。



免震研究推進機構（E-Isolation）を視察。



免震研究推進機構（E-Isolation）を視察。



阪神・淡路大震災により全壊し、免震工法により復元された旧神戸居留地十五番館も見学。

#### (4) 復興都市デザインスタジオ実施後の若手研究者対象満足度アンケート

##### ■ 若手研究者（女性）バフチェシヒル大学建築デザイン学部 准教授

###### Q1. How was the difficulty level of this design studio?

本デザインスタジオの難易度はどうでしたか？

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. very easy          | 大変易しい  |
| 2. easy               | 易しい    |
| <b>3. just right</b>  | ちょうど良い |
| 4. slightly difficult | やや難しい  |
| 5. very difficult     | 非常に難しい |

###### Q2. How was the length of this design studio?

本デザインスタジオの時間の長さはどうでしたか？

- |                      |        |
|----------------------|--------|
| 1. too short         | 短すぎる   |
| 2. slightly short    | やや短い   |
| <b>3. just right</b> | ちょうど良い |
| 4. slightly long     | やや長い   |
| 5. too long          | 長すぎる   |

###### Q3. How was the content of this design studio?

本デザインスタジオの内容はどうでしたか？

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| <b>1. very good</b> | 大変良い  |
| 2. good             | 良い    |
| 3. neutral          | 普通    |
| 4. slightly bad     | やや悪い  |
| 5. very bad         | かなり悪い |

###### Q4. Were you satisfied with the content of this design studio?

本デザインスタジオの内容に満足しましたか？

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| <b>1. very satisfied</b> | 非常に満足 |
| 2. satisfied             | 満足    |
| 3. neutral               | 普通    |
| 4. slightly dissatisfied | やや不満  |
| 5. very dissatisfied     | かなり不満 |

**Q5. Do you think the content of this design studio will be useful for the protection, preservation, and utilization of your country's cultural heritage?**

本デザインスタジオの内容が自国の文化遺産の保護・保存・活用に役立つと思いますか？

- |                                |         |
|--------------------------------|---------|
| <b>1. I strongly think so.</b> | 非常にそう思う |
| 2. I think so.                 | 思う      |
| 3. I'm neutral.                | どちらでもない |
| 4. I don't really think so.    | あまり思わない |
| 5. I don't think so at all.    | 全く思わない  |

**Q1. How was the difficulty level of this design studio?**

本デザインスタジオの難易度はどうでしたか？

- |                       |        |
|-----------------------|--------|
| 1. very easy          | 大変易しい  |
| 2. easy               | 易しい    |
| 3. just right         | ちょうど良い |
| 4. slightly difficult | やや難しい  |
| 5. very difficult     | 非常に難しい |

**Q2. How was the length of this design studio?**

本デザインスタジオの時間の長さはどうでしたか？

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 1. too short      | 短すぎる   |
| 2. slightly short | やや短い   |
| 3. just right     | ちょうど良い |
| 4. slightly long  | やや長い   |
| 5. too long       | 長すぎる   |

**Q3. How was the content of this design studio?**

本デザインスタジオの内容はどうでしたか？

- |                 |       |
|-----------------|-------|
| 1. very good    | 大変良い  |
| 2. good         | 良い    |
| 3. neutral      | 普通    |
| 4. slightly bad | やや悪い  |
| 5. very bad     | かなり悪い |

**Q4. Were you satisfied with the content of this design studio?**

本デザインスタジオの内容に満足しましたか？

- |                          |       |
|--------------------------|-------|
| 1. very satisfied        | 非常に満足 |
| 2. satisfied             | 満足    |
| 3. neutral               | 普通    |
| 4. slightly dissatisfied | やや不満  |
| 5. very dissatisfied     | かなり不満 |

**Q5. Do you think the content of this design studio will be useful for the protection, preservation, and utilization of your country's cultural heritage?**

本デザインスタジオの内容が自国の文化遺産の保護・保存・活用に役立つと思いますか？

- |                             |         |
|-----------------------------|---------|
| 1. I strongly think so.     | 非常にそう思う |
| 2. I think so.              | 思う      |
| 3. I'm neutral.             | どちらでもない |
| 4. I don't really think so. | あまり思わない |
| 5. I don't think so at all. | 全く思わない  |

## 2-4. アンタキヤの復興都市デザインシンポジウムの開催

### (1) シンポジウムの概要

# 「アンタキヤの歴史的都市景観の復興」

日時：2024年11月7日(木) 18:00～20:00

会場：バフチェシヒル大学 南キャンパス

主催：文化庁、武庫川女子大学、バフチェシヒル大学

### ■ プログラム

18:00-18:10 開会挨拶

ムラツ・ドゥンダル (バフチェシヒル大学建築デザイン学部長 教授)

18:10-18:30 プロジェクトの経緯

柳沢和彦 (武庫川女子大学建築学部 教授)

18:30-18:50 プロジェクトの経験と成果

①現地調査

②アンケート調査

③デザインスタジオ

シネム・キュルトウル (バフチェシヒル大学建築デザイン学部 准教授)

18:50-19:30 アンタキヤ旧市街の復興都市デザインの発表

山本 親 (武庫川女子大学建築学部 教授)

鳥巢茂樹 (武庫川女子大学建築学部 教授)

19:30-20:00 質疑

モデレーター：

ムラツ・ドゥンダル (バフチェシヒル大学建築デザイン学部長 教授)

■ ポスター

# ANTAKYA'NIN TARİHİ KENT DOKUSUNUN İHYASI

Kültür İşleri Ajansı, Kültürel Mirasın  
Korunması için Uluslararası İşbirliği  
Değişim Faaliyetleri 2024

"Türkiye Cumhuriyeti'ndeki Tarihi  
Kentsel Alanların Yeniden İnşasında  
Uluslararası İşbirliği Faaliyetleri"

**7 Kasım 2024 Perşembe 18:00-20:00**  
Bahçeşehir Üniversitesi Güney Kampüs  
Fazıl Say Konferans Salonu

Bu proje, Kültür İşleri Ajansı tarafından görevlendirilen  
"2024 Kültürel Mirasın Korunması için Uluslararası İşbirliği  
Değişim Faaliyetleri" kapsamında uygulanmaktadır.

## Sempozyum Programı

- > **Açılış Konuşması**  
18:00-18:10  
Murat Dündar, Prof. Dr.  
BAU Mimarlık ve Tasarım Fakültesi Dekanı
- > **Proje Süreci**  
18:10-18:30  
Kazuhiko Yanagisawa, Prof. Dr.  
MWU, Japonya Mimarlık Bölüm Başkanı
- > **Proje Deneyimi ve Çıktılar**
  - >Saha Çalışması
  - >Anket Çalışması
  - >Tasarım Stüdyosu18:30-18:50  
Sinem Kültür, Dr. Öğr. Ü.  
BAU Mimarlık ve Tasarım Fakültesi
- > **Antakya'nın Tarihi Kent Dokusunun  
İhyası Proje sunumu**  
18:50-19:30  
Chikashi Yamamoto, Prof. Dr.  
Shigeki Tosu, Prof. Dr.  
MWU, Japonya Mimarlık Bölümü
- > **Soru ve Cevap Oturumu**  
19:30-20:00  
Moderatör: Murat Dündar, Prof. Dr.  
BAU Mimarlık ve Tasarım Fakültesi Dekanı



## (2) 開催報告

■参加者：約 50 名（大学生、大学教員、会社員、公務員など）

バフチェシヒル大学南キャンパスにて、シンポジウム「アンタキヤの歴史的都市景観の復興」を開催した。

まずはじめに、今回の震災により犠牲となられた方々に対して哀悼の意を表すべく、参加者全員で黙祷を捧げた。

続いてバフチェシヒル大学建築デザイン学部長のムラツ・ドゥンダル教授より、開会の挨拶があった。バフチェシヒル大学と武庫川女子大学との間のこれまでの交流についての紹介があり、特に 2011 年のトルコ東部地震の際には共同で現地調査を行った旨の説明があった。また在イスタンブール日本国総領事館の笠原謙一総領事が会場にお見えになったので、ドゥンダル教授から紹介があり、総領事からもご挨拶をいただいた。

次に柳沢和彦教授から、本プロジェクトが文化庁の令和 6 年度文化遺産国際協力拠点交流事業によるものであること、そして本プロジェクト以前のイベントとして、1) 2023 年 4 月の現地調査、2) 2024 年 2 月の現地調査、3) 2024 年 3 月の公開セミナー（会場：武庫川女子大学）を実施したことの紹介があった。特に 3) 公開セミナーでは、復興案のベースとなる意見書が提案され、建築都市設計の視点から 9 つの提案等がなされたことの説明があった。

シネム・キュルトゥル准教授からは、本プロジェクトにトルコの若手研究者として参加した立場から、本プロジェクトで実施した①現地調査ワークショップ、②アンタキヤ住民アンケート、③復興都市デザインスタジオ（武庫川女子大学にて）についての説明があり、それぞれの成果についての解説があった。特に②アンタキヤ住民アンケートでは、434 人から回答があり、その中で約 98%の人が、先の 9 つの提案を評価していることが示された。③復興都市デザインスタジオでは、武庫川女子大学の教員や学生とともにアンタキヤ旧市街の復興都市デザインの提案を作成したこと、建築構造担当教員から建築構造に関するレクチャーを受けたこと、さらには京都大学防災研究所、兵庫耐震工学研究センター（E-ディフェンス）、免震研究推進機構（E-Isolation）を訪問し、世界の最先端をいく日本の地震関連実験施設の視察を行ったこと等の報告があった。

山本親教授そして鳥巢茂樹教授は、③復興都市デザインスタジオにて作成された、アンタキヤ旧市街の復興都市デザインを発表した。山本教授は建築設計の立場から、復興では何が大切かという話をするとともに、先の 9 つの提案に基づいて作成されたアンタキヤ旧市街の復興都市デザインの動画を披露した。鳥巢教授は建築構造設計の立場から、特にアンタキヤの都市景観の復興の肝である、伝統的住宅建築の耐震化の提案を行った。

その後質疑が交わされ、盛況のうちに閉会となった。



登壇者の集合写真。



ムラツ・ドゥンダル教授 開会挨拶。



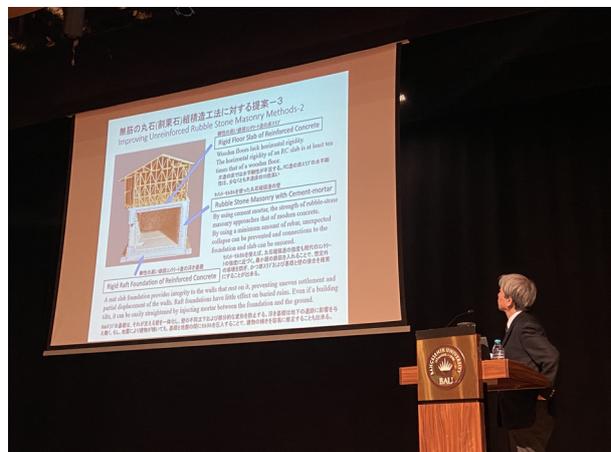
柳沢教授 これまでの経緯について説明。



シネム・キュルトゥル准教授 本プロジェクトの一連の説明。



山本教授 アンタキヤ旧市街の復興都市デザインの動画披露。



鳥巢教授 アンタキヤの伝統的住宅建築の耐震化の提案。

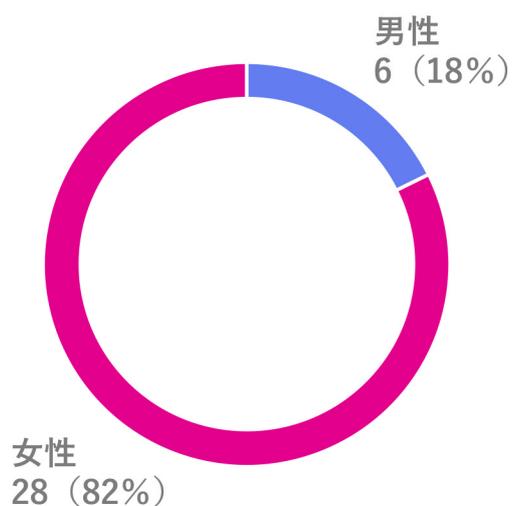
### (3) シンポジウムアンケート

調査方法：来場者から、シンポジウム終了後に紙面にて回収

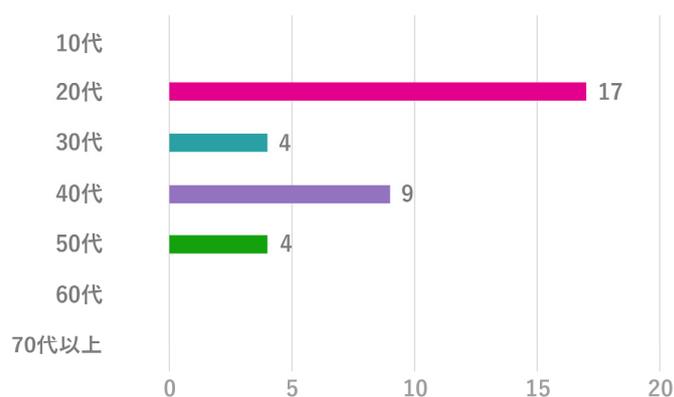
回答者数：34人

※以下、単位が無い数字は度数を示す。

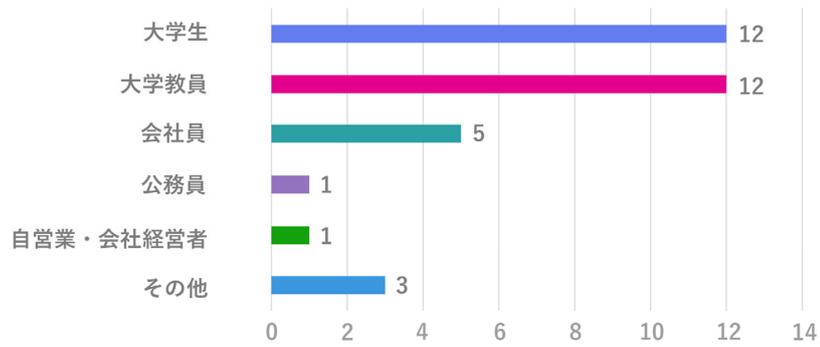
問1. あなたの性別を教えてください。



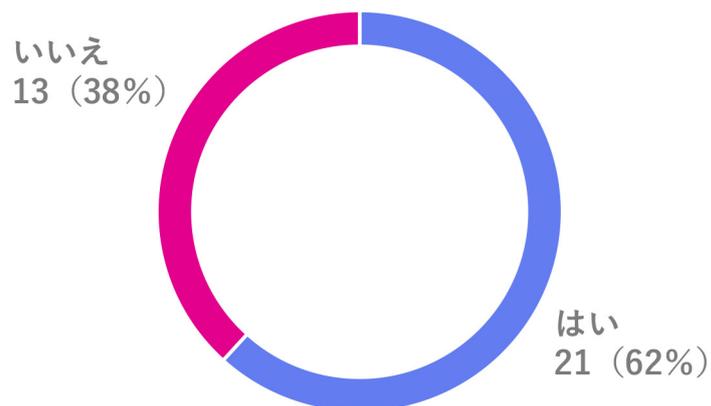
問2. あなたの年齢を教えてください。



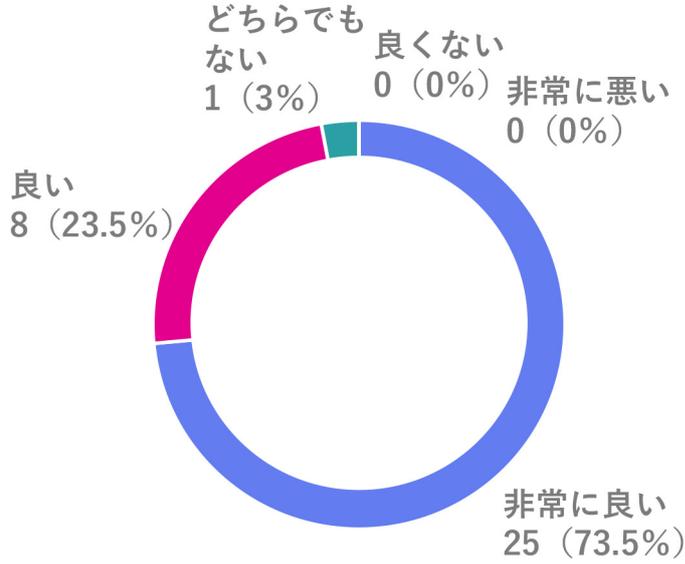
問3. 現在のあなたの職業を教えてください。



問4. 建築や都市計画などの分野に携わっていますか？



問5. 本日のシンポジウムの感想をお聞かせください。



問6. そう思われた理由をお聞かせください。

(まず最初にトルコ語のオリジナル回答を掲載し、その後、和訳を掲載する。)

「非常に良い」と答えた人

- Düzenli ve desteklenmiş argümanlar ile yapılmış iyi sunumlar.
- Fakülte ve ekip çalışma faaliyetlerinin düzenli ve planlı olması.
- Hem Japonya'ya hem de kendi ülkeme ortak paydadan yani deprem ve yıkımdan bakma şansı yakaladım. Onlar aynı yıkım sonucu 1923'te alırken biz 2023'te... Düşünülmesi gereken noktalar belli.
- Çok güzel ve yeni bir tecrübe oldu.
- Nitelikli bir sunum ve oldukça anlaşılır, ilgi çekici.
- Proje ve süreç hakkında yeterli bilgiler edindim.
- Zamanında başladı, konu dışına çıkmadı, sunumlar iyi hazırlanmıştı, faydalı bilgiler paylaşıldı, çeviri iyiydi ve son olarak tek sorun katılım yeterli değildi.
- Kapsamlı ve bilgilendirici bir sempozyumdu.
- Deprem etkilemiş ve önemli yapılarını yitirmiş bir şehrin tarihi ve kültürel dokusunu dikkate alarak yeniden inşa sürecine dair çok önemli edindim. Teşekkürler.
- Verilen bilgiler oldukça tatmin ediciydi. Deprem konusunda en yetkili ülkelerden biri olan Japonya'nın konu hakkındaki görüşleri ve fikirleri çok değerliydi.
- Antakya'nın geçirdiği deprem sonrasında kent mekanının yeniden canlandırılmasına yönelik bu çalışmanın kıymetli olduğuna

inanıyorum.

- Bilgilendirici ve ufuk açıcı.
- Depremi sonuçlarıyla mücadele edip yeni çözümler üreten ve uygulayıp kültürel değerlerimi koruyan iki ülkeden fikirlerin bir araya gelip yeni projeler üzerine konuşması bizleri geliştirecektir. Animasyonlar ve alanların öncesi sonrası fotoğrafların bazı anket sonuçları durumun anlaşılması için de çok açıklayıcıydı.
- Doğal afet sonrası tekrar yapılaşmanın şehirleşmeden çok kültürü yansıtacak şekilde tekrar inşa edilmesinin bölge bütünlüğü sağlanmasının önemini anlattığını düşünüyorum.
- Sempozyumun çok iyi olduğunu düşünüyorum çünkü; içerik, sunum şekli (video, slayt vb.), konuşmacıların çeşitliliği yeterliydi.
- Sistematik net bir düzende fikir vermek amacının dışında bilgi ve karşılaştırmacı bir okuma ve net mesajların olduğu bilimsel bir çalışmalar dizisi içerdiği için sunumun çok iyi olduğunu düşünüyorum.
- Kalite ve detaylı bir çalışma.
- Oldukça bilgi verici olduğunu düşünüyorum.
- Depremi unutmayıp, farkındalık sağlanılmasının çok güzel ve çok önemli olduğunu düşünüyorum.
- Çok kapsamlı ve incelikli bir çalışma.
- Çok başarılı hassasiyet ve ciddiyetle hazırlanmış bir konu, hazırlayanlara çok teşekkür ediyorum.
- Multidisipliner bir bakış açısı ortaya kondu.
- Çalışma sürecinin farklı açılardan (tarihsel gelişimi eğitim, kültürel vb.) ele alınıp sunulmasını başarılı buldum.
- Sunumlardaki çeşitlilik ve verilen bilgiler fazlasıyla yeterliydi.

(和訳)

- 整理され、裏付けされた論証を伴う優れたプレゼンテーション。
- 教員やチームの活動は組織化され、計画されている。
- 私は、地震と破壊という共通項から日本と自国を見る機会があった。1923年に同じ破壊があった一方で、2023年に同じ破壊があった.....考慮すべき点は明確だ。
- とても良い、新しい経験だった。
- プレゼンテーションの質が高く、非常に明快で魅力的だった。
- プロジェクトやプロセスについて十分な情報を得た。
- 時間通りに始まり、トピックから外れることもなく、プレゼンテーションの準備も良く、有益な情報が共有され、通訳も良かった。
- 包括的で有益なシンポジウムだった。
- 震災で被災し、重要な建造物を失った都市が、その歴史的・文化的風土を踏まえて復興していく過程について、多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。
- 提供された情報は非常に満足のいくものだった。地震に関して最も権威のある国の一つである日本の見解や意見は非常に貴重であった。
- アンタキヤの地震後の都市空間の活性化に関するこの調査は貴重だと思う。
- 有益で刺激的。
- 震災の影響と闘い、新たな解決策を生み出し、実行し、文化的価値を守っている2つの国からアイデアが集まり、新たなプロジェクトについて話し合うことができれば、より良いものになるだろう。アニメーションや被災地のビフォーアフターの写真、いくつかの調査結果は、状況を理解する上で非常に説明的だった。
- 自然災害の後、都市化よりも文化を反映した形で再建することが、地域の一体性を確保することの重要性を説明している

と思う。

- ・シンポジウムの内容、プレゼンテーションの方法（ビデオ、スライドなど）、講演者のバラエティが十分であったので、とても良かったと思う。
- ・科学的な調査結果を、情報、比較読解、明確なメッセージとともに一連の流れとしてまとめており、体系的でわかりやすい順序で意見を述べるという目的とは別に、非常に優れたプレゼンテーションだと思う。
- ・質の高い詳細な調査。
- ・かなり参考になると思う。
- ・震災を忘れないこと、意識を高めることはとても良いことで、とても重要なことだと思います。
- ・非常に包括的で洗練された調査。
- ・このテーマを繊細かつ真剣に準備して下さった方々に感謝したい。
- ・学際的な視点が発表された。
- ・（歴史的発展、教育、文化など）さまざまな観点から調査プロセスを提示したことが成功につながったと思う。
- ・プレゼンテーションの種類と提供された情報は十分すぎるほどだった。

#### 「良い」と答えた人

- ・Bilgilendiriciydi.
- ・Projenin içeriği ile ilgili kapsamlı bilgi aktarımı ve Antakya için geliştirilen önerilerin detaylı paylaşımının iyi olduğunu düşünüyorum.
- ・Ayrıntılı ve verimli bir paylaşım samimi olmuştur.
- ・Deprem deneyimi olan bir ülkenin tasarımcılarının kent ve yapı ölçeğinde tespitlerini dinlemek eğitici oldu. Çalışma tamamlandığında daha bütüncül ve net bir bakış sunacağını düşünüyorum.
- ・Çalışmalar çok değerli fakat Antakya Kent Dokusunun ve Kültürünün çalışmalarda biraz yüzeysel kaldığını düşünüyorum. Antakya'nın bütünsel bir akılla ele alınmasının kültürel dokusunun en iyi şekilde yansıtmanın tek yolu olduğunu düşünüyorum.

（和訳）

- ・参考になる。
- ・プロジェクトの内容に関する包括的な情報と、アンタキヤで開発された提案の詳細な共有は良かったと思う。
- ・綿密で実りある交流が行われた。
- ・都市や建物のスケールで地震経験のある国の設計者の判断を聞くことができ、勉強になった。調査が完了すれば、より全体的で明確な見解が得られると思う。
- ・アンタキヤの都市の質感と文化は、調査の中では少し表面的なものにとどまっているように思う。アンタキヤの文化的質感を最良の形で反映させるには、全体的なマインドで扱うしかないと思う。

#### 「どちらでもない」と答えた人

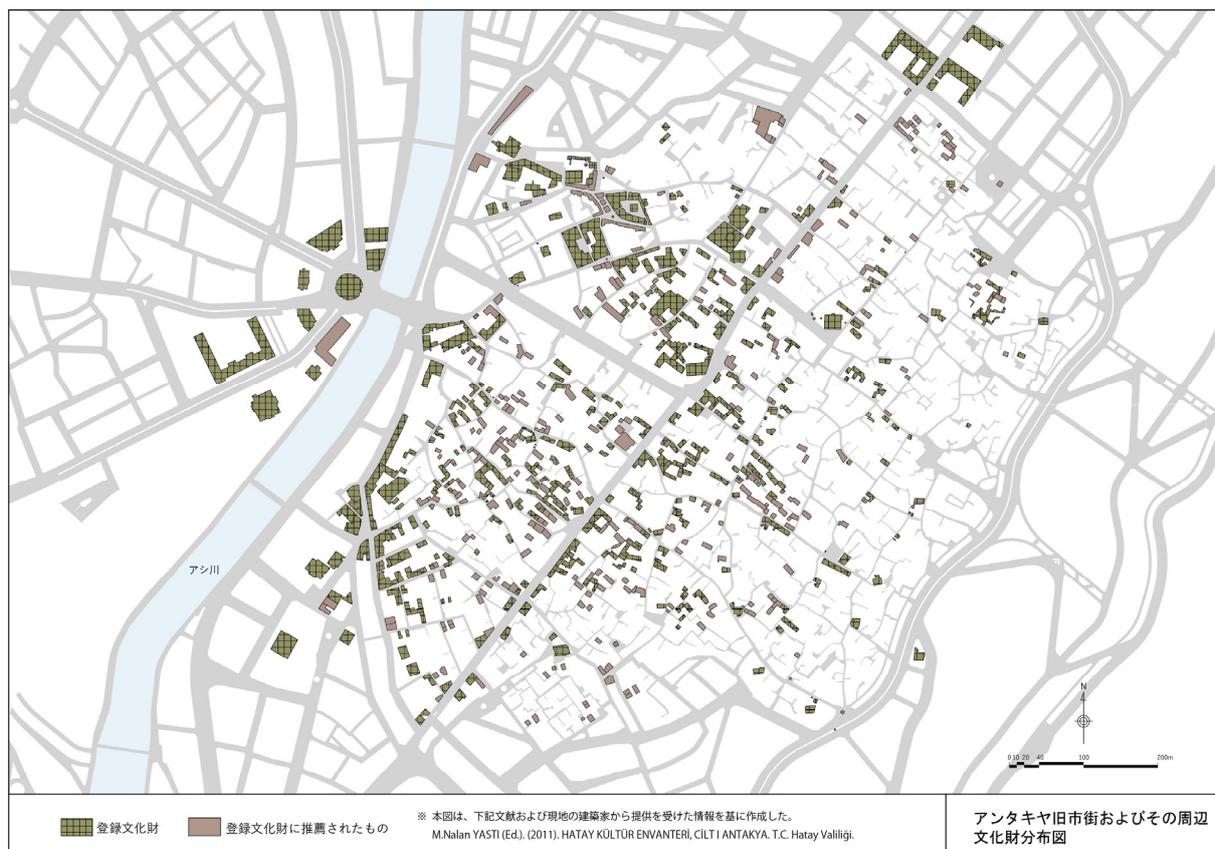
- ・Sempozyumun ne iyi ne de kötü olduğunu düşünüyorum çünkü; Antakya'nın tarihi yapılarından bahsedilmedi, Antakya Sarayı ve Hipodromu gibi.

（和訳）

- ・アンタキヤ宮殿やヒッポドロームなど、アンタキヤの歴史的建造物について言及されなかったので、シンポジウムは良くも悪くもなかったと思う。

## 2-5. アンタキヤ旧市街の復興都市デザイン提案の最終成果物

### (1) 文化財分布図



※図の下欄にも記しているが、本図は、下記文献および現地の建築家から提供を受けた情報を基に作成した。

M.Nalan YASTI (Ed.). (2011). HATAY KÜLTÜR ENVANTERİ, CİLT I ANTAKYA. T.C. Hatay Valiliği.

※アシ川より東側が旧市街、西側が新市街である。従って本図には、新市街の文化財の表記が一部含まれる。

- 登録文化財や、登録文化財に推薦されたものが、非常に多く存在していることがわかる。
- 現地の建築家によると、登録文化財に推薦されなくても歴史的・文化的価値のあるものが、さらに多く存在するという。それらについては、本図には反映できていない。①登録文化財、②登録文化財に推薦されたもの、③登録文化財に推薦されなくても歴史的・文化的価値のあるもの、をあわせると約 1500 件にもものぼると言う。
- アンタキヤ旧市街の町全体が文化財と言っても過言ではない。

## (2) アンタキヤ旧市街の復興都市デザイン提案の動画

<https://sa.mukogawa-u.ac.jp/965/> を参照のこと

### <作成方針>

- 多くの住民から賛同を得た「アンタキヤ旧市街の町並み復興に向けての9つの提案」に即して、アンタキヤ旧市街の復興都市デザイン提案の動画を作成した。

#### 「アンタキヤ旧市街の町並み復興に向けての9つの提案」

- ①アンタキヤの町並みの伝統やアイデンティティを継承しつつ、地震に強いまちづくりを目指す。
- ②中庭や路地空間を大切にす。
- ③伝統的な材料（石、木、瓦など）を大切にす。
- ④地元の建築家の意見を大切にす。
- ⑤通りに面する両側町並みの連続性を大切にす。
- ⑥川や山がある景観を大切にす。
- ⑦ミナレットやドームによるスカイラインを大切にす。
- ⑧建物のスケールを大切にす。
- ⑨ウォーカブルな町を目指す。

※「アンタキヤ旧市街の町並み復興に向けての9つの提案」については下記の報告書を参照のこと。

文化庁 令和5年度緊急的文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）

「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する国際貢献事業」報告書

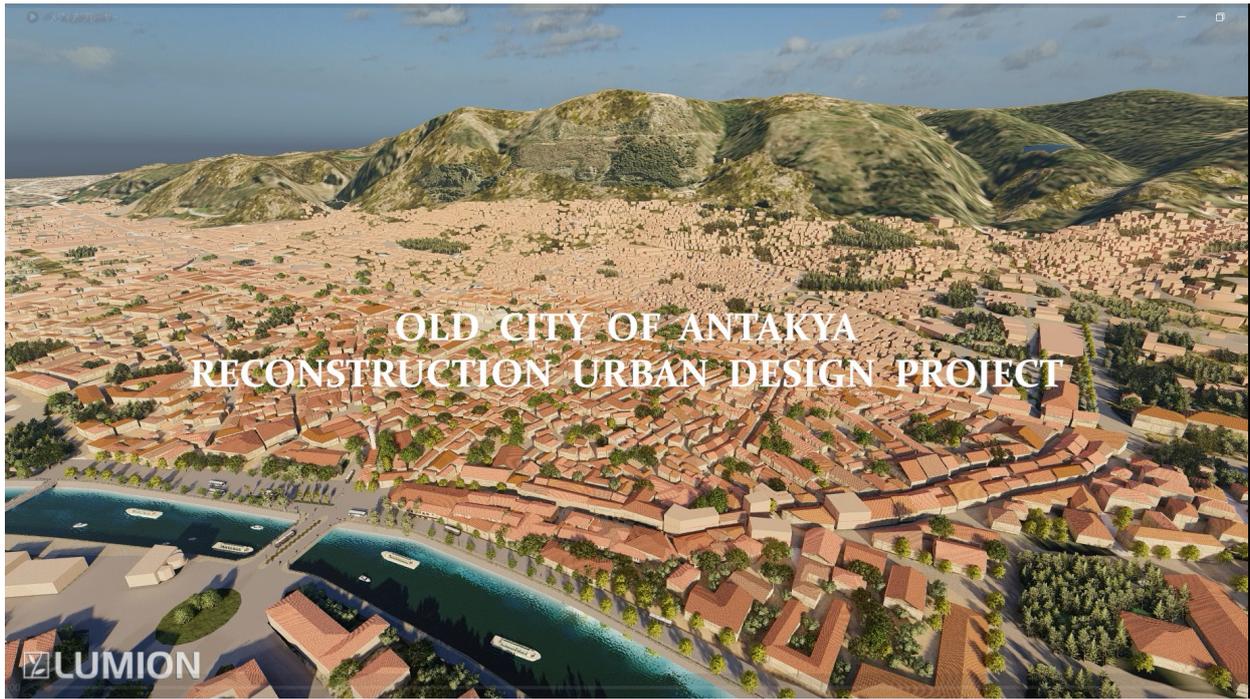
[https://itics.mukogawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/Report\\_Mukogawa\\_Agency-for-Cultural-Affairs\\_202403.pdf](https://itics.mukogawa-u.ac.jp/wp-content/uploads/2024/04/Report_Mukogawa_Agency-for-Cultural-Affairs_202403.pdf)

- 特に⑤「通りに面する両側町並みの連続性を大切にす。」について、クルトゥルシュ通り、ヒュリエット通り、オウズラル通りを事例として、下記のようなデザイン方針のもと、提案を行った。

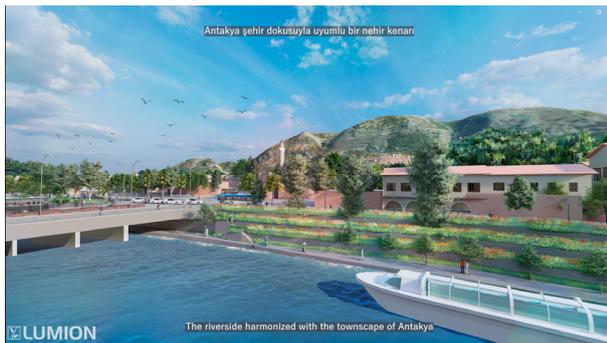
### <デザイン方針>

- ・文化財建造物については元の通りに復元す。
- ・非文化財建造物については、文化財建造物に調和するように整備す。
  - ジュンバ\*の連続性を大切にす（クルトゥルシュ通り）
  - アーチの連続性を大切にす（ヒュリエット通り）
  - 漆喰や石積みの壁面の連続性を大切にす（オウズラル通り）
  - 低層とする（全ての通り）
  - 勾配屋根とする（全ての通り）

\* ジュンバ（cumba）とは、トルコの建築において、2階以上の外壁から突き出した張り出し部分を示す。2階以上の外壁すべてが張り出す場合もある。



アンタキヤ旧市街 全景。



緑豊かなアシ川。ミナレットによるスカイライン。  
川沿いの建物は低層とする。ハビベネッジャール山を望む。



クルトゥルシュ通り。歩行者のための通りとする。



クルトゥルシュ通りの文化財建造物。元の通りに復元する。



クルトゥルシュ通りの非文化財建造物。  
ジュンバの連続性を大切にする／低層／勾配屋根



クルトゥルシュ通りのジャーミイ。



クルトゥルシュ通りはトランジットモールとし、路線バスのみ通行可とする。



ヒュリエット通り。歩行者のための通りとする。



ヒュリエット通りの文化財建造物。元の通りに復元する。



ヒュリエット通りの非文化財建造物。

アーチの連続性を大切にする／低層／勾配屋根



ヒュリエット通りの奥にハビビネツジャール山が見える。



シラフル・クヴェトゥレシュ通りのフランス統治時代の建物。

文化財建造物。元の通りに復元する。



オウズラル通り。歩行者のための通りとする。



オウズラル通りの非文化財建造物。

漆喰や石積みの壁面の連続性を大切にする／低層／勾配屋根



オウズラル通りの文化財建造物。元の通りに復元する。



伝統的な住宅系建築の中庭。



路地空間。中央に雨水の排水路がある。



中庭の様子。



中庭の様子。



中庭には2階へあがる階段がある。



中庭には切り石積みの壁があり、  
クシュタカスと呼ばれる四角い換気窓がとられる。



伝統的なアラトゥルカ瓦。



アンタキヤの一日も早い復興を願って。

### (3) アンタキヤの伝統的住宅建築の耐震化の提案（理想モデル）

- ① 玉石(栗石)組積造工法に使用するモルタル強度を強化する。
- ② 鉄筋コンクリート造マットスラブの浮き基礎(ベタ基礎)とする。
- ③ 2階の床を鉄筋コンクリート床版とし、水平剛性を確保する。
- ④ 玉石(栗石)組積造壁に配筋し、礎版・床版と剛接する。
- ⑤ 2階の木造の接合部強度を強化する。

#### ① 玉石(栗石)組積造工法に使用するモルタル強度を強化する。

2023年2月の地震により壊滅状態となったアンタキヤ旧市街を、耐震化して復興する、あるいは歴史的景観を再現しつつ耐震化することを目指すならば、様々な構法が考えられる。本提案では、歴史的景観を再築するだけでなく、街並の景観を醸成している建築の伝統的構法の継承を勘案しつつ、その耐震化を計る方策を目指す。一方、伝統構法には歴史的に一定程度の耐震性があり、伝統構法が正統に施工されていたならば、倒壊は免れたとの見解もあるが、その客観的検証、あるいは正統的構法の仕様化は容易とは言えない。したがって、本提案では伝統的工法を現代的に改良することで、耐震性を強化するものとする。なお、アンタキヤ旧市街には、様々な時代の多様な歴史的建築物が存在し、その規模も構法も異なるため、本提案では最も多く存在する住宅建築を対象とする。

アンタキヤの歴史的建築物として登録、または登録申請されている住宅建築の大部分は、コートハウス式の2階建住宅である。1階は玉石(栗石)組積造(rubble-stone masonry)、2階はトルコ式枠組構法の木造瓦葺きで、1階の中庭側外壁は切石張り、2階の外壁はBağdadiと呼ばれる木製ラス下地にプラスター塗りが一般的である。

建物の耐震性を左右する壁量だけを見れば、日本の伝統的住宅より遙かに多く、外形上は耐震性の高い形状を有している。それにも関わらず倒壊に至った要因は、壁体の強度および靱性が脆弱であったからと言わざるを得ない。

アンタキヤの伝統的な玉石組積造壁(壁厚40~50cm程度)は、主に石灰岩系または大理石系の玉石(粒径15~20cm程度)の間に小石とモルタルを詰めながら積み上げる工法で築造されるが、アース・モルタル(またはマッド・モルタルあるいは石灰モルタル)と呼ばれる土に石灰・石膏などを混ぜて水で練ったモルタルが使用される。鈹物の骨材とモルタルと言う、出来形の組成を見る限り、玉石組積造壁体は古代のローマン・コンクリートあるいは現代のダム用コンクリート(粗骨材最大粒径150mm)と変わらない。したがって、工法は異なるが、材料力学的にはコンクリートの一種と言える。組積造でも切石積みや焼成煉瓦積みでは空積みでも成立つが、玉石積みではモルタルの圧縮強度および付着強度がなければ組積造として成立たず、寧ろコンクリート壁体と看做すべき構造体である。

コンクリートの破壊強度は、骨材強度・モルタル強度・骨材とモルタルの付着強度の内で最小の値で決まるが、アンタキヤ旧市街の玉石組積壁の破壊性状を見る限り、モルタルの破壊が組積造壁の破壊を引き起こしている。アース・モルタルの圧縮強度は、現代的なセメント・モルタルの1/10程度しかない。したがって、玉石組積造に現代のセメント・モルタルを使用すれば、その強度はセメント・コンクリート並に強化され、耐震性強度も飛躍的に改善されることが期待できる。



貧弱なアース・モルタル

他方、壁体強度を強化せずとも、鉄筋補強または繊維補強により壁体の靱性を増強し、耐震性を改善することも考えられるが、組積造壁は脆く、補強材が補強効果を発揮する前に、僅かな変形でひび割れて損傷する。壁体がひび割れても、補強材により耐力が維持され、建物の崩壊を防ぐが、組積造壁に生じた損傷は復元することなく残存し、地震の繰返しで蓄積する。即ち、地震により損傷した建物の耐震性は劣化し、残存する耐震性は保証できず、継続使用が危ぶまれる。



玉石組積造壁体の破壊状態

したがって、持続的な耐震性を向上するためには、地震による損傷を最小限に抑えることが望まれる。そのため、玉石組積造に現代のセメント・モルタルを使用し、壁体強度を強化することを、第一に提案する。なお、アース・モルタルには微細な空隙があり、日本の土壁と同様に吸放湿性に優れ、良好な室内環境をもたらすと言われているが、微細な空隙は同時に強度低下をもたらす。即ち、モルタルの強度と吸放湿性は相反するが、耐震性向上が優先されるべきと考える。

## ② 鉄筋コンクリート造マットスラブの浮き基礎(ベタ基礎)とする。

アンタキヤ旧市街は、アンタキヤ地溝帯の東南端に位置し、ハビビネツジャー山脈の裾野および段丘上にアシ川のもたらした土砂が堆積した台地に位置する。アンタキヤの長い歴史から、地表付近には遺跡・遺構・遺物が埋没していると推察できるが、震災後アンタキヤのギリシャ正教会付近で行なわれたボーリング調査によれば、地表の3m程度は瓦礫の層、その下部4m程度は固結した沖積粘性土層、地表から7m以深は強風化岩層であった。

したがって、表層の瓦礫の堆積層を除けば、低層住宅を支持する地盤としては、十分な強度を有し、



露呈したローマ時代の暗渠

沈下が生じる可能性も低い。瓦礫の堆積層を貫く杭基礎も考えられるが、遺跡の保存を考慮するならば非侵襲的な基礎工法が求められる。

一方、上部の玉石組積造壁は脆く、僅かな変形あるいは不同沈下でもひび割れる可能性があり、剛性の高い基礎が求められる。そこで、鉄筋コンクリート造マット・スラブ(1枚の厚い礎版)の浮き基礎(raft foundation)とすることを提案する。

マット・スラブとすることで、上部の玉石組積造壁を一体化し、不同沈下や局所的な水平移動を防ぐことができる。同時に、浮き基礎(ベタ基礎)とすることで、地反力を平均化し、地下に埋設された遺跡・遺物に対する影響を最小限に留めることもできる。

地下に埋設する瓦礫の堆積層の力学特性は予測出来ないため、地震により建物が傾く可能性もあるが、建物が傾いたとしても、マット・スラブとすることで、建物が変形することなく全体的に傾くことになる。また、傾いたとしても、マットスラブに削孔し、礎版と地盤の間にモルタルを圧入することで、建物の傾きは容易に修正できる。

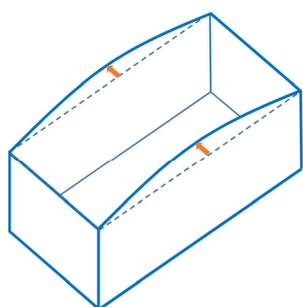
### ③ 2階の床を鉄筋コンクリート床版とし、水平剛性を確保する。

アンタキヤの伝統的住宅建築では、1階の玉石組積造壁の上部には、木造の梁を架け、その上に木造の床組みが敷かれている。組積造壁は面内(in-plane)水平力に対しては強度および剛性を有するが、面外(out-of-plane)水平力に対しては脆弱である。したがって、組積造が耐震性を有するためには、壁体に生じる面外水平力を床面により直交配置された壁へ(面内水平力として)伝達する必要があり、床面は必要不可欠な構造体である。

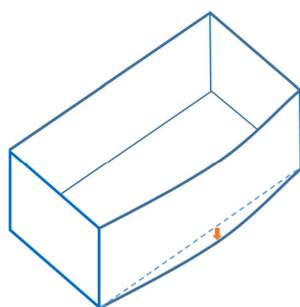


玉石組積壁と木造床

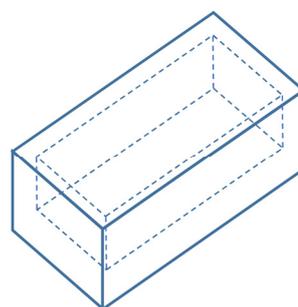
しかし、伝統的工法に於いては、床面および組積造壁体との接合部は、必ずしもその様な観点で設計されていない。たとえ、木造床が面内水平力に対し



壁上部の面外変形



壁下部の不同沈下



局部変形を生じない剛強な箱状構造

て強度を有したとしても、木材は他の建築材料に比べて剛性が低く、十分な水平剛性を確保できない。

したがって、玉石組積造壁の頂部には、鉄筋コンクリート造床版を設け、各壁体を一体化することを提案する。鉄筋コンクリート造床版にすることで、床面の水平剛性を木

造床の10倍以上確保することができる。なお、伝統的な住宅の平面に限れば、床版の張間は4m以下であり、床梁を設けることなく、1枚の床版で張り渡すことができる。

#### ④ 玉石(栗石)組積造壁に配筋し、礎版・床版と剛接する。

組積造壁の底部には、鉄筋コンクリート造礎版を、頂部には鉄筋コンクリート造床版を配することで、組積造壁体を一体化し、剛強な箱状の構造体を形成できるが、このような箱状の構造体は極めて高い耐震性を有する。その構造は日本の鉄筋コンクリート造壁式構造に相当し、過去の震災に於いて、その耐震性は実証されている。

箱状の構造体を形成するためには、礎版と組積造壁、組積造壁と床版の接合を確実にする必要がある。そのために、組積造壁体にも最小限の鉄筋を配筋し、鉄筋により接合部の強度を確保することを提案する。

なお、組積造壁体に配筋する鉄筋は、壁体の損傷強度を高めるものではないが、乾燥収縮ひび割れの拡大や地震による想定外の崩壊を防ぐこともできる。

#### ⑤ 2階の木造の接合部強度を強化する。

1階の玉石組積造を閉じた箱状の構造体とすることで、高い水平剛性を確保できるので、2階の木造構造体に対する地震力の増幅度を低く抑えることができる。

アンタキヤの伝統的な木造構法はトルコ式の枠組構法であり、現在トルコで常用されている木造枠組構法と基本的に大差はないが、現行の枠組構法では、トルコ建築耐震規準(TBEC-2018)でも規定されているように、筋違いより合板張りが多用されている。

日本の軸組構法とは異なり、枠組構法の接合部は剛接ではないので、建方に於いて骨組の安定を保つためにも筋違い



玉石組積壁と Bağdadi 外壁

が必要となるが、筋違いの量および配置は建物により多様である。TBEC-2018の規定を満たす筋違い、あるいは筋違いに替る合板張りが求められる。また、屋根面の面内水平耐力および剛性は、野地板張りで確保できるためか、TBEC-2018には屋根面の規定が明記されていないが、屋根面の面内水平耐力を確保できる接合が求められる。

合板や断熱材あるいは接合金物を用いた現代的なトルコの木造枠組構法は、日本の木造枠組構法とほぼ同じで、高い耐震性を有すると考えられ、TBEC-2018の規定を遵守するならば、耐震性は確保される。

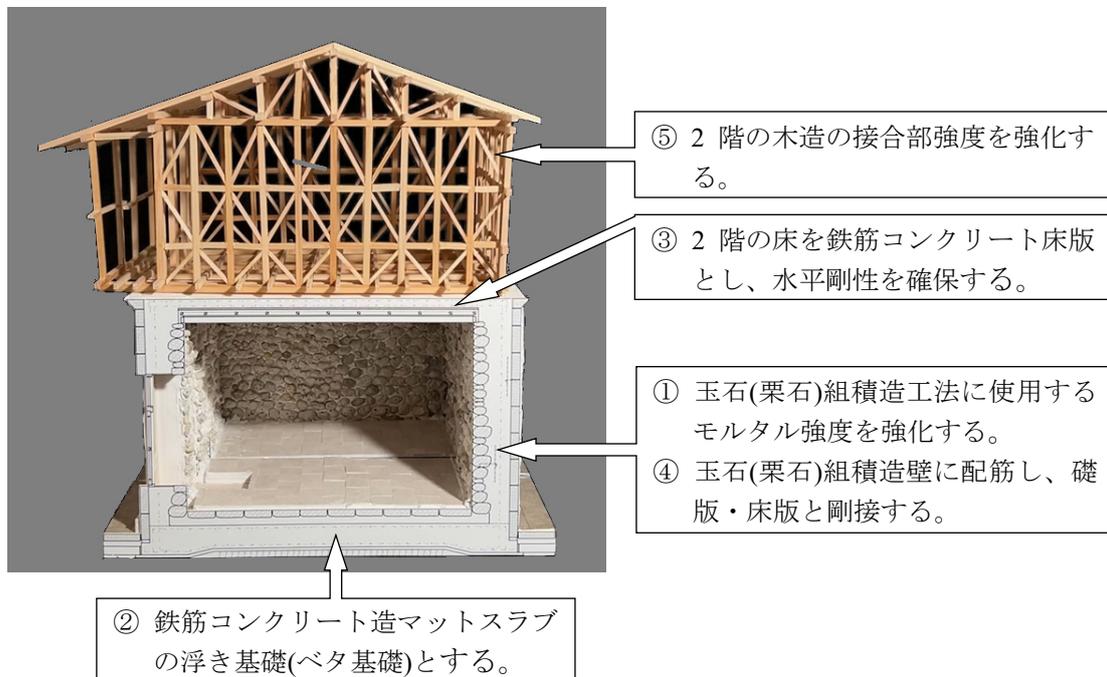
他方、アンタキヤの伝統的な木造枠組構法では、合板張りに代り筋違いおよび木製ラス(Bağdadi)が、金物とビスに代り釘が、断熱材に代り小石や土壁が用いられており、現

行の枠組構法に比べれば、耐力および剛性が劣るだけでなく、重量も大きくなっている。したがって、出来る限り現行の枠組構法に近づける改良が望まれるところである。

しかしながら、伝統構法を継承することも同時に求められる。地震により木造建物が崩壊するとき、木材が破壊する以前に接合部が破損し、架構が分解することで、建物が崩壊に至ると言われている。したがって、伝統枠組構法の耐震性を強化するためには、TBEC-2018 の規定に則った筋違いを配することは勿論ではあるが、接合部の強度を確保することを提案する。

なお、アンタキヤの被災地では、木製ラス下地にプラスターを塗った天井が、震災で崩落している光景が散見されるが、伝統的木造枠組構法では建物の剛性が不足し、脆い天井の破損を引き起こす可能性が高い。崩落により人命に危害を及ぼす可能性のある非構造部材も見直すことが望まれる。

#### 提案に基づき耐震化したアンタキヤの伝統的住宅建築の模型写真



#### 参考文献

- 1) Bozyigit B., et al.: Investigation of Stone Masonry Construction Techniques and Material Properties in Hatay and Osmaniye after the 2023 Turkey Earthquake Sequence, Conference paper of 18th World Conference on Earthquake Engineering (WCEE2024) at Milan, 2024.
- 2) KESKA ZEMİN YAPI LABORATUVARI ve MÜHENDİSLİK: T.C. HATAY İLİ, ANTAKYA İLÇESİ, 3.MINTIKA, ANTAKYA RUM ORTODOKS KİLİSESİ VAKFI ADINA KAYITLI 0 ADA, 53 PARSELDE YAPILMASI DÜŞÜNÜLEN YAPIYA AİT, 2024. (地質調査報告書)

## **【ENGLISH TRANSLATION】**

### **Proposals for Strengthening the Earthquake Resistance of Traditional Residential Architecture in Antakya (Ideal model)**

- (1) Enhance the strength of mortar used in rubble-stone masonry construction.
- (2) Use a raft foundation (mat foundation) made of reinforced concrete mat slab for the foundation.
- (3) Ensure horizontal rigidity by making the second floor of reinforced concrete.
- (4) Put reinforcement in the rubble-stone masonry wall and rigidly connect it to the foundation slab and floor slab.
- (5) Enhance the strength of the wooden joints on the second story.

#### **(1) Enhance the strength of mortar used in rubble-stone masonry construction.**

If the goal is to rebuild the old city of Antakya, which was devastated by the earthquake in February 2023, and to strengthen its earthquake resistance, or to strengthen earthquake resistance while recreating the historical landscape, various construction methods can be considered. These proposals are aimed not only at reconstructing the historical landscape but, also, to strengthen the earthquake resistance of the area while taking into consideration the preservation of the traditional building construction methods that create the townscape. On the other hand, there is a view that traditional construction methods have historically been able to provide a certain degree of earthquake resistance, and that if the building had been constructed using traditional methods in an orthodox manner, the collapse would have been avoided; however, it is not easy to objectively verify this or to specify orthodox construction methods. Therefore, these proposals aim to strengthen earthquake resistance by improving on traditional construction methods with modern techniques. In the old city of Antakya, there are a variety of historical buildings from different eras, with different sizes and construction methods; thus, these proposals focus on the residential buildings, which are the most numerous.

The majority of residential buildings registered, or proposed for registration, as historic structures in Antakya are two-story court-house-style homes. The first story is made using rubble-stone masonry; the second story is made of Turkish-style wooden frame construction with a tiled roof; the first-story exterior wall facing the courtyard utilizes ashlar cladding; and the second-story exterior wall is generally made of a wooden lath base, called “Bağdadi,” with a plaster coating.

If we look only at the amount of walls, which determines the earthquake resistance of a building, it is far greater than that of traditional Japanese houses, and the buildings’ external shape gives them a highly earthquake-resistant character. Nevertheless, the cause of the collapse must be attributed to the walls’ weakness in terms of strength and ductility.

Antakya's traditional rubble-stone masonry walls (with a wall thickness of about 40-50 cm) are

constructed by stacking limestone or marble rubble-stone (with a grain size about 15-20 cm) with pebbles and mortar packed between them. Earth mortar (or mud mortar or lime mortar) is used, which is a mortar made by mixing soil with lime, gypsum, etc., and then mixing it with water. Judging from the composition of the finished product, which is mineral aggregate and mortar, the rubble-stone masonry walls are no different from ancient Roman concrete or modern dam concrete (with a maximum coarse aggregate particle size 150 mm). Therefore, although the construction method is different, in terms of material mechanics it can be considered a type of concrete. In regular masonry construction, dry stacking is also possible with ashlar and burnt brick masonry, but with rubble-stone masonry, if the mortar does not have enough compressive strength and adhesive strength, it cannot be considered masonry; rather, it is a structure that should be considered a concrete wall.

The rupture strength of concrete is determined by the minimum of the aggregate strength, mortar strength and bond strength between the aggregate and mortar, but, looking at the failure properties of the rubble-stone masonry walls in the old city of Antakya, it is the failure of the mortar that causes the failure of the masonry walls. The compressive strength of earth mortar is only about one-tenth that of modern cement mortar. Therefore, if modern cement mortar is used in rubble-stone masonry, its strength will be increased to the same level as cement concrete, and its earthquake resistance will be dramatically improved.

On the other hand, it is possible to improve earthquake resistance without strengthening the walls by increasing wall ductility through steel bar or fiber reinforcement; however, with even slight deformation, masonry walls are fragile and will crack and become damaged before the reinforcing materials can exert their reinforcing effect. Even if the walls crack, the reinforcement materials maintain their strength and prevent the building from collapsing, but the damage



Poor earth mortar



Damaged state of a rubble-stone masonry wall

caused to the masonry walls remains and accumulates with repeated earthquakes. In other words, the earthquake resistance of buildings damaged by earthquakes deteriorates, their remaining earthquake resistance cannot be guaranteed, and their continued use is questionable.

Therefore, in order to achieve improved, sustainable earthquake resistance, it is desirable to minimize the damage caused by earthquakes. The first suggestion, therefore, is to use modern cement mortar in the rubble-stone masonry to enhance wall strength. Earth mortar contains fine voids, and like Japanese clay walls, it has excellent moisture absorption and release properties,

contributing to its prominent improvement of the indoor environment, but the fine voids also reduce its strength. In other words, although the strength of mortar and its moisture absorption and release properties are inversely related in this case, we believe that improving earthquake resistance should take priority.

**(2) Use a raft foundation (mat foundation) made of reinforced concrete mat slab for the foundation.**

The old city of Antakya is located at the southeastern end of Antakya Graben on a plateau formed by the accumulation of sediment from the Asi River at the foot of the Habib-i Nejjar Mountain and on terraces. Given Antakya's long history, it can be assumed that there are ruins, remains and artifacts buried near the surface, and a boring survey conducted near the Greek Orthodox Church in Antakya after the earthquake revealed that about 3 m beneath the surface was a layer of rubble, about 4 m below that was a layer of consolidated alluvial clayey soil, and more than 7 m below the surface was a layer of strongly weathered rock.



Exposed Roman culvert

Therefore, apart from the surface layer of rubble, the ground is strong enough to support low-rise housing and is unlikely to sink. Pile foundations penetrating the rubble deposits could be considered, but if consideration is given to preserving the ruins, a non-invasive foundation construction method is required.

On the other hand, though, the upper rubble-stone masonry wall is fragile and may crack even with slight deformation or uneven settlement, so a highly rigid foundation is required. Therefore, we propose a raft foundation made of reinforced concrete mat slab (a single thick foundation slab) be used.

By using a mat slab, the upper rubble-stone masonry wall can be integrated, preventing uneven settlement and localized horizontal movement. At the same time, by using a raft foundation (mat foundation), the ground reaction forces can be averaged out, minimizing the impact on ruins and artifacts buried underground.

Since the mechanical properties of the rubble layer buried underground are unpredictable, there is a possibility that the building may tilt due to an earthquake; however, even if the building does tilt, by using a mat-slab structure, the building will not deform but tilt as a whole. Even if the building does tilt, the tilt can be easily corrected by drilling holes in the mat slab and injecting mortar between the foundation slab and the ground.

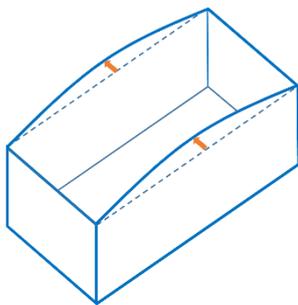
### (3) Ensure horizontal rigidity by making the second floor of reinforced concrete.

In the traditional residential architecture of Antakya, wooden beams are placed on top of the rubble-stone masonry walls of the first story, and a wooden floor structure is laid on top of that. Masonry walls have strength and rigidity against in-plane horizontal forces, but they are weak against out-of-plane horizontal forces. Therefore, for masonry construction to be earthquake-resistant, the out-of-plane horizontal forces occurring in the wall must be transmitted to the orthogonal wall (as in-plane horizontal forces) by the floor, and therefore the floor is an essential structural element.

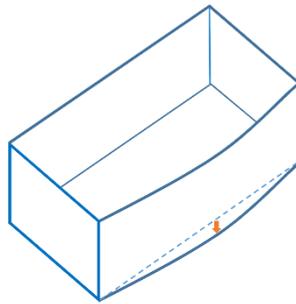


Rubble-stone masonry walls and wooden floors

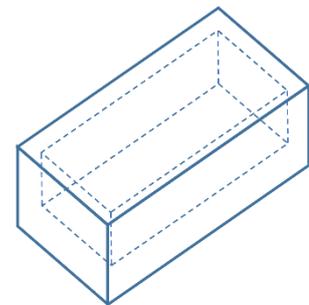
However, in traditional construction methods, the



Out-of-plane deformation of the upper part of the wall



Uneven settlement at bottom of wall



A rigid, box-shaped structure that does not cause local deformation

joints between the floor and the masonry walls are not necessarily designed with this in mind. Even if a wooden floor has strength against in-plane horizontal forces, wood has lower rigidity than other building materials and cannot ensure sufficient horizontal rigidity.

Therefore, we propose installation of a reinforced concrete floor slab on top of the rubble-stone masonry wall to integrate each wall body. By using a reinforced concrete floor slab, the in-plane horizontal rigidity of the floor can be ensured at more than 10 times that of a wooden floor. In addition, when it comes to a traditional house, the span of the floor slab is 4 m or less, and a single floor slab can be used across the entire floor without the need for floor beams.

### (4) Put reinforcement in the rubble-stone masonry wall and rigidly connect it to the foundation slab and floor slab.

By placing a reinforced concrete foundation slab at the bottom of the masonry walls and a reinforced concrete floor slab at the top, the masonry walls can be integrated to form a sturdy, box-shaped structure which has extremely high earthquake resistance. Its structure is equivalent to Japan's reinforced concrete bearing-wall structure, and its earthquake resistance has been proven

in past earthquakes.

To form a box-shaped structure, it is necessary to ensure the foundation slab and the masonry wall, as well as the masonry wall and the floor slab, are reliably joined. For this, we propose using a minimum amount of reinforcing bars in masonry walls to ensure joint strength.

Although the steel bars placed in masonry walls do not increase the walls' resistance to damage, they can prevent the expansion of drying shrinkage cracks and unexpected collapse due to earthquakes.

##### **(5) Enhance the strength of the wooden joints on the second story.**

By making the rubble-stone masonry on the first story a closed box-shaped structure, high horizontal rigidity can be ensured, which helps to keep the amplification of earthquake forces on the wooden structure on the second story low.

Antakya's traditional wooden construction is Turkish frame construction, which is not fundamentally different from the wooden frame construction commonly used in Turkey today, although the current frame construction makes more use of plywood than braced panels, as stipulated in the Turkish Building Earthquake Code (TBEC-2018).



Rubble-stone masonry and Bağdadi exterior walls

Unlike Japanese post-and-beam construction, the joints in frame construction are not rigid, so braces are needed to keep the frame stable during construction, but the amount and placement of braces vary depending on the building. A bracing system that meets the requirements of TBEC-2018, or a plywood alternative to bracing, is required. In addition, since the in-plane horizontal strength and rigidity of the roof can be ensured by laying sheathing boards, TBEC-2018 does not specify regulations for the in-plane horizontal strength of the roof, but it does require joints that can ensure the in-plane horizontal strength.

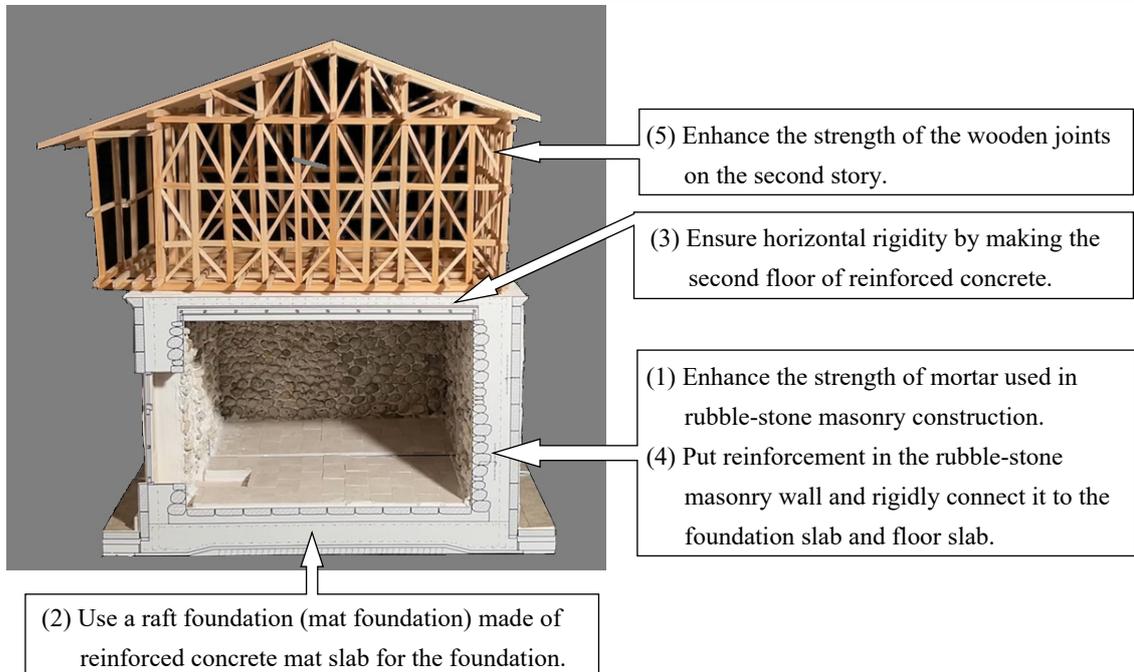
Modern Turkish timber frame construction using plywood, insulation material and metal joints is similar to Japanese timber frame construction and is considered to have a high earthquake resistance, which can be ensured if the provisions of TBEC-2018 are observed.

On the other hand, Antakya's traditional wooden frame construction method uses cross braces and wooden laths (Bağdadi) instead of plywood, nails instead of metal fittings and screws, and pebbles and mud walls instead of insulation material, and it is not only weaker in strength and rigidity than current frame construction methods, but also heavier. Therefore, improvements that bring the methods used as close as possible to current frame construction methods are desirable.

However, at the same time, there is a need to preserve traditional construction methods. When a wooden building collapses due to an earthquake, it is said that the joints break before the wood is destroyed, causing the structure to fall apart, leading to the building's collapse. Therefore, in order to strengthen the earthquake resistance of traditional frame construction, it is recommended to not only arrange the braces in accordance with the provisions of TBEC-2018, but also to ensure the strength of the joints.

In the disaster-stricken areas of Antakya, there are many instances of ceilings made of plaster applied to a wooden lath base collapsing due to the earthquake, but traditional wooden frame construction methods do not provide enough rigidity for buildings, increasing the likelihood of damage to fragile ceilings. It is also advisable to review non-structural components whose collapse could pose a danger to human life.

**Model of a traditional Antakya house that has been made earthquake-proof based on these proposals**



**References**

- 1) Bozyigit B., et al.: Investigation of Stone Masonry Construction Techniques and Material Properties in Hatay and Osmaniye after the 2023 Turkey Earthquake Sequence, Conference paper of 18th World Conference on Earthquake Engineering (WCEE2024) at Milan, 2024.
- 2) KESKA ZEMİN YAPI LABORATUVARI ve MÜHENDİSLİK: T.C. HATAY İLİ, ANTAKYA İLÇESİ, 3.MINTIKA, ANTAKYA RUM ORTODOKS KİLİSESİ VAKFI ADINA KAYITLI 0 ADA, 53 PARSELDE YAPILMASI DÜŞÜNÜLEN YAPIYA AİT, 2024. (Geological Survey Report)

## 2-6. 相手国の協力機関（＝バフチェシヒル大学）からの当該事業に対する所感

Participating in the "Revitalization of Antakya's Historic Urban Fabric" project, conducted in collaboration between Mukogawa Women's University and Bahçeşehir University with grant support from Japan's Agency for Cultural Affairs, has been a deeply enriching experience for me, both professionally and personally. This project aimed to transfer technical knowledge to young Turkish researchers in the reconstruction of Antakya's historic city center, enabling them to develop competencies throughout the entire process, from field research to design proposals.

During the project, a detailed analysis was conducted on the historical and archaeological fabric of Antakya to preserve the values embedded in existing structures from past to present. Additionally, assessments of the seismic resilience of buildings played a critical role in determining future reinforcement and design solutions. Alongside structural analyses, comprehensive surveys were conducted to understand local residents' expectations, revealing their strong attachment to the city's historical memory and ensuring their active participation in the project.

In the design phase, efforts were made to develop modern urban design strategies while preserving Antakya's unique architectural character. The project aimed to balance cultural heritage conservation, the creation of a high-quality urban landscape, and enhanced earthquake resilience. Under the guidance of Japanese experts, the reuse of traditional building materials was encouraged, emphasizing the seismic advantages of local materials such as stone. To reinforce technical knowledge transfer, young Turkish researchers participated in field studies and intensive technical training sessions. A broad spectrum of expertise was shared, ranging from traditional restoration techniques of Japanese architectural schools to modern engineering approaches. Notably, detailed training in earthquake engineering provided invaluable insights for rebuilding historic city centers in Turkey.

The outcomes of these studies were presented at the "Revitalization of Antakya's Historic Urban Fabric" symposium, a significant demonstration of international academic collaboration. At this event, academics from both universities showcased their design proposals and research findings for the reconstruction of Antakya. The knowledge shared by Japanese experts on traditional construction techniques was particularly valuable for Turkey's academic community and local administrations. My personal observations throughout the project reaffirmed the vital role of international architectural collaborations in reinterpreting historic urban fabric. I strongly believe that the experiences gained by young researchers through such initiatives will serve as a guiding framework for future urban conservation projects across Turkey. In this regard, the Antakya project should be viewed not merely as an academic study but as a sustainable model for rebuilding historic cities.

The project's societal contributions were just as significant as its academic and technical achievements. The field studies conducted to understand the needs and expectations of the local community enhanced public engagement, encouraging residents to take ownership of their own cultural heritage. Surveys and direct interviews highlighted the community's sensitivity not only to the preservation of physical structures but also to cultural identity. The solutions proposed by Japanese and Turkish academics provided valuable guidance for local governments and NGOs, offering a

strong model for managing similar projects in the future. Moreover, the knowledge and skills acquired by young Turkish researchers will extend beyond academia, directly benefiting on-site conservation efforts and the training of future experts in historical urban preservation and reconstruction.

Ultimately, this project was not just an urban design initiative; it was a process that strengthened societal awareness of cultural heritage and ensured its continuity for future generations.

Prof. Dr. Murat DÜNDAR  
Dean of Faculty of Architecture and Design  
Bahçeşehir University

(和訳)

「アンタキヤの歴史的都市景観の復興」プロジェクトに参加したことは、私にとって仕事上および個人的にも非常に充実した経験となりました。本プロジェクトは、武庫川女子大学とバフチェシヒル大学の協力のもと、日本の文化庁の助成を受けて実施されました。その目的は、アンタキヤの歴史的市街地の再建に向けて、トルコ人若手研究者に技術的知識を伝え、現地調査から設計提案に至るまでのプロセス全体を通じて彼らの能力を向上させることでした。

プロジェクトでは、アンタキヤの歴史的および考古学的景観を詳細に分析し、過去から現在に受け継がれてきた価値を保存することを目指しました。加えて、建物の耐震性評価は、将来的な補強や設計方針を決定する上で極めて重要な役割を果たしました。構造分析と並行して、地元住民の望みを把握するための包括的な調査も実施され、その結果、住民が都市の歴史的記憶に強い愛着を持ち、プロジェクトへの積極的な参加を望んでいることが明らかになりました。

設計段階では、アンタキヤの独自の建築的特徴を保持しつつ、現代的な都市デザイン戦略の開発が進められました。本プロジェクトの目的は、文化遺産の保存、質の高い都市景観の創造、そして耐震性の向上、のバランスをとることにありました。日本の専門家の指導のもと、伝統的な建築材料の再利用が奨励され、特に石材などの地元の材料が持つ耐震性の利点が強調されました。技術移転を強化するために、トルコ人若手研究者は現地調査や集中的な技術研修セッションに参加しました。これにより、日本の建築学部における伝統的な修復技術から現代の工学的アプローチまで、幅広い専門知識が共有されました。特に、耐震工学に関する詳細な研修は、トルコの歴史的市街地の再建にとって極めて貴重な知見を提供しました。

これらの成果は、「アンタキヤの歴史的都市景観の復興」シンポジウムにおいて発表され、国際的な学術協力の成果として高く評価されました。本イベントでは、両大学の研究者たちが、アンタキヤ再建のための設計提案や研究成果を発表しました。特に、日本の専門家による伝統的な建築技術に関する知見は、トルコの学术界や地方行政にとって非常に貴重なものとなりました。本プロジェクトを通じて私自身が得た気づきとして、歴史的都市景観を再解釈する上で国際的な建築協力が果たす役割の重要性を改めて確認しました。こうした取り組みを通じて若手研究者が得た経験は、今後トルコ全土での都市保存プロジェクトの指針となると確信しています。この意味で、アンタキヤプロジェクトは単なる学術的研究にとどまらず、歴史的都市の再建のための持続可能なモデルとして捉えられるべきです。

本プロジェクトの社会的貢献も、学術的・技術的な成果と同等に重要でした。地元住民のニ

ーズや望みを理解するための現地調査は、住民の意識向上につながり、彼らが自らの文化遺産を守る意欲を高めるきっかけとなりました。調査や直接のインタビューから、住民が物理的な建築物の保存だけでなく、文化的アイデンティティの維持にも強い関心を持っていることが明らかになりました。日本とトルコの研究者が提案した解決策は、地方自治体やNGOにとって貴重な指針となり、今後同様のプロジェクトを進める際の有効なモデルとなるでしょう。さらに、トルコ人若手研究者が本プロジェクトで得た知識と技術は、学術分野にとどまらず、実際の保存活動にも直接役立ち、歴史的都市の保存・再建に携わる将来の専門家の育成に貢献することが期待されます。

本プロジェクトは単なる都市デザインの取り組みにとどまらず、文化遺産に対する社会的意識を高め、その継承を次世代へと確実に引き継ぐためのプロセスとなりました。

教授 ムラツ・ドゥンダル  
建築デザイン学部長  
バフチェシヒル大学

## 2-7. 相手国における報道等

(1) DHA (Demirören Haber Ajansı) デミローレン通信社

<https://www.dha.com.tr/gundem/japon-mimarlardan-antakyanin-yeniden-insa-ve-ihyasi-icin-tarihi-doku-vurgusu-2535040>

# Japon mimarlardan, Antakya'nın yeniden inşa ve ihyası için 'tarihi doku' vurgusu

6 Şubat 2023 depremlerinden en çok etkilenen kentlerden biri olan Hatay Antakya'nın tarihi ve kültürel dokusunun korunarak yeniden inşası için Japon mimarlar açıklamalarda bulundu. Bahçeşehir Üniversitesi (BAU) ve Mukogawa Üniversitesi (MWU) iş birliğiyle yürütülen 'Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası' projesi kapsamında, Japon akademisyenler Antakya'nın yeniden inşasında tarihi dokuya uygun yapının, Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı ile uyumunun önemli olduğunu söyledi.

20.11.2024 - 11:32 | Son Güncellenme: 20.11.2024 - 11:32| İSTANBUL,(DHA)-



Binlerce yıllık tarihi yapıların bulunduğu Hatay'ın yeniden inşası nedeniyle BAU Mimarlık ve Tasarım Fakültesi Dekanı Prof. Dr. Murat Dünder'in öncülüğünde iş birliği gerçekleşti. Japonya'nın Mukogawa Üniversitesi Mimarlık Fakültesi ve BAU depremden iki ay sonra 'Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası' akademik çalışmasını başlattı. Japonya'nın Kültür Bakanlığı'na bağlı Kültür İşleri Ajansı'nın sağladığı hibe desteğiyle yürütülen proje, 1,5 yılda sonuçlandı. Proje kapsamındaki bulgular ve çözüm önerileri Bahçeşehir Üniversitesi Beşiktaş Kampüsü'nde düzenlenen seminerde açıklandı.

Japonya İstanbul Başkonsolosu Kenichi Kasahara ve her iki üniversiteden akademisyen ve öğrencilerin katılımıyla gerçekleşen etkinlikte, afetlere hazırlığın bir ‘beka meselesi’ olduğu da ifade edildi.



## **YANAGISAWA: KENTLERİN YENİDEN İNŞASINDA GELENEKSEL MALZEMELER KULLANILMALI**

MWU Mimarlık Bölüm Başkanı Japon akademisyen Prof. Dr. Kazuhiko Yanagisawa, tarihi kentlerin yeniden inşasında ucuz maliyetli beton yerine kesme taş gibi geleneksel malzemelerin kullanılması gerektiğini belirterek “Tarihi yapılar sadece görsellik değil, kimliktir. Kentin doğal coğrafi unsurları olan Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı ile uyumlu bir yapılaşma planlanmalı. Bu unsurları göz ardı eden yapılaşmadan kaçınılmalıdır” dedi.



## **YAMAMOTO: JAPONYA’DA YAŞANAN BÜYÜK DEPREMLERDEN YOLA ÇIKILMALI**

Prof. Dr. Chikashi Yamamoto ise Japonya’da yaşanan büyük depremlerden edinilen derslerden yola çıkarak yeniden inşa edilen kentlerin birbirine benzemesini eleştirdi. Antakya’nın yeniden inşasıyla ilgili konuşan Yamamoto, “Kentler birbirinin aynısı olmamalı, her biri kendi tarihini ve karakterini

yansıtmalı. Antakya'nın tarihi dokusuna uygun olarak hazırlanan animasyonlu projemiz bu vizyonu yansıtır” dedi.



## TARİHİ TAŞ YAPILARDA GÜÇLENDİRME ÖNERİSİ

Tarihi yapıların nasıl onarılacağı konusunda sunum yapan Japon mimar Prof. Dr. Shigeki Tosu, Antakya'daki tarihi taş evlerin bağlantı malzemelerinin depreme dayanıklı hale getirilmesi gerektiğini ifade ederek şunları söyledi: “Çamur kerpiç harcının zayıf bir bağlayıcı olduğunu tespit ettik. Tarihi taş yapılarda çimentolar ve demir ile güçlendirilmiş katmanlar kullanılmalı. Böylelikle yapılar hem tarihi dokusunu koruyacak hem de daha güvenli hale gelecektir.”

## ANTAKYA’NIN MAKET VE ANİMASYONU HAZIRLANDI

‘Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası’ projesi kapsamında Japon ve Türk öğrenciler birlikte çalışarak Antakya'nın cadde ve sokaklarını ayrıntılı animasyon ve maketlerle hazırladı. Çalışmada, Antakya'nın doğal ve tarihi unsurlarına sadık kalınarak depreme güçlendirilmiş yapı önerileri geliştirildi. Ayrıca seminerde proje bulguları ve çözüm önerileri paylaşıldı.

(和訳)

「日本の建築家たち、アンタキヤの再建と復興のために『歴史的景観』を強調」

2023年2月6日の地震で最も被害を受けた都市の一つであるハタイ県アンタキヤについて、その歴史的・文化的景観を保ちながら再建を進めるために日本の建築家たちが声明を発表しました。バフチェシヒル大学（BAU）と武庫川女子大学（MWU）の協力のもと進められている「災害で被害を受けた都市の歴史的・文化的景観の復興」プロジェクトの一環として、日本の学者たちは、アンタキヤの再建において歴史的景観に適合した建築が重要であること、また、アシ川やハビビ・ネッジャー山との調和が不可欠であると述べました。

2024年11月20日 11:32 | 最終更新: 2024年11月20日 11:32 | イスタンブール (DHA)

数千年の歴史的建造物が存在するハタイの再建に向け、バフチェシヒル大学（BAU）建築・デザイン学部のムラツ・ドゥンダル教授の指導のもと、協力が行われました。日本の武庫川女子大学建築学部と BAU は、地震発生から 2 か月後に「災害で被害を受けた都市の歴史的・文化的景観の復興」に関する学術研究を開始しました。このプロジェクトは、日本の文化庁からの委託を受け、1 年半で成果を収めました。

プロジェクトの調査結果と解決策は、バフチェシヒル大学ベシクタシュキャンパスで開催されたシンポジウムで発表されました。このイベントには、日本の笠原謙一イスタンブール総領事、学者や学生たち等が参加し、災害への備えが「存続に関わる重要な課題」であることも強調されました。

柳沢教授: 都市の再建には伝統的な材料を使用すべき

武庫川女子大学建築学科長である日本の建築学者、柳沢和彦教授は、歴史的な都市の再建において、安価なコンクリートではなく切石のような伝統的な材料を使用する必要があると述べました。「歴史的な建築物は単なる見た目だけでなく、その都市のアイデンティティそのものです。アシ川やハビビ・ネッジャー山といった自然地理要素と調和する建設計画を立てられるべきです。これらの要素を無視した建設は避けなければなりません」と強調しました。

山本教授: 日本の大地震から得た教訓を活かすべき

山本親教授は、日本で発生した大地震から得た教訓を基に再建された都市が画一的になることを批判しました。アンタキヤの再建について触れた山本教授は、「都市は互いに同じであってはならず、それぞれが独自の歴史と特徴を反映すべきです。我々が提案したアンタキヤの歴史的景観に適合したアニメーションのプロジェクトは、このビジョンを体現しています」と述べました。

歴史的石造建築における補強の提案

アンタキヤの歴史的建築物の修復方法についてプレゼンテーションを行った日本の建築家、鳥巢茂樹教授は、歴史的石造りの家屋の接合材を地震に強いものにする必要があると述べました。彼は次のように指摘しました。「私たちは、土とわらで作られた伝統的な接合材（泥土モルタル）が弱い結合材であることを確認しました。歴史的な石造建築には、セメントや鉄で強化された層を取り入れるべきです。これにより、建物は歴史的な景観を保ちながら、より安全なものになります。」

アンタキヤの模型とアニメーションが制作される

「災害で被害を受けた都市の歴史的・文化的景観の復興」プロジェクトの一環として、日本とトルコの学生や若手研究者が協力し、アンタキヤの街路や路地を詳細なアニメーションと模型で再現しました。この作業では、アンタキヤの自然のおよび歴史的な要素を忠実に再現しながら、地震に耐えうる建築提案が開発されました。また、シンポジウムではプロジェクトの調査結果と解決策が共有されました。

<https://antakyagazetesi.com/antakyanin-ihyasi-icin-japon-onerileri/>

# Antakya'nın ihyası için Japon önerileri

Giriş: 20-11-2024 13:27 Kaynak: Volkan İcil Hatay

Hatay Antakya'nın tarihi ve kültürel dokusunu koruyarak yeniden inşa etmek için Japon ve Türk mimarların iş birliğiyle hazırlanan proje, geleneksel malzeme kullanımından animasyonlu projelere kadar birçok öneri sunuyor.

## Tarihi Doku İçin Uluslararası İş Birliği

6 Şubat 2023 depremlerinde büyük zarar gören Hatay Antakya'nın tarihi ve kültürel kimliğini koruyarak yeniden inşa edilmesi amacıyla Japon ve Türk mimarlar ortak bir projeye imza attı. Bahçeşehir Üniversitesi (BAU) ve Japonya'daki Mukogawa Üniversitesi'nin (MWU) iş birliğiyle hayata geçirilen proje, kentlerin tarihi yapısını canlandırma ve afetlere dayanıklı hale getirme vizyonunu ortaya koyuyor.

## “Doğal Coğrafya İle Uyum Şart”

### Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı'na uyumlu yapılaşma

Mukogawa Üniversitesi Mimarlık Fakültesi Bölüm Başkanı Prof. Dr. Kazuhiko Yanagisawa, “Antakya'nın yeniden inşasında kesme taş gibi geleneksel malzemeler kullanılmalı” dedi. Yanagisawa, ucuz maliyetli beton kullanımının tarihi dokuyu zedeleyebileceğini belirterek, kentin doğal coğrafi unsurları olan Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı'yla uyumun göz ardı edilmemesi gerektiğini vurguladı.

## Japonya'nın Deneyiminden İlham Alındı

### “Kentler birbirinin aynısı olmamalı”

Japon akademisyen Prof. Dr. Chikashi Yamamoto, Japonya'daki büyük depremler sonrası yapılan çalışmalardan edinilen derslerin Antakya'da da dikkate alınması gerektiğini ifade etti. Yamamoto, “Tarihi dokular sadece birer görsel öge değil, birer kimliktir. Antakya, kendi tarihini ve karakterini yansıtmalıdır” diye konuştu. Hazırlanan animasyonlu projelerde de bu vizyonun ön planda tutulduğu belirtildi.

## Tarihi Yapılarda Güçlendirme Teknikleri

### Tarihi taş yapılar nasıl güçlendirilmeli?

プロジェクト kapsamında tarihi yapıların güçlendirilmesine yönelik öneriler de paylaşıldı. Japon mimar Prof. Dr. Shigeki Tosu, “Tarihi taş evlerde çamur kerpiç harcı yerine çimento ve demirle güçlendirilmiş katmanlar kullanılmalı” dedi. Bu yöntemin, hem tarihi dokuyu koruyacağını hem de yapıların depreme dayanıklılığını artıracığını ifade etti.

## Animasyonlu Antakya Projesi Hazırlandı

### “Geleceğin Antakya’sı için detaylı maketler ve animasyonlar”

Japon ve Türk öğrencilerin iş birliğiyle hazırlanan Antakya animasyonu, kentin sokak ve caddelerini detaylı şekilde yeniden canlandırdı. Çalışmada, doğal ve tarihi unsurlar korunarak, depreme güçlendirilmiş yapı önerileri geliştirildi. Seminerde, proje bulguları ve çözüm önerileri geniş bir katılımı paylaşıldı.

Muhabir: Volkan İCİL

(和訳)

「アンタキヤの復興に向けた日本の提案」

発表日：2024年11月20日 13:27 情報提供：ヴォルカン・イジル 場所：ハタイ

ハタイ・アンタキヤの歴史のおよび文化的な特徴を保ちながら再建するために、日本とトルコの建築家が協力して準備したプロジェクトは、伝統的な材料の使用からアニメーションプロジェクトに至るまで、多くの提案を提供しています。

### 歴史的景観のための国際協力

2023年2月6日の地震で大きな被害を受けたハタイ・アンタキヤの歴史のおよび文化的アイデンティティを保ちながら再建することを目的に、日本とトルコの建築家が共同プロジェクトを立ち上げました。このプロジェクトは、バフチェシヒル大学 (BAU) と日本の武庫川女子大学 (MWU) の協力により実現され、都市の歴史的構造を復活させ、災害に強い街づくりを目指すビジョンを提案しています。

### 自然地形との調和が必須

#### アシ川とハビビ・ネッジャー山に調和した建築

武庫川女子大学建築学部の柳沢和彦教授は、「アンタキヤの再建には切石などの伝統的な材料を使用すべきだ」と述べました。また、低コストのコンクリートの使用が歴史的景観を損なう可能性があるとして指摘し、都市の自然地理的要素であるアシ川とハビビ・ネッジャー山との調和を軽視してはならないと強調しました。

### 日本の経験からのインスピレーション

“都市は互いに同じであってはならない”

日本の学者である山本親教授は、日本での大地震後に行われた取り組みから得られた教訓をアンタキヤでも活かすべきだと述べました。山本教授は、「歴史的な景観は単なる視覚的な要素ではなく、アイデンティティそのものです。アンタキヤは自らの歴史と個性を反映すべきです」と語りました。また、準備されたアニメーションのプロジェクトにおいても、このビジョンが重視されていることが指摘されました。

#### 歴史的建造物における補強技術

歴史的な石造りの建物をどのように補強すべきか？

プロジェクトの一環として、歴史的建造物の補強に関する提案も共有されました。日本の建築家である鳥巢茂樹教授は、「歴史的な石造りの家では、泥や日干しレンガの代わりに、セメントと鉄で強化された層を使用すべきだ」と述べました。この方法が、歴史的景観を保ちながら、建物の耐震性を向上させると説明しました。

#### アンタキヤのアニメーションプロジェクトが完成

“未来のアンタキヤのための詳細な模型とアニメーション”

日本とトルコの学生たち等の協力によって制作されたアンタキヤのアニメーションは、街の通りや大通りを詳細に再現しました。この取り組みでは、自然および歴史的要素を保護しつつ、地震に耐えうる建築提案が展開されました。シンポジウムでは、プロジェクトの成果と解決策が幅広い参加者と共有されました。

記者：ヴォルカン・イジル

<https://antakyagazetesi.com/antakyanin-tarihi-ve-kulturel-dokusu-icin-uluslarasi-is-birligi/>

# Antakya'nın Tarihi ve Kültürel Dokusu İçin Uluslararası İş Birliği

6 Şubat depremi sonrasında Antakya'nın tarihi ve kültürel dokusunun korunarak yeniden inşa edilmesi amacıyla Bahçeşehir Üniversitesi (BAU) ve Mukogawa Üniversitesi (MWU) arasında önemli bir işbirliği başladı. "Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası" başlıklı projede, Japon akademisyenler Antakya'nın yeniden inşasında tarihi dokuya uygun yapıların önemine dikkat çekiyor.

Giriş: 22-11-2024 14:31 Kaynak: Yusuf Cemil Karaçay Hatay



## Japon uzmanlardan depremin yığıntı kentlere akademik destek

Bahçeşehir Üniversitesi ve Japonya Mukogawa Üniversitesi iş birliğiyle "Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası" projesi hayata geçiriliyor.

BAU Rektörü Prof. Dr. Esra Hatipoğlu'nun makamında kabul ettiği heyete, Türkiye'deki çalışmalarda BAU Mimarlık ve Tasarım Fakültesi Dekanı Prof. Dr. Murat Dünder (sol başta) eşlik ediyor.

6 Şubat 2023'te yaşanan büyük felaketten sonra, Antakya'nın tarihi ve kültürel dokusunun korunarak yeniden inşa edilmesi için önemli bir adım atıldı. Bahçeşehir Üniversitesi (BAU) ve Mukogawa Üniversitesi (MWU), Antakya'nın eski görkemli yapılarının zarar görmesinin ardından, tarihi yapıları hem yeniden inşa etmeyi hem de doğal çevreyle uyumlu hale getirmeyi hedefleyen bir proje başlattılar. Proje, özellikle Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı gibi yerel unsurların göz önünde bulundurulmasını vurguluyor.

### **“Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası” Projesi**

Bahçeşehir Üniversitesi ve Mukogawa Üniversitesi iş birliğiyle yürütülen projede, Japon akademisyenler tarafından, Antakya'daki tarihi yapıların yeniden inşasında kullanılacak malzemeler ve yöntemler üzerine bir dizi çalışma yapılmıştır. Proje, Japonya'nın Kültür Bakanlığı'na bağlı Kültür İşleri Ajansı tarafından sağlanan hibe desteğiyle hayata geçirildi. Mimarlık ve Tasarım Fakültesi Dekanı Prof. Dr. Murat Dünder'in öncülüğünde başlatılan akademik çalışmanın amacı, depremin ardından kenti yeniden ayağa kaldırırken, kültürel mirası korumak ve eski yapılarla uyumlu yeni yapılar tasarlamaktır. Projenin ilk bulguları, 1.5 yıl süren akademik çalışmalar sonunda açıklandı. Bahçeşehir Üniversitesi'nin Beşiktaş Kampüsü'nde düzenlenen seminerde, Japonya İstanbul Başkonsolosu Kenichi Kasahara ve her iki üniversitenin akademisyen ve öğrencilerinin katılımıyla yapılan sunumda, afetlere hazırlık konusunda ciddi bir uyarı yapıldı. Etkinlikte, afetlere hazırlığın bir “beka meselesi” olduğu vurgulandı.

### **Japon Akademisyenlerden Tarihi Yapılar İçin Önemli Tavsiyeler**

Projeye katılan Japon akademisyenler, Antakya'daki inşa sürecinde tarihî yapıları sadece görsel değil, kent kimliği olarak görmek gerektiğini belirttiler. MWU Mimarlık Bölüm Başkanı Prof. Dr. Kazuhiko Yanagisawa, tarihi kentlerin yeniden inşasında geleneksel malzemelere, özellikle kesme taş gibi dayanıklı ve estetik yapı malzemelerine öncelik verilmesi gerektiğini söyledi. Yanagisawa, ucuz maliyetli beton gibi modern malzemelerin, tarihi yapılarla uyumsuzluk yaratabileceğini belirterek, “Tarihi yapılar sadece görsellik değil, kimliktir. Bu kimlik, şehrin doğal coğrafi unsurları olan Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı ile uyumlu bir yapılaşma ile korunmalıdır,” dedi.

### **Proje Sonuçları ve Gelecek Perspektifi**

“Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası” başlıklı proje, Antakya'nın geleceğini şekillendirecek önemli bir adım olarak kayıtlara geçti. Japon ve Türk akademisyenlerin işbirliği ile elde edilen bulgular, sadece Antakya'nın değil, tüm afet bölgelerinin tarihi ve kültürel mirasını koruma yolunda bir rehber niteliği taşımaktadır. Projenin sonuçları, Hatay'ın yeniden inşasında önemli bir referans kaynağı olacaktır.

Antakya'nın tarihi ve kültürel dokusunun korunması için gerçekleştirilen bu işbirliği, Bahçeşehir Üniversitesi ve Mukogawa Üniversitesi'nin katkılarıyla tarihi mirası hem görsel hem de yapısal açıdan yeniden yapılandırmayı amaçlamaktadır. Bu işbirliği, afet sonrası kentleşme ve doğal coğrafi unsurlar ile uyumlu bir yapılaşma için önemli bir model oluşturuyor.

(和訳)

「アンタキヤの歴史的・文化的景観のための国際協力」

2月6日の地震後、アンタキヤの歴史的・文化的景観を保ちながら再建を進めるために、バフチェシヒル大学 (BAU) と武庫川女子大学 (MWU) の間で重要な協力が開始されました。「災害で被害を受けた都市の歴史的・文化的景観の復興」というプロジェクトの一環として、日本の学者たちは、アンタキヤの再建において歴史的景観に適合した建物の重要性を強調しています。

発表日: 2024年11月22日 14:31 情報提供: ユスフ・ジェミル・カラチャイ 場所: ハタイ

(写真下の文章)

「日本の専門家たちから地震で被害を受けた都市への学術支援」

バフチェシヒル大学 (BAU) と日本の武庫川女子大学の協力により、「災害で被害を受けた都市の歴史的・文化的景観の復興」プロジェクトが実現されつつあります。

BAUのエスラ・ハティポール教授 (学長) が自らの執務室で受け入れた代表団には、トルコでの取り組みを担当する BAU 建築デザイン学部長のムラツ・ドゥンダル教授 (写真左端) が同行しています。

2023年2月6日の大災害の後、アンタキヤの歴史的・文化的景観を保ちながら再建するための重要な一歩が踏み出されました。バフチェシヒル大学 (BAU) と武庫川女子大学 (MWU) は、アンタキヤの壮麗な歴史的建築物が損壊した後、それらを再建しつつ、自然環境と調和することを目指したプロジェクトを開始しました。このプロジェクトでは、特にアシ川やハビビ・ネッジャー山といった地域の特徴的要素を考慮することが強調されています。

「災害で被害を受けた都市の歴史的・文化的景観の復興」プロジェクト

バフチェシヒル大学と武庫川女子大学の協力で進められたこのプロジェクトでは、日本の学者たちがアンタキヤの歴史的建築物の再建に使用する材料や方法について研究を行いました。このプロジェクトは、日本の文化庁からの委託により実現しました。建築デザイン学部長であるムラツ・ドゥンダル教授の指導のもと始まったこの学術研究の目的は、地震後の都市再建において文化遺産を保護し、既存の建築物と調和する新たな建築物を設計することにあります。

学術研究は1年半にわたり実施され、その初期成果が発表されました。バフチェシヒル大学のベシクタシュキャンパスで開催されたシンポジウムでは、日本の笠原謙一イスタンブール総領事、学者や学生たち等が参加し、災害への備えについて真剣な警鐘が鳴らされました。このイベントでは、災害への備えが「存続に関わる重要な課題」であることが強調されました。

日本の学者による歴史的建築物への重要な提言

プロジェクトに参加した日本の学者たちは、アンタキヤの再建プロセスにおいて、歴史的建築物を単なる見た目だけでなく、都市のアイデンティティとして考慮すべきだと述べました。

MWU 建築学科長である柳沢和彦教授は、歴史的都市の再建において伝統的な建築材料、特に切石のような耐久性があり美観も兼ね備えた材料を優先する必要性を強調しました。また、柳沢教授は、安価なコンクリートのような現代的な材料は歴史的建築物との不調和を生じさせる可能性があるとして指摘し、「歴史的建築物は単なる視覚的なものではなく、都市のアイデンティティそのものです。このアイデンティティは、アシ川やハビビ・ネッジャー山といった自然地理的要素と調和する建築計画によって守られるべきです」と述べました。

#### プロジェクトの成果と今後の展望

「災害で被害を受けた都市の歴史的・文化的景観の復興」プロジェクトは、アンタキヤの未来を形作る重要な一歩として記録されます。日本とトルコの学者の協力によって得られた知見は、アンタキヤだけでなく、すべての災害地域の歴史的・文化的遺産を守るための指針となるものです。このプロジェクトの成果は、ハタイの再建において重要な参考資料となるでしょう。

アンタキヤの歴史的・文化的景観を保護するために行われたこの協力は、バフチェシヒル大学と武庫川女子大学の貢献により、歴史的遺産を視覚的にも構造的にも再構築することを目的としています。この協力関係は、災害後の都市開発や自然地理的要素と調和した建築計画のための重要なモデルとなっています。

(4) Sondakika.com ソンダキカ ドット コム (ニュースポータルサイト)

<https://www.sondakika.com/guncel/haber-japon-mimarlardan-antakya-nin-yeniden-insasi-icin-one-riler-18065271/>

# Japon Mimarlardan Antakya'nın Yeniden İnşası İçin Öneriler



Hatay Antakya'nın tarihi ve kültürel dokusunun korunarak yeniden inşası için Japon mimarların önerileri açıklandı. Proje, Bahçeşehir Üniversitesi ve Mukogawa Üniversitesi işbirliğiyle gerçekleştirildi.

20.11.2024 11:30 Güncelleme: 11:31

6 Şubat 2023 depremlerinden en çok etkilenen kentlerden biri olan Hatay Antakya'nın tarihi ve kültürel dokusunun korunarak yeniden inşası için Japon mimarlar açıklamalarda bulundu. Bahçeşehir Üniversitesi (BAU) ve Mukogawa Üniversitesi (MWU) iş birliğiyle yürütülen 'Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası' projesi kapsamında, Japon akademisyenler Antakya'nın yeniden inşasında tarihi dokuya uygun yapının, Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı ile uyumunun önemini söyledi.

Binlerce yıllık tarihi yapıların bulunduğu Hatay'ın yeniden inşası nedeniyle BAU Mimarlık ve Tasarım Fakültesi Dekanı Prof. Dr. Murat Dünder'in öncülüğünde iş birliği gerçekleşti. Japonya'nın Mukogawa Üniversitesi Mimarlık Fakültesi ve BAU depremden iki ay sonra 'Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası' akademik çalışmasını başlattı. Japonya'nın Kültür Bakanlığı'na bağlı Kültür İşleri Ajansı'nın sağladığı hibe desteğiyle yürütülen proje, 1.5 yılda sonuçlandı. Proje kapsamındaki bulgular ve çözüm önerileri Bahçeşehir Üniversitesi Beşiktaş Kampüsü'nde düzenlenen seminerde açıklandı.

Japonya İstanbul Başkonsolosu Kenichi Kasahara ve her iki üniversiteden akademisyen ve öğrencilerin katılımıyla gerçekleşen etkinlikte, afetlere hazırlığın bir 'beka meselesi' olduğu da ifade edildi.

### **YANAGİSAWA: KENTLERİN YENİDEN İNŞASINDA GELENEKSEL MALZEMELER KULLANILMALI**

MWU Mimarlık Bölüm Başkanı Japon akademisyen Prof. Dr. Kazuhiko Yanagisawa, tarihi kentlerin yeniden inşasında ucuz maliyetli beton yerine kesme taş gibi geleneksel malzemelerin kullanılması gerektiğini belirterek "Tarihi yapılar sadece görsellik değil, kimliktir. Kentin doğal coğrafi unsurları olan Asi Nehri ve Habib-i Neccar Dağı ile uyumlu bir yapılaşma planlanmalı. Bu unsurları göz ardı eden yapılaşmadan kaçınılmalıdır" dedi.

### **YAMAMOTO: JAPONYA'DA YAŞANAN BÜYÜK DEPREMLERDEN YOLA ÇIKILMALI**

Prof. Dr. Chikashi Yamamoto ise Japonya'da yaşanan büyük depremlerden edinilen derslerden yola çıkarak yeniden inşa edilen kentlerin birbirine benzemesini eleştirdi. Antakya'nın yeniden inşasıyla ilgili konuşan Yamamoto, "Kentler birbirinin aynısı olmamalı, her biri kendi tarihini ve karakterini yansıtmalı. Antakya'nın tarihi dokusuna uygun olarak hazırlanan animasyonlu projemiz bu vizyonu yansıtıyor" dedi.

### **TARİHİ TAŞ YAPILARDA GÜÇLENDİRME ÖNERİSİ**

Tarihi yapıların nasıl onarılacağı konusunda sunum yapan Japon mimar Prof. Dr. Shigeki Tosu, Antakya'daki tarihi taş evlerin bağlantı malzemelerinin depreme dayanıklı hale getirilmesi gerektiğini ifade ederek şunları söyledi: "Çamur kerpiç harcının zayıf bir bağlayıcı olduğunu tespit ettik. Tarihi taş yapılarda çimentolar ve demir ile güçlendirilmiş katmanlar kullanılmalı. Böylelikle yapılar hem tarihi dokusunu koruyacak hem de daha güvenli hale gelecektir."

### **ANTAKYA'NIN MAKET VE ANİMASYONU HAZIRLANDI**

'Afetlerde Zarar Gören Kentlerin Tarihi ve Kültürel Dokusunun İhyası' projesi kapsamında Japon ve Türk öğrenciler birlikte çalışarak Antakya'nın cadde ve sokaklarını ayrıntılı animasyon ve maketlerle hazırladı. Çalışmada, Antakya'nın doğal ve tarihi unsurlarına sadık kalınarak depremle güçlendirilmiş yapı önerileri geliştirildi. Ayrıca seminerde proje bulguları ve çözüm önerileri paylaşıldı.

Kaynak: DHA

(和訳)

「アンタキヤ再建に向けた日本人建築家の提案」

ハタイ・アンタキヤの歴史的および文化的な景観を保ちながら再建するための日本人建築家の提案が発表されました。このプロジェクトは、バフチェシヒル大学と武庫川女子大学の協力によって実施されました。

2024年11月20日 11:30 更新: 11:31

(以下は DHA の記事と同じ)

出典: DHA

---

文化庁 令和6年度文化遺産国際協力拠点交流事業  
「トルコ共和国における歴史的市街地の復興に関する拠点交流事業」  
委託業務成果報告書

令和7年3月

武庫川女子大学建築学部

〒663-8121 兵庫県西宮市戸崎町 1-13 URL <https://arch.mukogawa-u.ac.jp/>

---

